

若シ人ニ於ケル錯誤アル時ハ夫婦中ニテ其錯誤ニ引入ラレタル者ニ非サレハ其婚姻ノ取消ヲ訴フルコトヲ得ス(民一四六、一九九、二〇九ヨリ一一二ニ至ル刑三五七)

第百八拾壹條 前條ノ場合ニ於テ夫婦ノ其完全ノ自由ヲ得又ハ其錯誤ヲ認知シタル時ヨリ六月間繼續シテ同居シタル時ハ最早婚姻ノ無効ニ於ケル訴求ヲ受理ス可カラス(民一八五)

第百八拾貳條 父母尊屬親又ハ親族會議ノ許諾ノ必要ナル場合ニ於テ其許諾ヲ得スシテ契約シタル婚姻ハ其許諾ヲ爲ス可キ者又ハ夫婦中ニテ其許諾ヲ要スル者ニ非サレハ其取消ヲ訴フルコトヲ得ス(民一四八、一八三、二〇二)

第百八拾三條 婚姻ノ許諾ヲ爲ス可キ者ノ其婚姻ヲ明認又ハ默認ヲ以テ認可シタル時又ハ其者ノ婚姻ヲ知リタル後自己ノ方ヨリ訴ヲ爲スコトナク一年ヲ經過セシメタル時ハ夫婦又ハ婚姻ノ許諾ヲ爲ス可キ血屬親ヨリ最早無効ニ於ケル訴ヲ起スコトヲ得ス○夫婦中一方ノ者ノ自カラ其婚姻ヲ承諾スル爲メニ適當ナル齡ニ達セシ後自己ノ方ヨリ訴ヲ爲スコトナク一年ヲ經

過セシメタル時ハ亦其一方ノ者ヨリ最早無効ニ於ケル訴ヲ起スコトヲ得ス

第百八拾四條 凡ソ第百四十四條第百四十七條第百六十一條第百六十二條第百六十三條ニ記シタル成規ニ違背シテ契約シタル婚姻ハ夫婦自身若クハ其婚姻取消ニ付キ利益ヲ有スル各人若クハ檢察官ヨリ其取消ヲ訴フルコトヲ得可シ(民三三、六三、七〇、七二、八五、一八七、一九〇、二三〇、二三二)

第百八拾五條 然レ必要ノ年齢ニ未ダ達セザリシ夫婦雙方又ハ其一方ノ契約シタル婚姻ハ左ノ場合ニ於テハ最早之ヲ取消サント訴フルコトヲ得ス

第一 夫婦中其一方又ハ雙方ノ其適當ノ年齢ニ達セシ時ヨリ六月ヲ經過セシメタル時

第二 其年齢ニ達セサル婦ノ六月ヲ經過セサル前ニ懐胎シタル時(民一四四)

第百八拾六條 前條ノ場合ニ於テ契約セシ婚姻ヲ許諾シタル父母尊屬親及ヒ親族ハ其取消ヲ訴求スルコトヲ許サス

第百八拾七條 第百八十四條ニ從ヒ婚姻取消ニ付キ利益ヲ有スル各人ヨリ

其無効ニ於ケル訴ヲ起スヲ得可キ總テノ場合ニ於テ傍系親又ハ前婚ノ子ハ夫婦ノ生存中ニ其訴ヲ起スヲ得ス然レモ其婚姻取消ニ付キ一箇ノ發生シタル現在ノ利益ヲ有スル時ノミニ於テハ其訴ヲ起スヲ得可シ(民一八四)

第百八拾八條 夫婦中一方ノ者ノ再婚ヲ契約シタルカ爲メニ損害ヲ被リシ他ノ一方ノ者ハ自己ト結婚シタル配偶者ノ生存中ト雖モ其再婚ノ無効ヲ請求スルコトヲ得可シ(民一三九、一四七)

第百八拾九條 若シ再婚ノ夫婦カ前婚ノ無効ヲ述ヘテ對抗スル時ハ先ツ其前婚ノ有效ナルヤ又ハ無効ナルヤヲ裁判セサル可カラズ

第百九拾條 檢事ハ第百八十四條ヲ適用ス可キ總テノ場合ニ於テハ第百八十五條ニ記シタル改嫁ニ從ヒ夫婦ノ生存中ニ其婚姻ノ無効ヲ請求シテ其夫婦ヲ離別セシムルノ言渡ヲ爲サシムルコトヲ得可ク又之ヲ爲サシメサルヲ得ス(民一九九)

第百九拾壹條 凡ソ公ケニ契約セス及ヒ該管役員ノ面前ニ於テ行ハサル婚

姻ハ夫婦自身又ハ父母尊屬親及ヒ其婚姻取消ニ付キ一箇ノ發生シタル現在ノ利益ヲ有スル各人並ニ檢察官ヨリ其取消ヲ訴フルコトヲ得可シ(民七五、七六一、六五)

第百九拾貳條 若シ婚姻ヲ爲スニ付キ預メ必要ナル二次ノ公告ヲ爲サハル時又ハ法律ニ依リ許サレタル免除ヲ得サル時又ハ公告ヲ爲シ及ヒ婚姻ヲ行フニ付キ定メタル時間ヲ遵守セサル時ハ檢事ヨリ公ケノ役員ニ對シテ三百フランクニ過クルコトヲ得サル罰金ヲ宣告セシメ又婚姻ヲ契約シタル者又ハ其者ヲ指令シタル者ニ其家産ニ准シタル罰金ヲ宣告セシム可シ(民六三一、六六)

第百九拾三條 總テ第百六十五條ニ定メタル規則ニ違背シタル時ハ假令其違背ノ爲メ婚姻ノ無効ヲ宣告セシムルニ足ル可シト裁定セラレサル時ト雖モ前條ニ指定シタル各人ハ同條ニ定ムル所ノ罰ヲ受ク可シ(民七四、七五、一六五)

第百九拾四條 何人ニ限ラズ身分證書ノ簿冊ニ記入シタル婚姻ヲ行ヒタル

ノ證書ヲ差出サ、ル時ハ夫婦タルノ名義ト婚姻ノ民法上ノ效トヲ得ント
求ムルヲ得ス但シ身分證書ノ卷第四十六條ニ記シタル場合ハ格別ナリ
トス(民四〇四六)

第百九拾五條 身分ノ占有ハ各自其身分ヲ申立テ夫婦ナリト稱言スル者ヲ
シテ身分取扱役ノ面前ニ於テ婚姻ヲ行ヒタルノ證書ヲ差出スヲ免カレ
シムルヲ得ス(民一九六一九七三二)

第百九拾六條 身分ノ占有アリテ且ツ身分取扱役ノ面前ニ於テ婚姻ヲ行ヒ
タルノ證書ヲ差出シタル時ハ夫婦ハ各自其證書ノ無效ヲ認求スルヲ許
サス(民一九四一九五三二)

第百九拾七條 若シ然レ第百九十四條及ヒ第百九十五條ノ場合ニ於テ公ケ
ニ夫婦ナリトシテ生活シタル二人ノ間ニ擧ケタル子ノ生存シテ其二人ノ
共ニ死去セシ時身分ノ占有ニ依リ其子ノ適法ノモノタルノ証アリテ其出
産證書ニ其身分ノ占有ニ反シタル証ヲ記セサルニ於テハ其婚姻ヲ行ヒタ
ルノ證書ヲ差出サ、ルヲ以テ口實トナシ其子ノ適法ノモノタルヲ

ヲ爭フヲ得ス(民三一九以下)

第百九拾八條 若シ刑事訴訟ノ成果ニ依リ法ニ適シテ婚姻ヲ行ヒタルノ證
ヲ獲得シタル時ハ其裁判書ヲ身分證書ノ簿冊ニ記入スルヲ以テ其夫婦
並ニ其婚姻ニ依リ生レシ子ニ關シ其婚姻ヲ行ヒシ日ヨリ起算シテ總テ民
法上ノ效ヲ其婚姻ニ確保スルモノトス(民四〇以下九九以下三二六三二七)

第百九拾九條 若シ夫婦雙方又ハ一方ノ者カ詐欺ヲ發見セシテ死去シタ
ル時ハ其婚姻ヲ有效ノモノナリト言渡サシムルニ付ヤ利益ヲ有スル各人
及ヒ檢事ヨリ刑事ノ訴ヲ起スヲ得可シ(民一九〇一九二三二六三二七)

第貳百條 若シ詐欺發見ノ時公ケノ役員ノ既ニ死去シタルニ於テハ關係各
人ノ告發ニ依リ其面前ニ於テ檢事ヨリ其役員ノ相續人ニ對シテ民事上ノ
訴ヲ起ス可シ(民七二四)

第貳百壹條 無効ナリト言渡サレタル婚姻ト雖モ善意ヲ以テ之ヲ契約シタ
ル時ハ夫婦並ニ其子ニ關シテ民法上ノ效ヲ生スルモノトス(民一四四一四七一
六二二六三二六三)

第貳百貳條 若シ夫婦中一方ノ者ノミニ善意ノ存在スル時ハ其婚姻ハ其一方ノ者及ヒ其婚姻ニ依リ生レシ子ノミノ利益ニ於テ民法上ノ效ヲ生スルモノトス

○第五章 婚姻ヨリ生スル義務

第貳百三條 夫婦ハ婚姻ノ所爲ノミニ依リ相共ニ其子ヲ給養保育教訓スルノ義務ヲ負フモノトス(民ニ。五三。八三三三七三八四三八五七五八五二一一六六二二三五一四。九一四四八二五五八二九九九)

第貳百四條 子ハ婚姻ニ依リ又ハ其他ノ方法ニ依レル定業ノ爲メ其父母ニ對シテ訴權ヲ有セス

第貳百五條 子ハ窮乏ナル父母及ヒ其他ノ尊屬親ニ養料ヲ給ス可シ(民ニ。七二。八二。九二二。五三七一六六一二。三二二一八二二五二一九三二五九八五八二)

第貳百六條 婿及ヒ媳ハ前條ト同一ノ景況ニ於テハ亦其舅姑ニ養料ヲ給ス可シ然レ左ノ場合ニ於テハ其義務止息スルモノトス

第一 姑ノ再婚シタル時

第二 其姻縁ヲ生セシメタル夫婦中ノ一方及ヒ其配偶者トノ結婚ニ依リ擧ケタル子ノ死去セシ時(民ニ。五)

第貳百七條 右ノ成規ヨリ生スル義務ハ相互ノモノトス

第貳百八條 養料ハ之ヲ得ント求ムル者ノ窮乏ト之ヲ給ス可キ者ノ家産トノ割合ノミヲ以テ之ヲ附與ス可シ(民ニ。五三。九)

第貳百九條 若シ養料ヲ給スル者ノ最早其全部又ハ一部ヲ給與スルヲ能ハサル景況ニ至リ又ハ養料ヲ受クル者ノ最早其全部又ハ一部ヲ受クルヲ要セサル景況ニ至リシ時ハ其養料ノ免除又ハ減少ヲ認求スルヲ得可シ

第貳百拾條 養料ヲ給セサル可カラサル人ノ之ヲ辨濟スルヲ能ハサル旨ヲ證明スル時ハ裁判所ニ於テ其原由ヲ取調タル上養料ヲ受ク可キ者ヲ其住居ニ引取リテ之ヲ給養保育ス可キヲ命令スルヲ得可シ(民一一四二)

第貳百拾壹條 裁判所ニ於テハ父又ハ母カ其養料ヲ給ス可キ子ヲ己レノ住居ニ引取リテ給養保育ス可キヲ供陳スル時ハ此場合ニ於テ其養料ヲ辨濟スルヲ免除セサル可カラサルヤ否ヲ前ニ同シク宣告ス可シ

○第六章 夫婦相互ノ權利及ヒ本分

第貳百拾貳條 夫婦ハ互ニ貞實ニシテ扶持扶助ス可シ(民ニ〇三二三八八)

第貳百拾三條 夫ハ其婦ヲ保護シ婦ハ其夫ニ聽順ス可シ

第貳百拾四條 婦ハ其夫ト居ヲ同ウシ且ツ夫ノ居住スルヲ適當ナリト思考スル各地ニ隨行スルノ義務アリ又夫ハ其婦ヲ容接シテ己レノ資産ト身分トニ應シ生計ノ需用ニ必要ナル諸件ヲ其婦ニ給スルノ義務アリ(民ニ二二三二一三二三八八、二四四八一五三七)

第貳百拾五條 婦ハ公ケノ商人ナル時又ハ財産ヲ共通セス又ハ財産ヲ離分シタル時ト雖モ其夫ノ許可ナクシテ裁判所ニ於テ訴訟ヲ爲スヲ得ス(民一〇八三二七三二一八三二二三二五二三八八、二四四九一五四九一五七六二一八五二二〇八三二一三〇、三四四三四五四四三、四五六七五六)

第貳百拾六條 婦ノ重罪又ハ警察ノ事項ニ付キ訴ヲ受ケタル時ハ夫ノ許可ヲ必要トセス(民ニ一五二二一八)

第貳百拾七條 婦ハ財産ヲ共通セス又ハ財産ヲ離分シタルモノト雖モ其所

爲ニ於ケル夫ノ助成ナク又ハ書面ニ依レル夫ノ承諾ナクシテ贈與シ所有權ヲ移轉シ書入質ト爲シ又ハ無償ノ名義或ハ有償ノ名義ヲ以テ獲得スルヲ得ス(民ニ二四二二一八二一九七七六九〇、五九三三二〇二九一三三〇四一三三三三三八二三八一四〇、九二四二六二四二七二四三二二四四九一四九四二五三八一五七六一九九〇)

第貳百拾八條 若シ夫其婦ノ裁判所ニ於テ訴訟ヲ爲スヲ許可スルヲ否ム時ハ裁判官ヨリ其許可ヲ與フルヲ得可シ(民ニ一五二二一九三二二三二八六一以下)

第貳百拾九條 若シ夫其婦ノ一箇ノ證書ヲ記スルヲ許可スルヲ否ム時ハ婦其夫ヲ直接ニ共通住所ノ郡ノ始審裁判所ニ呼出サシムルヲ得可シ但シ其裁判所ニテハ裁判官會議室ニ於テ其夫ノ申述ヲ聽キタル上又ハ法ニ適シテ之ヲ召喚シタル上ニテ其許可ヲ與ヘ又ハ之ヲ否ムヲ得可キモノトス(民ニ一五二二一九三二二三二八六一以下)

第貳百貳拾條 婦ノ公ケノ商人ナル時ハ其夫ノ許可ナクシテ其商業ニ關スル事ニ付キ己レニ義務ヲ負フヲ得可シ但シ此場合ニ於テ夫婦ノ間ニ財産共通アル時ハ婦ハ其夫ニモ亦義務ヲ負ハシムルモノトス

婦ハ其夫ノ商品ヲ零賣スルノミニテハ公ケノ商人ト看做ス可カラス然レ
婦ノ別ニ商業ヲ爲ス時ノミ之ヲ公ケノ商人ト看做ス可シ(民二二七二四二六前
四(五七)

第貳百貳拾壹條 若シ夫ノ施體又ハ加辱ノ刑ヲ惹起スル言渡ヲ受ケタル時
ハ其言渡ハ缺席ノミヲ以テ爲シタル時ト雖_レ其婦ハ假令成年ノモノタリ
夫ノ刑期間ハ裁判官ノ許可ヲ得タル後ニ非サレハ裁判所ニ於テ訴訟ヲ
爲シ又ハ契約スルヲ得ス但シ裁判官ハ此場合ニ於テハ其夫ノ申述ヲ聽
キ又ハ之ヲ召喚スルヲナクシテ其許可ヲ與フルヲ得可シ(民二一五以下(三
四二三四三刑七八)

第貳百貳拾貳條 若シ夫ノ治産禁ヲ受ケタル時又ハ其失踪ノ時ハ裁判官其
原由ヲ取調タル上ニテ其婦ニ裁判所ニ於テ訴訟ヲ爲シ又ハ契約スルヲ
許可スルヲ得可シ(民二一五二一八(八六一以下)

第貳百貳拾三條 總テ一般ノ許可ハ婚姻ノ契約ヲ以テ約摺シタル時ト雖_レ
婦ノ財産ノ管理ニ關スルノ外有效ノモノトセス(民二一八二三八八二五三八一九八

七以下)

第貳百貳拾四條 若シ夫ノ幼年ナル時ハ其婦ノ裁判所ニ於テ訴訟ヲ爲シ又
ハ契約スル爲メニ裁判官ノ許可ヲ必要トス(民二一五二一七二一八二二〇八(八六一
以下)

第貳百貳拾五條 許可ノ欠缺ニ據レル無効ハ婦又ハ夫又ハ其相續人ニ非サ
レハ之ヲ以テ對抗スルヲ得ス(民二一五二一七二二五二二〇四二二三二二四四九)
第貳百貳拾六條 婦ハ其夫ノ許可ナクシテ遺囑スルヲ得可シ(民九〇五九四〇、
一〇九六)

○第七章 婚姻ノ解分

第貳百貳拾七條 婚姻ハ左ノ諸件ニ依リ解分スルモノトス

- 第一 夫婦中一方ノ死去
- 第二 法律ニ從ヒ言渡シタル離婚(離婚ハ千八百十六年五月八日ノ法律
ヲ以テ之ヲ廢ス)
- 第三 夫婦中ノ一方准_レ死ヲ惹起スル刑ノ言渡ヲ受ケ其言渡ノ確定ノモ

ノトナリタル事准死ハ千八百五十四年五月三十一日ノ法律ヲ以テ之ヲ廢ス)

○第八章 再婚

第貳百貳拾八條 婦ハ前婚ノ解分セシヨリ滿十月ノ後ニ非サレハ再婚ヲ契約スルコトヲ得ス(刑一九四一九五)

○第六卷 離婚(千八百三年三月二十一日決定同月三十一日宣令千八百十六年五月八日ノ法律ヲ以テ廢ス)

○第一章 離婚ノ原由

第貳百貳拾九條 夫ハ其婦ノ姦通ノ原由ノ爲メ離婚ヲ請求スルコトヲ得可シ
第貳百三拾條 婦ハ夫ノ其共通ノ家ニ妾ヲ置ヤタル時其夫ノ姦通ノ原由ノ爲メ離婚ヲ請求スルコトヲ得可シ

第貳百三拾壹條 夫婦ハ其一方ヨリ他ノ一方ニ對スル強暴苛虐又ハ至重ノ凌辱ノ爲メ相互ニ離婚ヲ請求スルコトヲ得可シ

第貳百三拾貳條 夫婦中一方ノ者ノ加辱ノ刑ヲ言渡サレタル時ハ他ノ一方ノ者ノ爲メニ離婚ノ原由タル可シ

第貳百三拾三條 法律上ニ定ムル條件ニ從ヒ且ツ法律上ニ定ムル嘗試ノ後ニ法律ニ定メタル方法ヲ以テ明示シタル夫婦相互ノ固執シタル承諾ハ其共同ノ生活ニ耐ヘスシテ其雙方ニ關シテ離婚ノ確的ナル原由ノ存在スル旨ヲ充分ニ証スルモノトス

○第二章 定リタル原由ノ爲メノ離婚

○第一節 定リタル原由ノ爲メノ離婚ノ法式

第貳百三拾四條 定リタル原由ノ爲メ離婚ヲ請求スルニ至ラシメシ實事又ハ犯罪ノ性質如何ヲ問ハス其請求ハ夫婦ノ住所ヲ有スル郡ノ裁判所ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第貳百三拾五條 若シ離婚ヲ請求スル夫又ハ婦ノ申述シタル實事中ノ或者

ノ爲メ檢察官ノ方ヨリ重罪ノ起訴ヲ爲スニ至リシ時ハ重罪裁判所ノ裁判
ノ後ニ至ル迄離婚ノ訴ヲ停止シ其裁判アリシ後離婚ノ訴ヲ再起スルヲ
得可シ但シ重罪裁判所ノ裁判ヨリシテ原告人タル夫又ハ婦ニ對シテ有害
ナル拒訴ノ憑據又ハ抗辯ノ憑據ヲ引出スヲ許サス

第貳百三拾六條

總テ離婚ノ請求書ニハ其實事ヲ詳記ス可シ但シ其請求書
ハ憑據タル證據物アル時ハ其證據物ト共ニ原告人タル夫又ハ婦自身ニテ
之ヲ裁判所長又ハ裁判所長ノ職務ヲ行フ裁判官ニ差出ス可シ若シ其夫又
ハ婦ノ病ノ爲メニ妨ケラル、時ハ格別ニシテ此場合ニ於テハ裁判官其者
ノ請願ト内科又ハ外科ノ醫學士二名又ハ醫學得業生二名ノ保證書トニ依
リ其離婚ノ請求書ヲ受クル爲メ原告人ノ住所ニ至ル可シ

第貳百三拾七條

裁判官ハ原告人ノ申述スル所ヲ聽キ其相當ナリト思考ス
ル注意ヲ爲シタル後其請求書及ヒ證據物ニ花押ヲ附シ此等ノ諸件ヲ落手
シタル旨ノ調書ヲ作ル可シ○其調書ハ裁判官及ヒ原告人之ニ署名ス可シ
但シ原告人ノ署名スルコトヲ知ラス又ハ手署スルコト能ハサル時ハ格別ニシ

テ此場合ニ於テハ其旨ヲ記ス可シ

第貳百三拾八條

裁判官ハ其指示スル日時ニ至リ雙方ノ者ノ自身ニテ其面
前ニ出席ス可キ旨ヲ命令シ且ツ之カ爲メ其命令書ノ寫ヲ離婚ノ訴ノ被告
人タル夫又ハ婦ニ送達ス可キ旨ヲ命令シテ之ヲ調書ノ末ニ記ス可シ

第貳百三拾九條

裁判官ハ其指示シタル日ニ至リ夫婦共ニ出席スル時ハ其
雙方ノ者ニ對シ又原告人ノ出席スル時ハ原告人ニ對シ和解ヲ爲サシム
ルニ適當ナリト思考スル所ノ説諭ヲ爲ス可ク若シ和解ヲ爲サシムルコトヲ
得サル時ハ其調書ヲ作リテ離婚ノ請求書及ヒ證據物ヲ檢察官ニ送り且ツ
其諸件ヲ裁判所ニ申告ス可キ旨ヲ命令ス可シ

第貳百四拾條

此時ヨリ三日内ニ裁判所ハ其長又ハ之レカ職務ヲ行フ裁判
官ノ報告ト檢察官ノ意見トニ依リ呼出ス可キノ允許ヲ與ヘ又ハ之ヲ停止
ス可シ○其停止ハ二十日ノ期限ニ過クルコトヲ得ス

第貳百四拾壹條

原告人ハ裁判所ノ許ニ據リ通常ノ法式ヲ以テ法律上ノ期
限内ニ被告人ニ自カラ秘密審問席ニ出席ス可キノ呼出狀ヲ送ル可シ但シ

其呼出狀ノ初メニ離婚ノ請求書及ヒ其憑據タル証拠物ノ寫ヲ記ス可キモノトス

第貳百四拾貳條 其期限ノ終リニ至リ被告人ノ出席スルト否トヲ問ハス原告人ハ其相當ト思考スルニ於テハ代理人ノ補助ヲ受ケテ自カラ其請求ノ理由ヲ辨明シ又ハ之ヲ辨明セシム可シ又原告人ハ其憑據タル証拠物ヲ差出シ且ツ其訊問ヲ得ント申立ツル證人ヲ指名ス可シ

第貳百四拾三條 被告人ノ自カラ出席シ又ハ代理人ヲ出席セシメタル時ハ請求ノ理由並ニ原告人ヨリ差出シタル証拠物及ヒ原告人ヨリ指名シタル證人ニ付キ自己ノ注意ヲ申立テ又ハ之ヲ申立シムルヲ得可シ○被告人ハ己レノ方ニ於テ其訊問ヲ得ント申立ツル證人ヲ指名ス可シ但シ原告人モ亦其證人ニ付キ自己ノ注意ヲ爲ス可キモノトス

第貳百四拾四條 雙方ノ出席申立注意並ニ其雙方ノ爲スニアル自白ノ調書ヲ作ル可シ○其調書ハ雙方ニ讀聞カセシ後雙方ニ之ニ署名スルヲ求ム可シ但シ其調書ニハ雙方ノ署名シタル事又ハ署名スルヲ能ハス或ハ署名

スルヲ欲セサル旨ノ申述ヲ明白ニ記載ス可シ

第貳百四拾五條 裁判所ハ雙方ニ公ケノ審問席ニ出席ス可キヲ言渡シテ其日時ヲ定メ且ツ訴訟手續書ヲ檢察官ニ送ル可キヲ命令シテ報告員ヲ任ス可シ○若シ被告人ノ出席セサル時ハ裁判所ノ命令書ニ定メタル期限内ニ原告人ヨリ其命令書ヲ被告人ニ送達セシム可シ

第貳百四拾六條 裁判所ハ其指示シタル日時ニ至リ特任裁判官ヨリ報告ノ上檢察官ノ申述ヲ聽キタル後拒訴ノ憑據ノ申立アルニ於テハ先ツ之ヲ裁定ス可シ○其拒訴ノ憑據ヲ確的ナリト思考シタル場合ニ於テハ離婚ノ請求ヲ棄却ス可ク又之ニ反スル場合又ハ拒訴ノ憑據ヲ申立テサル時ハ離婚ノ請求ヲ許容ス可シ

第貳百四拾七條 裁判所ハ離婚ノ請求ヲ許容セシ後直チニ特任裁判官ヨリ報告ノ上檢察官ノ申述ヲ聽キタル後其本案ヲ裁定ス可シ○若シ裁判所ニ於テ其請求ヲ裁判シ得可キ景狀ナリト思フ時ハ之ヲ裁判シ然ラサル時ハ原告人ニ其申述シタル適切ナル實事ヲ証スルヲ許シ又被告人ニ其反對

ヲ証スルヲ許ス可シ

第貳百四拾八條 訴訟中各箇ノ所爲ニ於テ雙方ノ者ハ特任裁判官ノ報告ノ後檢察官ノ發言ノ前ニ始メハ拒訴ノ憑據ニ付キ後ハ本案ニ付キ其相互ノ論據ヲ申立テ又ハ之ヲ申立テシムルヲ得可シ然レモ如何ナル場合ニ於テモ原告人ハ自カラ出席スルニ非サレハ其代辦人ヲ出スヲ許サス

第貳百四拾九條 證人訊問ヲ命令スル裁判宣告ノ後直チニ裁判所ノ書記ハ調書ノ中ニテ雙方ノ其訊問ヲ得ント申立ツル證人ニ付キ既ニ爲シタル指名ヲ記スル部分ヲ讀上ク可シ○裁判所長ハ雙方ノ者ニ猶他ノ證人ヲ指名スルヲ得可シト雖モ此後ニ至リテハ最早之ヲ許サハル旨ヲ告ク可シ

第貳百五拾條 雙方ノ者ハ其後直チニ其除斥セント欲スル證人ニ對シテ其各自ノ故障ヲ申立ツ可シ○裁判所ハ檢察官ノ申述ヲ聽キタル後其故障ノ申立ヲ裁定ス可シ

第貳百五拾壹條 雙方ノ者ノ血屬親ハ其子及ヒ其屬親ヲ除クノ外其血縁ノ故ヲ以テ故障ヲ受クルヲナカル可ク又雙方ノ雇人モ其雇人タル分限ノ故

ヲ以テ故障ヲ受クルヲナカル可シ然レモ裁判所ニ於テハ其血屬親及ヒ雇人ノ証據ノ申述ニ付キ相當ニ斟酌ス可シ

第貳百五拾貳條 證人ノ證ヲ許ルス總テノ裁判書ニハ訊問ス可キ證人ノ姓名ヲ記シ且ツ雙方ヨリ其證人ヲ出席セシメサル可カラサル日時ヲ定ム可シ

第貳百五拾三條 證人ノ証據ノ申述ハ檢察官及ヒ雙方本人並ニ其代辦人又ハ其朋友ノ面前ニ於テ秘密審問ヲ爲ス裁判所ニ於テ之ヲ受ク可シ但シ其代辦人又ハ朋友ノ數ハ各箇ノ方ニ付キ三名ニ過ク可カラス

第貳百五拾四條 雙方ノ者ハ其相當ト思考スル所ノ注意及ヒ問糺ヲ自カラ證人ニ爲シ又ハ代辦人ヲシテ之ヲ爲シシムルヲ得可シ然レモ證人ノ其證據ヲ申述スル間ハ之ヲ中斷スルヲ得ス

第貳百五拾五條 各箇ノ証據ノ申述並ニ其申述ニ付キ爲シタル申立及ヒ注意ハ之ヲ書面ニ記ス可シ○證人訊問ノ調書ハ雙方本人ト證人トニ讀聞カセシ後何レモ皆之ニ署名スルノ求ヲ受ク可シ但シ此等ノ者ノ署名シタル

事又ハ署名スルヲ能ハス或ハ手署スルヲ欲セサル旨ノ申述ハ之ヲ記載ス可シ

第貳百五拾六條 雙方ノ證人訊問終結ノ後又ハ被告人ノ證人ヲ出サ、ル時ハ原告人ノ證人訊問終結ノ後裁判所ヨリ其雙方ノ者ニ公ケノ審問席ニ出席ス可キヲ言渡シテ其日時ヲ指示シ且ツ訴訟手續書ヲ檢察官ニ送ル可キヲ命令シテ報告員ヲ任ス可シ○其命令書ハ原告人ノ請求ニ依リ其書中ニ定メタル期限内ニ之ヲ被告人ニ送達ス可シ

第貳百五拾七條 確定裁判ノ爲メニ定メタル日ニ至リ特任裁判官ヨリ報告ヲ爲シタル後雙方ノ者ハ其己レノ爲メニ有益ナリト思考スル所ノ注意ヲ自カラ爲シ又ハ代辨人ヲシテ之ヲ爲サシメ其後檢察官ヨリ其意見ヲ申立ツ可シ

第貳百五拾八條 確定裁判ハ公ケニ宣告ス可シ但シ其裁判ニ依リ離婚ヲ許ル時ハ原告人其離婚ヲ宣告セシムル爲メ身分取扱役ノ面前ニ至ルヲ許サル、モノトス

第貳百五拾九條 強暴苛虐又ハ至重ノ凌辱ノ原由ノ爲メニ離婚ノ請求ヲ爲シタル時ハ其請求ニ確証アリト雖モ裁判官直チニ離婚ヲ許サ、マルヲ得可シ○此場合ニ於テハ裁判官其裁判ヲ爲ス前ニ婦ニ其夫ト居ヲ分テテ其夫ヲ容接スルヲ欲セサル時ハ之ヲ容接スルニ及ハサルヲ許可シ且ツ婦ノ自己ノ需用ニ供給スルニ足ル可キ入額ヲ有セサル時ハ夫ノ資産ニ准スル養料ヲ其婦ニ辨濟ス可キヲ其夫ニ言渡ス可シ

第貳百六拾條 一年間嘗試ノ後雙方ノ猶協和セサル時ハ原告人タル夫又ハ婦ハ法律ノ期限内ニ他ノ一方ヲ裁判所ニ出席スル爲メニ呼出サシメ離婚ヲ許ルニ確定裁判ヲ宣告セシムルヲ得可シ

第貳百六拾壹條 夫婦中一方ノ者カ加辱ノ刑ヲ言渡サレタルノ故ヲ以テ離婚ヲ請求シタル時ハ其言渡ノ裁判書ノ法式ニ適ヒタル副本ト其裁判ハ如何ナル法律上ノ方法ニ依ルモ最早之ヲ更改スルヲ得サル旨ヲ記シタル重罪裁判所ノ保証書トヲ始審裁判所ニ差出スノミノ法式ヲ遵守スルヲ以テ足レリトス

第貳百六拾貳條 離婚ノ事ニ付キ始審裁判所ヨリ爲シタル許容ノ裁判又ハ確定裁判ヲ控訴シタル場合ニ於テハ控訴裁判所ニ於テ至急事件トシテ其訴ヲ審理シ及ヒ之ヲ裁判ス可シ

第貳百六拾三條 控訴ハ對審裁判書又ハ缺席裁判書ヲ送達シタル日ヨリ起算シテ三月内ニ爲シタルニ非サレハ之ヲ受理ス可カラス○終審裁判ニ對シ大審院ニ上告スル爲メノ期限モ亦送達ノ日ヨリ起算シテ三月トス○其上告ハ執行ヲ停止スルモノトス

第貳百六拾四條 總テ離婚ヲ許ス終審裁判又ハ裁定事件ノ力ヲ得タル裁判ニ據リ其裁判ヲ得タル夫又ハ婦ハ二月ノ期限内ニ他ノ一方ヲ法ニ適シテ招喚シタル上離婚ヲ宣告セシムル爲メ身分取扱役ノ面前ニ出席ス可キノ義務アリ

第貳百六拾五條 此二月ハ始審裁判ニ付テハ控訴期限ノ終リシ時ヨリ之ヲ起算シ又控訴ノ缺席裁判ニ付テハ其故障申述期限ノ終リシ時ヨリ之ヲ起算シ又終審ノ對審裁判ニ付テハ上告期限ノ終リシ時ヨリ之ヲ起算ス可シ

第貳百六拾六條 若シ原告人タル夫又ハ婦カ他ノ一方ヲ身分取扱役ノ面前ニ招喚スルコトナク前ニ定メタル二月ノ期限ヲ經過セシメタル時ハ其得タル裁判ノ利益ヲ失ヒ更ニ新ナル理由ノ爲メニ非サレハ離婚ノ訴ヲ再起スルコトヲ得ス然レモ其新ナル理由ノ爲メニ離婚ノ訴ヲ再起スル場合ニ於テハ以前ノ理由ヲ益用スルコトヲ得可シ

○第貳節 定リタル理由ノ爲メノ離婚ノ請求ニ付キ爲スコトアル可キ假リノ處分

第貳百六拾七條 子ノ假リノ管理ハ離婚ノ原告人タルト被告人タルトヲ問ハス夫ニ於テ之ヲ保存ス可シ但シ其子ノ最大ノ利益ノ爲メ母若クハ親族又ハ檢察官ノ求メニ依リ裁判所ヨリ別段ノ命令ヲ爲シタル時ハ格別ナリトス

第貳百六拾八條 婦ハ離婚ノ原告人タルト被告人タルトヲ問ハス其訴訟ノ時間夫ノ住所ヲ去リテ夫ノ資産ニ准シタル養料ヲ求ムルコトヲ得可シ○裁

判所ハ婦ノ居住ス可キ家屋ヲ指示シ且ツ夫ヨリ其婦ニ辨濟スルノ義務アル養料ヲ定ム可キ時ハ之ヲ定ム可シ

第貳百六拾九條 婦ハ其指示セラレタル家屋ニ居住スルヲ證明ス可キノ求メヲ受クル度毎ニ之ヲ證明ス可シ若シ其證明ヲ爲ササル時ハ夫其養料ヲ拒スルコトヲ得可ク且ツ婦ノ離婚ノ原告人タル時ハ其婦ヲシテ其訴訟ヲ繼續スルコトヲ許サハルノ言渡ヲ受ケシムルコトヲ得可シ

第貳百七拾條 財産ヲ共通スル婦ハ離婚ノ原告人タルト被告人タルトノ間ハス第二百三十八條ニ記シタル命令ノ日附ヨリ後其訴訟中何時タリモ自己ノ權利ノ保存ノ爲メ共通財産中ノ動産ニ封印ヲ附スルコトヲ請求スルヲ得可シ○其封印ハ評價ヲ附シタル目錄ヲ作り且ツ夫裁判上ノ監守人トシテ其目錄ニ記シタル物ヲ差出シ又ハ其價額ヲ擔當スルノ責任アルニ非サレハ之ヲ除去ス可カラズ

第貳百七拾壹條 第二百三十八條ニ記シタル命令ノ日附ヨリ後ニ共通財産ノ責任ニテ夫ノ契約シタル總テノ義務及ヒ共通財産ニ附屬スル不動産ニ

付キ夫ノ爲シタル總テノ所有權移轉ハ其婦ノ權利ノ侵害ニ於テ之ヲ爲シ又ハ之ヲ契約シタルノ證アル時ハ無効ナリト言渡サル可シ

○第三節

定リタル理由ノ爲メノ離婚ノ訴ニ對スル拒訴ノ憑據

第貳百七拾貳條 離婚ノ訴權ハ其訴ヲ起スコトヲ得セシメタル實事ノ後若クハ離婚ノ訟求ノ後ニ生シタル夫婦ノ和諧ニ依リ消滅ス可シ

第貳百七拾三條 其何レノ場合ニ於テモ原告人ハ其訴ニ付キ不受理ノ言渡ヲ受ク可シ然レ和諧ノ後ニ生シタル理由ノ爲メ更ニ新ナル訴ヲ起スコトヲ得可ク然ル時ハ其新ナル訟求ノ憑據トシテ以前ノ理由ヲ用フルコトヲ得可シ

第貳百七拾四條 若シ離婚ノ原告人ヨリ和諧シタルコトナキ旨ヲ申述スル時ハ被告人ハ本章第一節ニ定メタル法式ニ從ヒ書面若クハ證人ヲ以テ和諧シタルノ證ヲ立ツ可シ

○第三章

相互ノ承諾ニ依レル離婚

第貳百七拾五條 夫婦相互ノ承諾ハ夫ノ二十五歳以下ナル時及ヒ婦ノ二十

一歳以下ナル時ハ之ヲ許サス

第貳百七拾六條 相互ノ承諾ハ婚姻ヲ行ヒシヨリ二年ノ後ニ非ザレハ之ヲ許サス

第貳百七拾七條 相互ノ承諾ハ婚姻ヲ行ヒシヨリ二十年ノ後ニ至リ又ハ婦ノ四十五歳ノ齡ニ至リシ時ハ最早之ヲ許サス

第貳百七拾八條 如何ナル場合ニ於テモ婚姻ノ卷第五百十條ニ定メタル規則ニ從ヒ父母又ハ其他ノ生存スル尊屬親ヨリ許可セラレタルニ非サレハ夫婦相互ノ承諾ヲ以テ足レリトセス

第貳百七拾九條 相互ノ承諾ニ依リ離婚ヲ爲サント決定シタル夫婦ハ豫メ其總テノ動産及ヒ不動産ノ目錄ヲ作り且ツ評價ヲ爲シテ其相互ノ權利ヲ規定ス可シ然レハ其權利ニ付テハ雙方ニ於テ和解ヲ爲スコ自由ナリトス

第貳百八拾條 夫婦ハ亦左ノ三件ニ付テハ其合意ヲ書面ヲ以テ証明ス可シ

第一 其婚姻ニ依リ生レシ子ハ嘗試ノ時間若クハ離婚ノ宣告ノ後之ヲ何人ニ委託ス可ヤヤノ事

第二 嘗試ノ時間婦ハ何レノ家屋ニ至リテ居住セサル可カラサルヤノ事

第三 若シ婦ノ其需用ニ供給スルニ足ル可ヤ入額ヲ有セサル時ハ右ト同一ノ時間夫ヨリ其婦ニ幾許ノ金額ヲ辨濟セサル可カラサルヤノ事
第貳百八拾壹條 夫婦ハ相共ニ自カラ其郡ノ民事裁判所長又ハ其職務ヲ行フ裁判官ノ面前ニ出席シ其伴行シタル公證人二名ノ面前ニ於テ其意ノ申述ヲ爲ス可シ

第貳百八拾貳條 裁判官ハ公證人二名ノ面前ニ於テ其相當ト思考スル所ノ説諭及ヒ理解ヲ夫婦一同ニ爲シ其後特別ニ之ヲ其各自ニ爲シ且ツ離婚ノ效ヲ規定スル本卷第四章ヲ讀開カセテ其求メノ總テノ結果ヲ雙方ニ説明ス可シ

第貳百八拾三條 夫婦ノ其決定ニ於テ固執スル時ハ裁判官ヨリ雙方離婚ヲ懇求シ且ツ相互ニ之ヲ承諾スル旨ノ證書ヲ其雙方ニ與フ可シ而シテ雙方ノ者ハ第二百七拾九條及ヒ第二百八拾條ニ記シタル證書ノ外更ニ左ノ證

書ヲ差出シテ直チニ之ヲ公證人ノ手元ニ附託ス可シ

第一 夫婦ノ出產證書及ヒ婚姻證書

第二 其婚姻ニ依リ生レシ總テノ子ノ出產證書及ヒ死去證書

第三 生存スル父母又ハ其他ノ尊屬親其知ル所ノ原由ノ爲メ某ト婚姻シタル己レノ男又ハ女或ハ己レノ孫男又ハ孫女ニ離婚ヲ請求シ及ヒ之ヲ承諾スルコトヲ許可スル旨ヲ記シタル公正ノ申述書○夫婦ノ母父祖父母ハ其死去ヲ證明スル證書ヲ差出ス迄ハ之ヲ生存スル者ト看做ス可シ

第貳百八拾四條 公證人二名ハ前數條ニ從テ言ヒ及ヒ執行シタル諸件ノ詳細ナル調書ヲ作り其細字ノ正本ト其調書ニ添ヘ置ク可キ差出シタル證據物トヲ公證人二名中ノ年長者ニ預リ置ク可シ但シ其調書ニハ婦ノ其夫ト合意シタル家屋ニ二十四時内ニ引移リテ離婚ノ宣告アルニ至ル迄其家屋ニ居住ス可キノ告知ヲ記載ス可キモノトス

第貳百八拾五條 斯クノ如クニ爲シタル申述ハ之ト同一ノ法式ヲ遵守シテ

其後ノ第四月第七月第十月毎ニ其初メノ十五日内ニ之ヲ更新ス可シ○雙方ノ者ハ每次其生存スル父母又ハ其他ノ尊屬親ノ其初メノ決定ヲ固執スル旨ヲ公正ノ證書ヲ以テ證ス可キノ義務アリ然レモ其他ノ證書ハ更ニ之ヲ差出スニ及ハス

第貳百八拾六條 最初ノ申述ヨリ起算シテ滿一年ニ至リシ日ヨリ十五日内ニ夫婦ハ各其郡内ノ素望アル五十歳以上ノ朋友二名ノ補助ヲ受ケテ裁判所長又ハ其職務ヲ行フ裁判官ノ面前ニ相共ニ自カラ出席シ相互ノ承諾ヲ記シタル調書四通ノ法式ニ適ヒタル副本ト之ニ添ヘタル總テノ證書ノ法式ニ適ヒタル副本トヲ其裁判所長又ハ裁判官ニ差出シ且ツ各自別々ニ他ノ一方ノ者及ヒ其素望アル者四名ノ面前ニ於テ裁判官ニ離婚ノ許容ヲ請求ス可シ

第貳百八拾七條 裁判官及ヒ補助人ヨリ夫婦ニ其注意ヲ爲シタル後雙方猶固執スル時ハ其請求ヲ爲ス事及ヒ憑據タル證據物ヲ差出シタル事ノ證書ヲ夫婦ニ與フ可シ又裁判所ノ書記ハ調書ヲ作りテ夫婦及ヒ補助人四名並

ニ裁判官及ヒ書記之ニ署名ス可シ(但シ夫婦ノ署名スルコトヲ知ラス又ハ署名スル能ハサル旨ヲ申述スル時ハ格別ニシテ此場合ニ於テハ其旨ヲ記載ス可シ)

第貳百八拾八條 裁判官ハ三日内ニ檢察官ノ書面ヲ以テ意見ヲ申立テタル上裁判所ノ裁判官會議室ニ諸件ヲ申告ス可キ旨ヲ記シタル命令書ヲ直チニ其副書ノ末ニ記載ス可シ但シ之レカ爲メ書記ヨリ證據物ヲ檢察官ニ送附ス可キモノトス

第貳百八拾九條 檢察官カ其證據物ニ於テ雙方其最初ノ申述ヲ爲セシ時夫ハ二十五歳ノ齡婦ハ二十一歳ノ齡ニ至リタル事又當時ニ於テ婚姻ヲ行ヒシヨリ二年以上ニ至リタル事其婚姻ヲ行ヒシヨリ二十年以上ニ至ラサル事又婦ノ四十五歳以下ノ齡タル事又前ニ定メタル豫式ノ後及ヒ本章ニ必要ナリト定メタル總テノ法式ヲ行ヒ就中父母ノ許可又父母ノ既ニ死去セシ時ハ其他ノ生存スル尊屬親ノ許可ヲ以テ一年間ニ四次相互ノ承諾ヲ申述シタル事ノ証ヲ見出シタル時ハ檢察官法律ニ於テ允許スト云ヘル語ヲ

以テ其意見ヲ發シ之ニ反スル場合ニ於テハ法律ニ於テ防止スト云ヘル語ヲ以テ其意見ヲ發ス可シ

第貳百九拾條 裁判所ハ裁判官ヨリ申告ノ上前條ニ指示シタル所ノモノ、外更ニ其他ノ審査ヲ爲スコトヲ得ス○裁判所ノ意見ニテ雙方ノ者法律上ニ定メタル要件ヲ具備シ及ヒ法式ヲ履行シタリト思フ時ハ離婚ヲ許容シ其離婚ヲ宣告セシムル爲メ雙方ノ者ヲ身分取扱役ノ面前ニ至ラシム可ク又之ニ反スル場合ニ於テハ裁判所ヨリ離婚ヲ許容セサル旨ヲ言渡シテ其裁決ノ理由ヲ説明ス可シ

第貳百九拾壹條 離婚ヲ許容セサル旨ヲ言渡シタル裁判ノ控訴ハ始審裁判ノ日附ヨリ早クトモ十日内遅クトモ二十日内ニ雙方ヨリ各自別々ノ控訴狀ヲ以テ之ヲ爲スニ非サレハ受理ス可カラズ

第貳百九拾貳條 控訴狀ハ相互ニ其配偶者ト始審裁判所ノ檢察官トニ送達ス可シ

第貳百九拾三條 始審裁判所ノ檢察官ハ第二次ノ控訴狀ノ送達ヲ受ケタル

時ヨリ起算シテ十日内ニ裁判書ノ副本及ヒ其裁判ヲ爲スニ用ヒタル証據物ヲ控訴裁判所ノ檢事長ニ送達ス可シ○控訴裁判所ノ檢事長ハ其證據物ヲ受取リシ時ヨリ十日内ニ書面ヲ以テ其意見ヲ發シ控訴裁判所長又ハ之ニ代ハル可キ裁判官ヨリ控訴裁判所ノ裁判官會議室ニ報告ヲ爲シ而シテ檢事長ノ意見書ヲ受取リシ時ヨリ十日内ニ確定ノ裁判ヲ爲ス可シ

第貳百九拾四條 雙方ノ者ハ離婚ヲ許容スル控訴裁判所ノ裁判ニ據リ其日附ヨリ二十日内ニ離婚ヲ宣告セシムル爲メ相共ニ自カラ身分取扱役ノ面前ニ出ツ可シ○若シ此定期ヲ過コス時ハ其裁判ハ無效タル可シ

○第四章 離婚ノ效

第貳百九拾五條 如何ナル理由ノ爲メタルヲ問ハス離婚シタル夫婦ハ互ニ復タ結婚スルコトヲ得ス

第貳百九拾六條 定リタル理由ノ爲メニ宣告セラレタル離婚ノ場合ニ於テハ離婚セラレタル婦ハ其宣告セラレタル離婚ノ時ヨリ十月ノ後ニ非サレハ再婚スルコトヲ得ス

第貳百九拾七條 相互ノ承諾ニ依レル離婚ノ場合ニ於テハ夫婦各々其離婚ノ宣告アリシ時ヨリ三年ノ後ニ非サレハ再婚ヲ契約スルコトヲ得ス

第貳百九拾八條 姦通ノ理由ノ爲メ裁判上ニテ許容セラレタル離婚ノ場合ニ於テハ犯姦ノ夫又ハ婦ハ決シテ其從犯ト婚姻スルコトヲ得ス○姦通ヲ爲シタル婦ハ檢察官ノ請求ニ依リ右ト同一ノ裁判ヲ以テ三月ヨリ少ナキコトヲ得ス二年ニ過クルコトヲ得サル定期間懲治場内ニ於ケル懲役ヲ言渡サル可シ

第貳百九拾九條 相互ノ承諾ノ場合ヲ除クノ外離婚ノ理由ノ如何ヲ問ハス離婚ヲ言渡サレタル夫又ハ婦ハ婚姻ノ契約ニ依リ若クハ婚姻ヲ契約セシ後ニ其配偶者ヨリ受ケタル所ノ總テノ利益ヲ失フ可シ

第三百條 離婚ヲ得タル夫又ハ婦ハ其配偶者ヨリ受ケタル利益ヲ保存ス可シ但シ其利益ハ相互ノモノナリト約權シ而シテ之ヲ相互ノモノト爲サレリシ時ト雖モ亦同一ナリトス

第三百壹條 夫婦互ニ利益ヲ與ヘタルコトナキ時又ハ其約權シタル利益ハ離

婚ヲ得タル夫又ハ婦ノ生計ヲ確保スルニ充分ナリト思ハレサル時ハ裁判所ヨリ其配偶者ノ財産ニ就キ其夫又ハ婦ニ養料ヲ附與スルコトヲ得可シ但シ其養料ハ其配偶者ノ入額ノ三分一ニ過ケルコトヲ得ス○其養料ハ必要ナルコトノ止息セシ場合ニ於テ廢止ス可キモノトス

第三百貳條 子ハ離婚ヲ得タル夫又ハ婦ニ之ヲ委託ス可シ但シ裁判所ニ於テ親族又ハ檢察官ノ求ニ依リ其子ノ最大ノ利益ノ爲メ其子全員又ハ其中ノ或者ヲ其配偶者若クハ第三ノ人ノ管照ニ委託ス可キ旨ヲ命令シタル時ハ格別ナリトス

第三百三條 其子ヲ委託シタル人ノ如何ヲ問ハス父母ハ相互ニ其子ノ保育教訓ヲ監視スルノ權利ヲ保存シ且ツ其資産ニ准シテ之ヲ分擔ス可シ

第三百四條 裁判上ニテ許容セラレタル離婚ニ依リ婚姻ノ解分シタル時ト雖モ其婚姻ニ依リ生レタル子ハ法律ニ依リ又ハ其父母ノ婚姻ノ合意ニ依リ己レニ確保セラレタル利益ヲ少シモ失フコトナカル可シ然レモ其子ノ權利ハ離婚ノアヲサル時ニ開始スルト同一ノ方法ニ從ヒ且ツ同一ノ景況アルニ非サレハ開始セサルモノトス

第三百五條 相互ノ承諾ニ依レル離婚ノ場合ニ於テハ夫婦各自ノ財産一半ノ所有權ハ其最初ノ申述ノ日ヨリ當然其婚姻ニ依リ生レタル子ニ獲得ス可シ然レモ父母ハ其子ノ成年ニ至ル迄ハ其一半ノ収益ヲ保存シテ其家産及ヒ身分ニ准シテ其子ノ給養保育教訓ヲ設備ス可キノ責任アルモノトス但シ其諸件ハ父母ノ婚姻ノ合意ニ依リ其子ニ確保スルコトアリタル其他ノ利益ト相觸ル、コトナカル可シ

○第五章 分居

第三百六條 定リタル理由ノ爲メニ離婚ノ請求ヲ起ス可キ場合ニ於テハ夫又ハ婦ヨリ分居ノ請求ヲ爲スコト自由ナリトス(民二一九三二九三三〇)

第三百七條 分居ノ請求ハ總テ其他ノ民事上ノ訴ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ起シ之ヲ審理シ及ヒ之ヲ裁判ス可シ但シ分居ノ請求ハ夫婦相互ノ承諾ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ス(民六三一三二二三三三三三三三三四九四六四八七五以下)

第三百八條 茲通ノ理由ノ爲メニ分居ヲ宣告セラレタル婦ハ檢察官ノ請求

ニ依リ右ト同一ノ裁判ヲ以テ三月ヨリ少ナキヲ得ス二年ニ過クルヲ得サル定期間懲治場内ニ於ケル拘留ヲ言渡サル可シ(刑三三六)

第三百九條 夫ハ其婦ヲ再ヒ引取ルヲ承諾シテ其言渡ノ效ヲ止ムルヲ自由ナリトス(刑三三七)

第三百拾條 婦ノ姦通ヲ除クノ外總テ其他ノ理由ノ爲メニ宣告シタル分居カ三年間繼續シタル時ハ原來被告人タリシ夫又ハ婦ヨリ裁判所ニ離婚ヲ請求スルヲ得可シ但シ裁判所ニ於テハ原來ノ原告人出席ノ上又ハ法ニ適シテ之ヲ招喚シタル上其原告人ノ直チニ分居ヲ止メシムルヲ承諾セサルニ於テハ離婚ヲ許容ス可シ(本條ハ離婚廢止ノ爲メ之ヲ削除シタリ)

第三百拾壹條 分居ハ常ニ必ズ財産ノ離分ヲ惹起ス可シ(民一四四二一四五三前六六)

○第七卷 父タルノ分限及ヒ子タルノ分限(千八百三年三月二十三日)

決定四月二日宣令

○第一章 適法子即チ結婚中ニ生レタル子ノ子タルノ分限

第三百拾貳條 結婚中ニ腹胎シタル子ハ夫ヲ以テ父トス

然レ其子ノ出產ノ前第三百日ヨリ第百八十日ニ至ル迄ノ時間ニ夫ノ離隔ノ理由ニ依リ若クハ或ル偶然ノ事故ノ效ニ依リ現實其婦ト同居スル能ハサリシヲ證スル時ハ夫其子ヲ非斥スルヲ得可シ(民一七三二五七二二〇三二六三二七三一九三三三以下三二五三四二四五〇五〇九)

第三百拾三條 夫ハ己レノ自然ノ無勢力ヲ申立テ、其子ヲ非斥スルヲ得

ス又姦通ノ理由ノ爲メト雖レ其子ヲ非斥スルヲ得ス但シ其子ノ出產ヲ夫ニ掩蔽セシ時ハ格別ニシテ此場合ニ於テハ夫其子ノ父ニ非サルヲ證明スルニ適當ナル各箇ノ實事ヲ申立ツルヲ許サル、モノトス

(千八百五十年十二月六日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク追加ス)夫婦分居ノ宣告アリタル場合又ハ之ヲ請求シタル場合ト雖レ夫ハ訴訟法第八百七十八條ニ

モノトス(民一三四七)

第三百貳拾五條 反對ノ證ハ訟求者ノ其母ナリト稱言スル者ノ子ニ非サル事又母タルノ分限ニ付キ證アリト雖モ其母ノ夫ノ子ニ非サル事ヲ證スルニ適當ナル各箇ノ方法ヲ以テ之ヲ立ツルヲ得可シ(民三二三)

第三百貳拾六條 民事裁判所ノミニ於テ身分ノ訟求ニ付キ裁定スルノ權力アリトス(民三二七)

第三百貳拾七條 身分湮滅ノ罪ニ對スル刑事ノ訴ハ身分ノ問題ニ付テノ確定裁判ノ後ニ非サレハ之ヲ始ムルヲ得ス(民三二六三二九治一三刑三四五)

第三百貳拾八條 身分訟求ノ訴權ハ其子ニ關シテハ期滿效ヲ得可カラサルモノトス(民三二二六)

第三百貳拾九條 其訴ハ訟求ヲ爲サバリシ子ノ幼年ニテ死去シ又ハ其成年ニ至リシ後五年内ニ死去シタル時ニ非レハ其子ノ相續人ヨリ之ヲ起スヲ得ス(民三一七三二一八七二四)

第三百三拾條 若シ子ノ其訴ヲ爲シ始メタル時ハ相續人其訴ヲ繼續スルヲ

ヲ得可シ但シ其子ノ明確ニ其訴ヲ止メ又ハ其訴訟手續ノ最後ノ所爲ヨリ起算シテ三年間更ニ其訴訟ヲ爲サバリシ時ハ格別ナリトス(民三一七)

第三章 私生子

○第壹節 私生子ヲ適法ノモノト爲ス事

第三百三拾壹條 結婚外ニ生レタル子ハ亂倫又ハ姦通ヨリ生レシ者ヲ除クノ外其父母ノ婚姻ヲ爲ス前ニ適法ニ之ヲ認定シ又ハ婚姻ヲ行ヒタルノ證書ニ於テ之ヲ認定シタル時ハ其父母ノ後ノ婚姻ニ依リ適法ノモノト爲スヲ得可シ(民三一九三三三三三四以下)

第三百三拾貳條 適法ノモノト爲ス事ハ其親ヲ遺留シテ死去セシ子ノ爲メト雖モ之ヲ爲スヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ其適法ノモノト爲シタル事ハ右ノ其親ニ利益スルモノトス

第三百三拾三條 後ノ婚姻ニ依リ適法ノモノト爲サレタル子ハ其婚姻ヨリ生レタル時ト同一ノ權利ヲ有ス可シ(民九一三九二〇九六〇)

○第貳節 私生子ノ認定

第三百四拾貳條 第三百三十五條ニ從ヒ認定ヲ許サ、ル場合ニ於テハ子ハ
決シテ父タルノ分限若クハ母タルノ分限ノ搜索ヲ許サレサルモノトス(民
三一二三三三三四・三四一)

○第八卷 養子及ヒ好爲後見千八百三年三月二十三日決定四月二日

宣令)

○第一章 養子

○第一節 養子及ヒ其效

第三百四拾三條 男女ヲ問ハス其齡五十歳以上ニシテ養子ヲ爲ス時ニ當リ
適法ノ子及ヒ身屬親ナク且ツ其養子ト爲サントスル者ヨリ少クハ十五歳
以上ノ年長ナル者ニ非サレハ養子ヲ爲スコトヲ許サス(民一一三四五三五五三五六
三五七三六六五・四九。一)

二二

第三百四拾四條 何人ニ限ラス夫婦ノ外數人ノ養子トナルコトヲ得ス

第三百六十六條ノ場合ノ外ハ夫又ハ婦ハ其配偶者ノ承諾ヲ得ルニ非サレ
ハ養子ヲ爲スコトヲ得ス(民三三三三三三三三三三三)

第三百四拾五條 養子ヲ爲スノ權能ハ幼年ノ時少クハ六年間絶ヘス扶助ヲ
加ヘ及ヒ照管ヲ與ヘタル者又ハ職團若クハ水火ノ厄災ノ時養親トナル可
キ者ノ生命ヲ救ヒシ者ニ對スルニ非サレハ之ヲ執行スルコトヲ得ス

此第二ノ場合ニ於テハ養親トナル可キ者ノ成年者タリ且ツ養子トナル者
ヨリ年長ノ者ニシテ適法ノ子及ヒ身屬親ナク又結婚シタル時ハ其配偶者
ニ於テ養子ヲ爲スコトヲ承諾シタルヲ以テ足レリトス(民三六六以下)

第三百四拾六條 如何ナル場合ニ於テモ養子トナル可キ者ノ成年ニ至ラサ
ル前ニ養子ヲ爲スコトヲ得ス○若シ養子トナル可キ者ノ父母又ハ父母ノ中
一方ノ猶生存シテ己レノ齡滿二十五歳ニ至ラサル時ハ其者其父母又ハ父
母中ノ生存者ヨリ其養子トナルコトヲ許諾ヲ受ク可ク又二十五歳以上ニ至
リシ時ハ其教諭ヲ請求ス可シ(民一四八以下)

第三百四拾七條 養子ヲ爲シタル時ハ養子トナリタル者其固有ノ姓ニ養親ノ姓ヲ添ヘテ之ヲ帶用ス可シ

第三百四拾八條

養子トナリタル者ハ猶其實家ヲ離レズ其實家ニ於テ總テノ權利ヲ保存ス可シ然レモ左ニ記スル各人ノ間ニ於テハ婚姻ヲ禁ス

養親ト養子及ヒ其身屬親トノ間

同一人ノ養子數名ノ間

養子ト養親ノ舉グルルコトアル子トノ間

養子ト養親ノ配偶者トノ間及ヒ其裏面ニ於テ養親ト養子ノ配偶者トノ

間(民一六一以下一八四)

第三百四拾九條

法律上ニ定メタル場合ニ於テ養子ト其父母トノ間ニ於テ存續スル養料ヲ給ス可キ自然ノ義務ハ養親ト養子トノ間ニ於テモ亦互ニ通シ用フ可キモノト看做ス可シ(民二〇三三〇四二〇五)

第三百五拾條

養子ハ養親ノ血屬親ノ財産ニ付キ相續ヲ爲ス可キノ何等ノ權利ヲモ獲得セス然レモ養親ノ財産相續ニ付テハ婚姻ニ依テ生レタル子

ト同一ノ權利ヲ有ス可シ但シ其養子トナリシ後ニ生レタル右ノ分限アル其他ノ子ノ存在スル時ト雖モ亦同一ナリトス(民三四八七四五九一三一〇九四)

第三百五拾壹條

若シ養子ノ適法ノ身屬親ナクシテ死去セシ時ハ養親ヨリ贈與シタル物又ハ養親ノ財産相續ニ依リ收取シタル物ニシテ養子ノ死去ノ時ニ當リ原品ノ儘存在スルモノハ負債ヲ分擔スルノ責任ヲ以テ養親又ハ其身屬親ニ戻ル可シ但シ第三ノ人ノ權利ヲ害スルコトナカルヘシ

前ニ記シタル以外ノ養子ノ財産ハ其自己ノ血屬親ニ屬ス可シ又其血屬親ハ本條ニ記シタル物品ニ付テモ常ニ養親ノ身屬親ヲ除クノ外總テ其他ノ養親ノ相續人ヲ除外ス可キモノトス(民七四七七六六)

第三百五拾貳條

若シ養親ノ生存中且ツ養子ノ死去ノ後其養子ノ遺留セシ子又ハ身屬親モ亦自カラ身屬親ナクシテ死去シタル時ハ養親ハ前條ニ記シタル如ク自己ヨリ贈與シタル物ヲ相續ス可シ然レモ其權利ハ養親ノ一身ニ附着スルモノニシテ假令身屬系ノモノト雖モ其相續人ニ轉移ス可カラズ

○第貳節 養子ヲ爲スノ法式

第三百五拾三條 養子ヲ爲サント欲スル者及ヒ養子トナラント欲スル者ハ相互ノ承諾ノ證書ヲ作ル爲メ養子ヲ爲ス者ノ住所ノ治安裁判官ノ面前ニ出席ス可シ(民三四三以下)

第三百五拾四條 其證書ノ副本ハ其後十日内ニ最モ先ニ手續ヲ爲ス者ヨリ養子ヲ爲ス者ノ住所ヲ管轄スル始審裁判所ノ檢事ニ差出シテ其裁判所ノ認可ヲ得ント求ム可シ

第三百五拾五條 裁判所ニ於テハ會議室ニ集會シ相當ノ參照件ヲ得タル後左ノ諸件ヲ調査ス可シ

第一 法律上ノ各要件ノ具備シタル事

第二 養子ヲ爲サント欲スル者ノ美名ヲ享クル事(民三四三以下)

第三百五拾六條 裁判所ニ於テハ檢事ノ申述ヲ聽キタル後別ニ其他ノ手續ノ法式ナク又其理由ヲ表示スルコトナク養子ヲ允許ス又ハ養子ヲ允許セスト宣告ス可シ

第三百五拾七條 始審裁判所ノ裁判ヨリ一月内ニ最モ先ニ手續ヲ爲ス者ノ求メニ依リ其裁判書ヲ控訴裁判所ニ差出ス可シ控訴裁判所ニ於テハ始審裁判所ト同一ノ法式ヲ以テ審理シタル上其理由ヲ表示スルコトナク裁判ヲ確認ス又ハ裁判ヲ更改ス故ニ養子ヲ允許ス又ハ養子ヲ允許セスト宣告ス可シ(民三五八)

第三百五拾八條 養子ヲ允許スル控訴裁判所ノ總テノ裁判ハ審問席ニ於テ之ヲ宣告シ且ツ其裁判所ニ於テ相當ト思考スル場所ニ其裁判書ノ相當ノ數ヲ貼附ス可シ

第三百五拾九條 其裁判ヨリ三月内ニ養子ヲ爲ス者又ハ養子トナル者ノ請求ニ依リ養子ヲ爲ス者ノ住所ノ地ノ身分ノ簿冊上ニ其養子ヲ爲ス事ヲ記入ス可シ

其記入ハ控訴裁判所ノ裁判書ノ法式ニ適ヒタル副本ヲ檢視シタル上ニ非サレハ之ヲ爲ス可カラズ但シ右ノ定期内ニ其記入ヲ爲サハル時ハ養子ヲ爲スコトハ無効タル可シ(民四〇一〇三)

第三百六拾條 若シ養子ノ契約ヲ爲ス可キノ意ヲ証明スル證書ヲ治安裁判官ノ作リテ之ヲ裁判所ニ差出セシ後其裁判所ニ於テ確定ノ宣告ヲ爲サル前ニ養子ヲ爲サントスル者ノ死去シタル時ハ其審理ヲ繼續シ養子ヲ爲スコトヲ許ス可キ時ハ之ヲ許ス可シ

養子ヲ爲サントスル者ノ相續人ハ其養子ヲ爲スコトヲ許ス可カラスト思考スル時ハ檢事ニ此事ニ付テノ總テノ覺書及ヒ意見書ヲ差出スコトヲ得可シ

○第二章 好爲後見

第三百六拾壹條 何人ニ限ラス五十歳以上ノ齡ニシテ適法ノ子及ヒ身屬親ナキ者カ一個人ノ幼年ノ間法律上ノ名義ヲ以テ之ヲ己レニ依附セシメント欲スル時ハ其子ノ父母又ハ父母中ノ生存者ノ承諾ヲ得又父母共ニアラサル時ハ親族會議ノ承諾ヲ得又其子ニ分明ナル血屬親アラサル時ハ之ヲ容受シタル養育院ノ管理者又ハ其子ノ居住地ノ邑廳ノ承諾ヲ得テ其好爲後見人トナルコトヲ得可シ(民三四三三四六四。五)

第三百六拾貳條 夫又ハ婦ハ其配偶者ノ承諾ヲ得スシテ好爲後見人トナル

コトヲ得ス(民三四四)

第三百六拾三條 子ノ住所ノ治安裁判官ハ好爲後見ニ關スル要求及ヒ承諾ノ證書ヲ作ル可シ(民三五三)

第三百六拾四條 此後見ハ十五歳以下ノ子ノ利益ノ爲メニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

好爲後見ハ受後見者ヲ給養教訓シ且ツ其生計ヲ立ツルノ途ヲ得セシム可キノ義務ヲ自カラ惹起ス但シ總テノ別段ナル約權ト相觸ルハコトナカル可シ(民二〇三三六九一一三四)

第三百六拾五條 若シ受後見者ノ財産ヲ有シ且ツ以前後見ヲ受ケタル時ハ其財産ノ管理ハ其身体ノ管理ニ同シク好爲後見人ニ移ル可シ然レモ好爲後見人ハ教育ノ費用ヲ受後見者ノ入額中ヨリ引去ルコトヲ得ス(民三八九四五)

第三百六拾六條 若シ好爲後見人ノ其後見ヲ爲シ始メタル時ヨリ滿五年ノ後ニ至リ受後見者ノ未タ成年ニ至ラサル前ニ自己ノ死ス可キコトヲ先見シ

遺囑証書ヲ以テ其受後見者ヲ養子ト爲ス時ハ其好爲後見人ノ適法ノ子ヲ遺留セサルニ於テハ其處分ヲ有效ノモノトス(民三五。以下三六八)

第三百六拾七條 好爲後見人ノ五年ノ前若クハ其時期ノ後ニ其受後見者ヲ養子ト爲スノナクシテ死去セシ時ハ受後見者ニ其幼年ノ時間生計ヲ爲ス可キノ資産ヲ給與ス可シ但シ其資産ノ分量及ヒ種類ハ豫メ明確ナル合意ヲ以テ設備シタルナキ時ハ其後見人ノ代人ト受後見者ノ代人トノ間ニ協議シテ之ヲ規定ス可ク又爭ヒアル場合ニ於テハ裁判上ニテ之ヲ規定ス可シ(民三六四。一。二。三)

第三百六拾八條 受後見者ノ成年ニ至リシ時好爲後見人ノ之ヲ養子ト爲スント欲シ其受後見者ノ之ヲ承諾シタル時ハ前章ニ定メタル法式ニ從ヒ養子ト爲スノ手續ヲ爲ス可シ但シ其效ハ悉皆之ト同一ナリトス(民三四三以下)

第三百六拾九條 若シ受後見者ノ成年ニ至リシ時ヨリ三月内ニ養子トナル可キヲ好爲後見人ニ求メタルト雖モ其效ナク而シテ其受後見者ニ生計ヲ立ツ可キノ途ナキ時ハ好爲後見人ニ其受後見者ノ生計ヲ設備スルヲ能

ハサルカ爲メ之レカ賠償ヲ爲ス可キ旨ヲ言渡スヲ得可シ
其賠償ハ受後見者ヲシテ一箇ノ工藝ヲ得セシムルニ適當ナル扶助ヲ給スルニテリトス但シ此條件ト此場合ヲ先見シテ爲シタルコトアル可キ約權ト相觸ル、コトナカル可シ(民三六一。三六四。一。三。二。一。四九。一。五三)

第三百七拾條 受後見者ノ或ル財産ノ管理ヲ爲シタル好爲後見人ハ如何ナル場合ニ於テモ其計算ヲ爲サ、ルヲ得ス(民三六九。五。二七以下)

○第九卷 父ノ威權(千八百三年三月二十四日決定四月三日宣令)

第三百七拾壹條 子ハ年齡ノ如何ヲ問ハス其父母ヲ尊敬崇敬ス可シ(民一五二)

第三百七拾貳條 子ハ其成年ニ至ル迄又ハ其後見免脱ニ至ル迄父母ノ威力ノ下ニ在ルモノトス(民一四八。四。七。六。四。八。八)

第三百七拾三條 結婚中ハ父ノ其威力ヲ執行ス(民一四二)

第三百七拾四條 子ハ滿十八歳ノ齡ニ至ルノ後任意ヲ以テ兵ノ徵募ニ應スル爲メノ外其父ノ許ナクシテ父ノ家ヲ去ルコトヲ得ス

第三百七拾五條 子ノ行狀ニ付キ極メテ重要ナル戻意ノ事アル父ハ以下ニ記スル懲治ノ方法ヲ有ス可シ(民四六八)

第三百七拾六條 子ノ年齢ノ未タ十六歳ニ掛ラサル時ハ其父一月ニ過クルコトヲ得サル時間其子ヲ拘留セシムルコトヲ得可シ但シ之カ爲メ郡裁判所長ハ父ノ求メニ依リ拘引ノ命令書ヲ渡サ、ルヲ得ス(民三八。以下四六八)

第三百七拾七條 十六歳ノ年齢ニ掛リシ時ヨリ成年又ハ後見免脱ニ至ル迄ハ父ヨリ多クハ六月間其子ノ拘留ヲ請求シ得可キノミトス但シ父ヨリ右ノ裁判所長ニ申立テ裁判所長ハ檢事ト商議シタル後拘引ノ命令書ヲ渡シ又ハ之ヲ否ム可ク而シテ其拘引ノ命令書ヲ渡ス場合ニ於テハ父ヨリ請求シタル拘留ノ時間ヲ短縮スルコトヲ得可シ(民三八。四六八)

第三百七拾八條 右ノ中何レノ場合ニ於テモ其拘引ノ命令書ノ外ハ何等ノモノタリハ書面ヲモ又裁判上ノ法式ヲモ要スルコトナカル可シ但シ拘引ノ

命令書ニハ其理由ヲ表示ス可カラズ

父ハ其諸費用ヲ辨濟ス可キノ約務書ニ署名シ及ヒ相當ノ養料ヲ給ス可キノミトス

第三百七拾九條 父ハ己レヨリ命シ又ハ請求シタル拘留ノ時間ヲ何時ニ限ラヌ短縮スルコト自由ナリトス○若シ其子ノ拘留ヲ免サレシ後再ヒ不良ノ所行ニ陥ル時ハ前數條ニ定メタル方法ヲ以テ再ヒ其拘留ヲ命令スルコトヲ得可シ

第三百八拾條 若シ父ノ再婚シタル時ハ其前婚ノ子ノ十六歳ノ年齢ニ至ラサル時ト雖モ之ヲ拘留セシムルニ付キ第三百七十七條ニ從フ可キノトス

第三百八拾壹條 後ニ生殘リテ再婚セサル母ハ父方ノ最近親ノ血屬親二名ノ助成ヲ得且ツ第三百七十七條ニ從ヒ請求ノ方法ヲ用フルニ非サレハ子ヲ拘留セシムルコトヲ得ス

第三百八拾貳條 子ノ一身上ノ財産ヲ有シ又ハ一箇ノ職業ヲ執行スル時ハ

假令十六歳以下ノモノト雖也第三百七十七條ニ定メタル法式ヲ以テ請求
ノ方法ヲ用フルニ非ツレハ其拘留ヲ爲スコトヲ得ス

拘留セラレタル子ハ控訴裁判所ノ檢察長ニ一箇ノ覺書ヲ差出スコトヲ得可
シ○其檢察長ハ始審裁判所ノ檢察ヲシテ其意見ヲ申立テシメタル上控訴
裁判所長ニ其報告ヲ爲スコク而シテ控訴裁判所長ハ之ヲ父ニ告知セシ後
總テノ参照件ヲ收取シタル上ニテ始審裁判所長ヨリ渡シタル命令書ヲ廢
止シ又ハ更改スルコトヲ得可シ

第三百八拾三條 第三百七十六條第三百七十七條第三百七十八條第三百七
十九條ハ法律ニ循ヒ認定セラレタル私生子ノ父母ニモ通シ用フ可キモノ
トス(民三三四以下)

第三百八拾四條 結婚中ハ父又婚姻解分ノ後ハ父母中ノ生殘ル者ハ其子ノ
滿十八歳ノ齡ニ至ル迄又ハ十八歳ノ齡ニ至ラサル前ニ爲スコトアル可キ後
見免脱ニ至ル迄其子ノ財産ノ收益權ヲ有スコシ(民四五三四七六五七八五八二六。
一六三三三三三。一四四二)

第三百八拾五條 其收益權ノ責任ハ左ノ如シ

- 第一 使用收益者ノ擔任ス可キ責任
- 第二 子ノ家産ニ准スル其子ノ給養保育教訓
- 第三 年金ノ賦額又ハ元金ノ利息ノ辨濟
- 第四 埋葬ノ費用及ヒ最後ノ病ノ費用(民三三六〇以下二一〇二)

第三百八拾六條 其收益ハ父母中ニテ離婚ノ宣告ヲ受ケタル者ノ利益ニ於
テ之ヲ爲スコカラス又其收益ハ再婚ノ場合ニ於テハ母ニ關シテ止息ス可
シ(民三八四)

第三百八拾七條 其收益ハ子ノ特立ノ勞働及ヒ勉勞ニ依テ獲得スルコトアル
可キ財産並ニ父母ニ於テ收益ス可カラスト爲ス條件ヲ明カニ定メテ其子
ニ贈與シ又遺囑シタル財産ニ及ホスコカラス(民三八九七三〇)

○第拾卷

幼年後見及ヒ後見ノ免脱(千八百三年三月二十六日決定四月五日宣令)

○第壹章

幼年

第三百八拾八條

幼者トハ未ダ滿二十一歳ノ齡ニ至ラサル男女ヲ云フ(民一四四一四八、一一二四一三〇五以下、一三一四二一九五)

○第貳章

後見

○第壹節

父母ノ後見

第三百八拾九條

結婚中ハ父其幼年ノ子ノ一身上ノ財産ノ管理者タリ父ハ其收益權ヲ有セサル財産ニ付テハ其所有權ト入額トニ關シテ計算ヲ爲ス可シ又法律ニ依リ使用收益權ヲ附與セラレタル財産ニ付テハ其所有權ノミニニ關シテ計算ヲ爲ス可キモノトス(民一四一四二四二、三三八四三、三八九四七、七四八、一一三、八、五、二七)

第三百九拾條

夫婦中一方ノ者ノ死去又ハ准死ニ依リ婚姻ノ解分シタル後ハ後見ヲ免脱セラレサル幼年ノ子ノ後見ハ當然父母中ノ生殘ル者ニ屬ス

可シ(民三九〇、三九四、三九五、四〇五、四二二、四四)

第三百九拾壹條

然レ父ハ後ニ生殘ル後見ヲ爲ス母ニ特別ノ輔佐人ヲ任スルコトヲ得可シ然ル時ハ其母ハ其輔佐人ノ意見ヲ聽カスシテ後見ニ關スル何等ノ所爲ヲモ行フコトヲ得サルモノトス若シ父ヨリ其輔佐人ノ關涉ス可キ所爲ヲ特定シタル時ハ後見ヲ爲ス母ハ其輔佐人ノ補助ナクシテ其他ノ所爲ヲ行フコトヲ得可シ

第三百九拾貳條

其輔佐人ノ選任ハ左ノ方法中ノ一ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第一 最後ノ意思ノ證書ニ依リ

第二 書記ノ補助ヲ受ケタル治安裁判官ノ面前又ハ公證人數名ノ面前

ニ於テ爲シタル申述ニ依リ(民三九八、九六九以下)

第三百九拾三條

若シ夫ノ死去セシ時其婦ノ懐胎シタルニ於テハ親族會議ヨリ胎兒ノ管財人ヲ任ヌ可シ

其子ノ出產ニ於テ母ハ之レカ後見人トナリ管財人ハ當然之レカ代後見人

タル可シ(民三九四三九五四。六以下四二〇)

第三百九拾四條 母ハ必スシモ後見ヲ受諾スルニ及ハス然レ之ヲ否拒シタル場合ニ於テハ後見人ヲ撰任セシムルニ至ル迄後見ノ本分ヲ履行セサルヲ得ス(民三九〇四二一)

第三百九拾五條 後見ヲ爲ス母ノ再婚セント欲スル時ハ婚姻證書ノ前ニ親族會議ヲ招集セサルヲ得ス但シ親族會議ニ於テハ其母ニ後見ヲ保存セサル可カラサルヤ否ヲ決定ス可シ

其招集ヲ爲ササル時ハ母ハ當然後見ヲ失フ可シ而シテ其後夫ハ母ノ不當ニ保存シタル後見ノ總テノ效果ニ付キ連帶シテ實ニ任ス可キモノトス(民三九五三七三三九。四。五。六。七。八。九。一〇。一一。一二。一三。一四。一五。一六。一七。一八。一九。二〇。二一。二二。二三。二四。二五。二六。二七。二八。二九。三〇。三一。三二。三三。三四。三五。三六。三七。三八。三九。四〇。四一。四二。四三。四四。四五。四六。四七。四八。四九。五〇。五一。五二。五三。五四。五五。五六。五七。五八。五九。六〇。六一。六二。六三。六四。六五。六六。六七。六八。六九。七〇。七一。七二。七三。七四。七五。七六。七七。七八。七九。八〇。八一。八二。八三。八四。八五。八六。八七。八八。八九。九〇。九一。九二。九三。九四。九五。九六。九七。九八。九九。一〇〇)

第三百九拾六條 法ニ適シテ招集セラレタル親族會議ニ於テ母ニ後見ヲ保存シタル時ハ必ス其後夫ヲ以テ共同後見人ト爲ス可シ但シ其後夫ハ婚姻以後ノ管理ニ付テハ其婦ト連帶シテ實ニ任ス可キモノトス(民四〇六四五〇。一一。一二。一三。一四。一五。一六。一七。一八。一九。二〇。二一。二二。二三。二四。二五。二六。二七。二八。二九。三〇。三一。三二。三三。三四。三五。三六。三七。三八。三九。四〇。四一。四二。四三。四四。四五。四六。四七。四八。四九。五〇。五一。五二。五三。五四。五五。五六。五七。五八。五九。六〇。六一。六二。六三。六四。六五。六六。六七。六八。六九。七〇。七一。七二。七三。七四。七五。七六。七七。七八。七九。八〇。八一。八二。八三。八四。八五。八六。八七。八八。八九。九〇。九一。九二。九三。九四。九五。九六。九七。九八。九九。一〇〇)

○第貳節 父母ヨリ附與シタル後見

第三百九拾七條 血屬親タルト又然ノミナラス外人タルトヲ問ハス後見人ヲ撰ム一個人ノ權利ハ父母中ノ後ニ死去スル者ノミニ屬ス(民三九〇四二一。五。五五。九)

第三百九拾八條 其權利ハ第三百九十二條ニ定メタル法式ニ從ヒ且ツ以下ノ例外及ヒ改竊ニ從フニ非サレハ之ヲ執行スルヲ得ス

第三百九拾九條 再婚ヲ爲シテ其前婚ノ子ノ後見ヲ保存セラレサル母ハ其子ノ爲メニ後見人ヲ撰ムヲ得ス(民三九五)

第四百條 再婚ヲ爲シテ後見ヲ保存セラレタル母ノ其前婚ノ子ノ爲メニ後見人ヲ撰ミタル時ハ其撰擇ハ親族會議ニ於テ之ヲ確認シタル時ニ非レハ有效ナリトセス(民四〇六以下)

第四百壹條 父又ハ母ヨリ撰任セラレタル後見人ハ後見ヲ受諾スルニ及ハス但シ其後見人カ其特撰ヲ受ケスト雖モ親族會議ヨリ亦後見ヲ任セラレハアル可キ人ノ種類中ニ在ル時ハ格別ナリトス(民四二一四二七)

○第三節 尊屬親ノ後見

第四百貳條 父母中ノ後ニ死去スル者ヨリ幼者ノ爲メニ後見人ヲ撰ミタル
トナキ時ハ後見ハ其幼者ノ父方ノ祖父ニ當然屬スルモノトシ又父方ノ祖
父アラサル時ハ其母方ノ祖父ニ當然屬スルモノトス而シテ斯クノ如ク次
第ニ遺級ニ溯ル可シ但シ父方ノ尊屬親ハ常ニ必ス同級ノ母方ノ尊屬親ヨ
リモ撰取セラル可キモノトス(民一四二四二一九〇七)

第四百三條 幼者ノ父方ノ祖父及ヒ母方ノ祖父アラシテ二人共ニ幼者ノ
父方系ニ屬スル更ニ上級ノ尊屬親二名ノ間ニ抗競ノ存在スル時ハ後見ハ
其二人中ニテ幼者ノ父ノ父方ノ祖父タル者ニ當然移ル可シ

第四百四條 若シ母方系ノ曾祖父二名ノ間ニ右同一ノ抗競アル時ハ親族會
議ヨリ其撰任ヲ爲ス可シ然レモ親族會議ハ右尊屬親二名中ノ一人ニ非サ
レハ之ヲ撰ムコトヲ得ス(民四〇六以下)

○第四節 親族會議ヨリ附與シタル後見

第四百五條 後見ヲ免脱セラレサル幼年ノ子ノ父母ナク又父母ヨリ撰任シ

タル後見人ナク又男ノ尊屬親ナキ時又前ニ記シタル分限中ノ一箇ヲ有ス
ル後見人カ以下ニ記スル所ノ除外ノ場合ニ在リ又ハ有效ニ辭シタル時ハ
親族會議ヨリ後見人ノ撰任ヲ設備ス可シ(民三九七四〇三四二七四三九八八二九
六八)

第四百六條 其會議ハ幼者ノ血屬親又ハ其債主又ハ其他ノ關係各人ノ請求
及ヒ手續ニ依リ若クハ然ノミナラス幼者住所ノ治安裁判官ノ職權上ニテ
其要求ニ依リ之ヲ招集ス可シ○何人ニ限ラス後見人ヲ撰任ス可キノ原由
タル實事ヲ治安裁判官ニ申告スルコトヲ得可シ(民一〇八四〇七四〇九八八二)

第四百七條 親族會議ハ治安裁判官ヲ除キテ後見ヲ開始ス可キ邑内及ヒ二
「ミリアメートル」ノ距離内ニ在ル血屬親又ハ姻屬親六名ヨリ組成ス可シ但
シ其半數ハ父方ノモノニシテ半數ハ母方ノモノタル可ク且ツ兩系共ニ親
近ノ順序ニ從フ可キモノトス

血屬親ハ同級ノ姻屬親ヨリモ撰取セラル可ク又同級ノ血屬親中ニ於テハ
年長者ハ年少者ヨリモ撰取セラル可シ(民四〇八四〇九四一〇四一三四一五七三)

五)

第四百八條 幼者ト同父母兄弟及ヒ同父母姉妹ノ夫ノミハ前條ニ定メタル
員數制限ノ例外ナリトス

若シ此等ノ者ノ六名又ハ其以上ナル時ハ皆親族會議員ニシテ此等ノ者ノ
ミニテ尊屬親ノ寡婦及ヒ有效ニ辭シタル尊屬親アル時ハ之ト共ニ親族會
議ヲ組成ス可シ

若シ此等ノ者ノ六名以下ナル時ハ親族會議ヲ補完スル爲メノミニ其他ノ
血屬親ヲ招喚ス可シ(民四〇七四四二)

第四百九條 若シ其地ニ在リ又ハ第四百七條ニ指定メタル距離内ニ在ル父
方系又ハ母方系ノ血屬親又ハ姻屬親ノ數定員ニ充タサル時ハ治安裁判官
更ニ遠隔ノ地ニ住所アル血屬親又ハ姻屬親ヲ招喚シ若クハ其邑内ニ在リ
テ幼者ノ父又ハ母ト平生親シク交ハリタリト知レタル國土ヲ招喚ス可シ
(民四〇七)

第四百拾條 治安裁判官ハ其地ニ在ル血屬親又ハ姻屬親ノ數定員ニ充ツル

時ト雖モ其現在ノ血屬親又ハ姻屬親ヨリ更ニ近級又ハ之ト同級ノ血屬親
又ハ姻屬親ヲ其如何ナル距離ニ住所アルヲ問ハス招喚スルヲ許ルスト
得可シ然レモ之レカ爲メニハ其現在ノ血屬親又ハ姻屬親中ノ或者ヲ省減
シテ前數條ニ規定シタル定員ニ過クルヲナカラシムルヲ必要トス

第四百拾壹條 出席ス可キ期限ハ治安裁判官特定ノ日ニ之ヲ規定ス可シ然
レモ其呼出サレタル各人ノ皆其邑内ニ居住シ又ハ二ミリアメートルノ距
離内ニ居住スル時ハ呼出狀ノ送達ト會議集合ノ爲メニ指示シタル日トノ
間ニ常ニ必ス少クモ三日ノ時間ヲ存ス可キ様之ヲ規定ス可シ

若シ呼出サレタル各人中ニ右ノ距離外ニ住所アル者アル時ハ其期限ニ三
「ミリアメートル」毎ニ一日ヲ増ス可シ(民一〇三三)

第四百拾貳條 此ノ如クニ招集セラレタル血屬親、姻屬親又ハ朋友ハ自カラ
出席シ又ハ特別ノ代理人ヲシテ代理セシム可シ
其代理人ハ一人以上ヲ代理スルヲ得ス(民一九八四以下)

第四百拾三條 凡ソ招集セラレタル血屬親、姻屬親又ハ朋友ノ適法ノ辨解ノ

理由ナクシテ出席セサル時ハ治安裁判官ヨリ五十フランクニ過クルコトヲ得サル罰金ノ宣告ヲ受ク可シ但シ其宣告ハ之ヲ控訴ス可カラズ

第四百拾四條 若シ充分ナル辨解ノ理由アリテ其欠席職員ヲ待チ若クハ之ニ代ヘテ其他ノ者ヲ任スルノ適當ナル場合ニ於テハ總テ幼者ノ利益ノ爲メニ必要ナリト思ハル、其他ノ場合ニ於ケルカ如ク治安裁判官其集會ヲ日ヲ定メスシテ延期シ又ハ日ヲ定メテ延期スルコトヲ得可シ

第四百拾五條 其集會ハ當然治安裁判官ノ家ニ於テ之ヲ開設ス可シ但シ治安裁判官ノ自カラ其他ノ場所ヲ指定メタル時ハ格別ナリトス○其集會ニ於テ決議ヲ爲スニハ招集セラレタル職員少クハ四分三ノ出席ヲ必要トス(民四〇七四〇八)

第四百拾六條 治安裁判役ハ親族會議ニ出席シ其會議ニ於テ可否ヲ述フルノ權利アリ且ツ可否同數ナル時ハ之ヲ決スルノ權利アリ(民八八三三八八八九)

第四百拾七條 若シ佛蘭西ニ住所アル幼者ノ其藩屬地ニ於テ財産ヲ占有シ

又ハ藩屬地ニ住所アル幼者ノ佛蘭西ニ於テ財産ヲ占有スル時ハ其財産ノ特別ノ管理ヲ准後見人ニ附與ス可シ

此場合ニ於テハ後見人ト准後見人トハ互ニ相關スルコトナク且ツ其各自ノ管理ノ爲メ相互ニ其責ニ任セサルモノトス

第四百拾八條 後見人自己ノ面前ニ於テ撰任ヲ受ケタル時ハ其撰任ノ日ヨリ後見人タルノ分限ヲ以テ事ヲ行ヒ及ヒ管理ス可ク然ラサル時ハ其撰任ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ右ノ分限ヲ以テ事ヲ行ヒ及ヒ管理ス可シ(民四五〇以下民八八二以下)

第四百拾九條 後見ハ一身ノ責任ニシテ後見人ノ相續人ニ移ラサルモノトス○其相續人ハ先人ノ管理ノミニ付キ其責ニ任ス可ク又其相續人ノ成年ナル時ハ新タナル後見人ノ撰任ニ至ル迄其管理ヲ繼續ス可シ(民七二四二〇〇三三〇一〇)

○第五節 代後見人

第四百貳拾條 總テノ後見ニ於テ親族會議ヨリ撰任シタル代後見人アル可

キモノトス

其職務ハ幼者ノ利益カ後見人ノ利益ト反對スル時幼者ノ利益ノ爲メニ事ヲ行フニアリトス(民三九。四二六四二七以下、四四二以下、四五〇。四五七四六四、四七〇。四九〇。一二五二。一二三二一三七以下、昨四四四)

第四百貳拾壹條

本章第一節第二節第三節ニ記シタル分限中ノ一箇ヲ具フル者カ後見人ノ職ヲ任セラレタル時ハ其後見人ハ職務ヲ行ヒ始ムル前ニ代後見人ノ撰任ノ爲メ第四節ニ記シタル如クニ組成シタル親族會議ヲ招集セシメサルヲ得ス

若シ後見人其法式ヲ履行セサル前ニ管理ニ干涉シタル時ハ血屬親債主又ハ其他ノ關係各人ノ請求ニ依リ若クハ治安裁判官ヨリ其職權ヲ以テ招集シタル親族會議ニ於テ若シ其後見人ノ方ニ詐欺アル時ハ其後見ヲ取上クルヲ得可シ但シ幼者ニ對シテ爲ス可キ賠償ト相觸ル、トナカル可シ(民四〇七以下)

第四百貳拾貳條

其他ノ後見ニ於テハ後見人ノ撰任ノ後直チニ代後見人ノ

撰任ヲ爲ス可シ

第四百貳拾三條

如何ナル場合ニ於テモ後見人ハ代後見人ノ撰任ノ爲メ辭ヲ參ス可カラズ但シ代後見人ハ同父母兄弟ノ場合ノ外ハ兩系中ニテ後見人ノ屬セサル系中ヨリ之ヲ撰ム可シ

第四百貳拾四條

代後見人ハ後見ノ缺位トナリ又ハ失踪ニ依テ後見ヲ拋棄シタル時當然後見人ニ代ハル可カラズ然レモ代後見人ハ此場合ニ於テハ漸ナル後見人撰任ノ手續ヲ爲サ、ルヲ得ス但シ代後見人ノ此成規ニ背キテ幼者ノ爲メニ損害ヲ生セシメタル時ハ其損害ノ賠償ヲ爲ス可シ(昨八八三)

第四百貳拾五條

代後見人ノ職務ハ後見ト同時ニ止息ス可シ(民四七六四八八)

第四百貳拾六條

本章第六節及ヒ第七節ニ記シタル成規ハ代後見人ニ適用

ス可シ

然レモ後見人ハ代後見人罷免ノ手續ヲ爲スヲ得ス又其目的ヲ以テ招集シタル親族會議ニ辭ヲ參スルヲ得ス

○第六節 後見ヲ免カレシムル理由

第四百貳拾七條 左ノ各人ハ後見ヲ免カル、モノトス

千八百四年五月十八日ノ法令第三卷第五卷第六卷第八卷第九卷第十卷第十一卷ニ指定シタル各人

大審院長及ヒ同院裁判官並ニ同院ノ檢事長及ヒ代官人長

州長

後見ヲ設置スル所ノ州ヨリ更ニ他ノ州ニ於テ公務ヲ執行スル各國士(民四三〇以下)

第四百貳拾八條 左ノ各人ハ亦同シク後見ヲ免カル、モノトス

現役ノ軍人及ヒ王國(共和國)領地外ニ於テ國王(共和國大統領)ノ任務ヲ履行スル總テ其他ノ國士(民四三〇以下)

第四百貳拾九條 若シ其任務ノ公正ナラスシテ爭アル時ハ訟求者ヨリ其辨解ノ理由トシテ申立テタル任務ヲ管轄スル主務省卿ノ保證書ヲ差出シタル後ニ非サレハ免許ヲ宣告ス可カラス

第四百三拾條 前條ニ記シタル分限アル國士ノ後見ヲ免カレシムル職務服役又ハ任務ヲ受ケタル後ニ後見ノ職ヲ受諾シタル時ハ最早其理由ノ爲メニ後見ヲ免カル、トヲ許サス(民四三八、四三九)

第四百三拾壹條 之ニ反シテ後見ノ受諾及ヒ管理ノ後ニ右ノ職務服役又ハ任務ヲ附與セラレタル國士ノ其後見ヲ保存スルトヲ欲セサル時ハ己レニ代ル可キ者ヲ選任スルノ手續ヲ爲サシムル爲メ一月内ニ親族會議ヲ招集セシムルトヲ得可シ

若シ右ノ職務服役又ハ任務ノ終リタル時新後見人ノ其後見ヲ免カル、トヲ求メ又ハ舊後見人ノ再ヒ後見ヲ求ムル時ハ親族會議ヨリ舊後見人ニ其後見ヲ復スルトヲ得可シ

第四百三拾貳條 血屬親又ハ姻屬親ニ非サル各國士ハ四「ミリアメートル」ノ距離内ニ後見ヲ管理スルトヲ得可キ血屬親又ハ姻屬親ノ存在セサル場合ノ外之ニ後見ノ職ヲ受諾スルトヲ強ユルヲ得ス(民四三八以下)

第四百三拾三條 滿六十五歳ノ齡ニ至リシ各人ハ後見人トナルヲ拒絶スル

トヲ得可シ○其齡ニ至ラサル前ニ撰任セラレタル者ハ七十歳ノ齡ニ至リシ時其後見ヲ免カル、トヲ得可シ(民四三八以下附八八三)

第四百三拾四條 重劇ニシテ且ツ適法ノ證アル痲疾ニ罹リタル各人ハ後見ヲ免カル、モノトス

其撰任ノ後ニ右ノ痲疾ニ罹リタル時ハ亦後見ヲ免カル、トヲ得可シ(民四三八以下附八八三)

第四百三拾五條 二箇ノ後見ハ各人ノ爲メ第三ノ後見ヲ受諾スルヲ免カル、正當ノ理由ナリトス

配偶者又ハ父ニシテ既ニ一箇ノ後見ニ任シタル者ハ自己ノ子ノ後見ヲ除クノ外第二ノ後見ヲ受諾スルニ及ハス(民四三八以下附八八三)

第四百三拾六條 五人ノ適法ノ子アル者ハ其子ノ後見ノ外總テ其他ノ後見ヲ免カル、モノトス

國王(共和國)ノ軍隊ニ於テ現役中ニ死シタル子ハ右ノ免許ヲ爲スタメ常ニ必ス之ヲ算入ス可シ

其他ノ死シタル子ハ己レ自カラ現ニ生存スル子ヲ遺留シタル時ニ非サレハ之ヲ算入ス可カラズ(民四三八附八八三)

第四百三拾七條 後見ノ間ニ子ヲ擧グルト雖モ後見ノ職ヲ退クトヲ許スヲ得ス

第四百三拾八條 若シ撰任セラレタル後見人ノ其後見ヲ附與スル決議ノ席ニ在ル時ハ必ス直チニ其辨解ノ理由ヲ申立テ其會議ニ於テ之ヲ評定セシム可ク若シ然ラサル時ハ總テ其後ノ請求ニ於テ受理セサルノ言渡ヲ受ク可シ

第四百三拾九條 若シ撰任セラレタル後見人ノ其後見ヲ附與スル決議ノ席ニ立會ハサル時ハ其辨解ノ理由ヲ評定セシムル爲メ親族會議ヲ招集セシムルヲ得可シ

此事ニ付テノ手續ハ其撰任ノ通知ヲ受ケシ時ヨリ三日内ニ之ヲ爲サ、ル可カラズ但シ其後見人ノ住所ノ地ヨリ後見開始ノ地ニ至ル迄ノ距離三ミリアメートル毎ニ右ノ期限ニ一日ヲ増ス可ク其期限ヲ過クル時ハ請求ヲ

爲スヨリ許サス(民四〇七以下附八八以下一〇三三)

第四百四拾條 其辨解ノ理由ノ棄却セラレタル時ハ後見人之ヲ許容セシムル爲メ裁判所ニ上訴スルヲ得可シ然レ其訴訟ノ間ハ假リニ管理ス可キモノトス(民四三八)

第四百四拾壹條 若シ後見人ノ後見ヲ免カル、ト得タル時ハ其辨解ノ理由ヲ棄却セシ者訴訟費用ヲ償フ可キノ言渡ヲ受クルコトアル可シ若シ後見人ノ敗訴トナル時ハ後見人自カラ訴訟費用ヲ償フ可キノ言渡ヲ受ク可シ(附一三〇、一三二)

○第七節 後見ノ無能力後見ノ除斥後見ノ罷免

第四百四拾貳條 左ノ各人ハ後見人タルコト能ハス又親族會議員タルコト能ハス

- 第一 父母ヲ除クノ外ノ幼者
- 第二 治産禁ヲ受ケタル者
- 第三 母及ヒ尊屬親ニ非サル女

第四 幼者ノ身分其家産又ハ其財産ノ重大ナル一部分ニ關シテ自カラ幼者ト訴訟ヲ爲ス各人又ハ其父母ニ於テ幼者ト訴訟ヲ爲ス各人(民三七二四四三四四四四四四四九五五〇七)

第四百四拾三條 施體又ハ加辱ノ刑ノ言渡ハ當然後見ノ除斥ヲ惹起ス○其言渡ハ以前附與シタル後見ニ關スル場合ニ於テハ罷免ヲ惹起ス(刑七八)

第四百四拾四條 左ノ各人ハ亦後見ヲ除斥セラレ又然ノミナラス後見ノ執行中ナル時ハ罷免セララル可キモノトス

- 第一 著明ナル不品行ノ者
- 第二 其管理ノ無能又ハ不誠實ノ證アル者(民三七三三八九四四二五一三三三三三)
- 三

第四百四拾五條 後見ヲ除斥セラレ又ハ罷免セラレタル各人ハ親族會議員タルコトヲ得ス(民四四二以下)

第四百四拾六條 後見人ヲ罷免ス可キコトアル度毎ニ代後見人ノ求メニ依リ

又ハ治安裁判官ヨリ其職權ヲ以テ招集シタル親族會議ヨリ其罷免ヲ宣告ス可シ

治安裁判官ハ幼者ノ從兄弟ノ級又ハ更ニ近級ノ血屬親又ハ姻屬親一名或ハ數名ヨリ明確ニ請求セラレタル時ハ其招集ヲ爲スコトヲ免カル、ヲ得ス
(民四〇六以下四二〇、昨八八九)

第四百四拾七條 後見人ノ除斥又ハ罷免ヲ宣告スル親族會議ノ各決議書ニハ其理由ヲ附ス可シ而シテ其決議ハ後見人ノ申述ヲ聽キタル後又ハ之ヲ招喚シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百四拾八條 若シ後見人ノ其決議ヲ承認スル時ハ其旨ヲ記載シ新後見人直チニ其職務ヲ行ヒ始ム可シ

若シ異論アル時ハ代後見人其決議ノ認可ヲ得ント始審裁判所ニ訴フ可シ但シ其裁判所ノ宣告ハ控訴スルコトヲ得可キモノトス

此場合ニ於テハ除斥セラレ又ハ罷免セラレタル後見人ハ其後見ニ於テ保存セラル、ノ旨渡ヲ得ル爲メ己レ自カラ代後見人ヲ呼出スコトヲ得可シ(民

四三九、昨八八三以下九五五、九九二

第四百四拾九條 招集ヲ請求シタル血屬親又ハ姻屬親ハ右ノ訴訟ニ参加スルコトヲ得可シ但シ其訴訟ハ至急事件トシテ之ヲ審理シ及ヒ裁判ス可キモノトス(昨八八二、八八九)

○第八節 後見人ノ管理

第四百五拾條 後見人ハ幼者ノ身ヲ看護シ且ツ總テ民事上ノ所爲ニ於テ之ニ代ハル可シ

後見人ハ其家父ニ於テ幼者ノ財産ヲ管理シ且ツ其不其ノ管理ヨリ生スルコトアル可キ損害ノ賠償ヲ擔當ス可シ

後見人ハ幼者ノ財産ヲ買フコトヲ得ス又親族會議ヨリ代後見人ニ後見人ト幼者ノ財産貸貸ヲ約スルコトヲ許可シタル時ニ非サレハ幼者ノ財産ヲ貸借スルコトヲ得ス又其受後見者ニ對スル權利又ハ債權ノ讓渡ヲ受諾スルコトヲ得ス(民三八四、四〇六、四四四、五七五、五八七、六〇二、五九六、七一八、一九九九、昨四六六、四七四、四四二)

第四百五拾壹條 後見人ハ法ニ適シテ知り得タル其擔任ノ日ヨリ十日内ニ

若シ封印ヲ附シアラハ其封印ノ除去ヲ請求シ直チニ代後見人ノ面前ニ於テ幼者ノ財産ノ目錄ニ取掛ラシム可シ
若シ幼者ヨリ後見人ニ或ル物ヲ償フ可キ時ハ後見人ハ公ケノ役員ヨリ爲ス可キ所ノ要求ニ依リ其幼者ヨリ得可キ物アル旨ヲ申述シテ之ヲ目錄中ニ記セシメサル可カラズ若シ然ラサレハ後見人其權利ヲ失フ可シ但シ其公ケノ役員ヨリ右ノ要求ヲ爲シタルトハ之ヲ調書ニ記載ス可キモノトス
(民一九三二、九四二)

第四百五拾貳條 後見人ハ其目錄終成ノ時ヨリ一月内ニ公ケノ役員ノ爲ス難賣ヲ以テ代後見人ノ面前ニ於テ總テノ財産ヲ賣ラシム可ク且ツ其難賣ヲ爲スニハ先ツ附又ハ公告ヲ爲シテ其由ヲ賣拂ノ調書ニ記ス可シ但シ親族會議ニテ原品ノ儘保存スルコトヲ後見人ニ許可シタル財産ハ此限ニアラズ(民一九三二、九四六以下)

參看 千八百八十年二月二十七日ノ法律ヲ參照ス可シ

第四百五拾三條 父母ノ幼者ノ財産ニ付キ固有ニシテ且ツ法律上ノモノナ

ル収益權ヲ有スル時其財産ヲ原品ノ儘ニテ渡サンカ爲メ之ヲ保存セント欲スルニ於テハ之ヲ賣拂フコトヲ免カル、モノトス

此場合ニ於テ父母ハ自己ノ費用ヲ以テ鑑定人ヲシテ其財産ノ正當ノ價額ニ於ケル評價ヲ爲シシム可シ但シ其鑑定人ハ代後見人ヨリ撰任ヲ受ケ治安裁判官ニ對シテ誓ヲ爲ス可キモノトス○右財産ノ中ニテ父母ノ原品ノ儘ニテ差出スコトヲ得サルモノハ父母ヨリ其評定ノ價額ヲ返還ス可シ

第四百五拾四條 父母ノ後見ヲ除クノ外總テ其他ノ後見ヲ執行シ始ムル時ニ當リ親族會議ニ於テ其管理セラレタル財産ノ多寡ニ准シ見積書ヲ以テ幼者ノ毎年ノ費額並ニ其財産管理ノ費額ノ登リ得可キ金額ヲ規定ス可シ
全上ノ證書ヲ以テ後見人其管理ヲ爲スニ付キ給料ヲ受ケ且ツ後見人ノ責任ノ下ニ在リテ管理スル特別ノ管理人一名又ハ數名ノ助ケヲ受クルコトヲ許サル、ヤ否ヲ明示ス可シ(民一九九四)

第四百五拾五條 其會議ニ於テハ後見人ノ爲メニ費額ニ過キタル入額ノ餘分ヲ益用スル義務ノ始マル可キ金額ヲ確然ト定ム可シ但シ其益用ハ六月

ノ期限内ニ之ヲ爲サ、ルヲ得サルモノニシテ若シ此期限ヲ過クル時ハ後見人其益用ヲ爲サ、ルニ付テノ利息ヲ負擔ス可シ(民二五三一九〇七)

第四百五拾六條 若シ後見人其益用ヲ始メサルヲ得サル金額ヲ親族會議ヲシテ定メシメカリシ時ハ其後見人前條ニ記シタル期限ノ後ニ至リ其益用セサル金額ノ如何ニ些少ナルヲ問ハズ總テ其金額ノ利息ヲ負擔ス可シ(民四七四二一五三)

第四百五拾七條 後見人ハ假令父又ハ母タリハ親族會議ノ許可ヲ得ルコトナクシテ幼者ノ爲メニ金額ヲ借受ケ又ハ幼者ノ不動産ノ所有權ヲ移轉シ又ハ之ヲ書入質ト爲スコトヲ得ス

其許可ハ充分ナル必要又ハ明白ナル利益ノ原由ノ爲メニ非サレハ之ヲ附與ス可カラズ

其第一ノ場合ニ於テハ親族會議ハ後見人ヨリ差出シタル簡畧ナル計算書ニ依リ幼者ノ金額動産及ヒ入額ノ不足ナルコトヲ證明シタル後ニ非サレハ其許可ヲ附與ス可カラズ

如何ナル場合ニ於テモ親族會議ハ先キニ賣拂ハサル可カラサル不動産ト其有益ナリト思考スル總テノ條件トヲ指示ス可シ(民四六〇、昨九五三以下)

第四百五拾八條 右ノ目的ニ關スル親族會議ノ決議ハ後見人ヨリ始審裁判所ニ其認可ヲ求メテ之ヲ得タル後ニ非サレハ執行ス可カラサルモノトス但シ始審裁判所ニ於テハ裁判官會議室ニ於テ檢事ノ申述ヲ聞キタル後其裁定ヲ爲ス可シ(昨九五四以下)

第四百五拾九條 其賣拂ハ其縣内ノ常例ノ場所ニ於テ相次テ三次ノ日曜日ニ三次ノ貼附ヲ爲シタル後始審裁判所ノ裁判官又ハ特ニ任セラレタル公證人代後見人ノ面前ニ於テ賣賣ヲ以テ公ケニ之ヲ爲ス可シ其貼附書各通ハ之ヲ貼附スル各邑ノ邑長之ニ檢署シ及ヒ之ヲ保證ス可シ

(昨九五八以下九六二)

第四百六拾條 幼者ノ財産所有權ノ移轉ノ爲メ第四百五十七條及ヒ第四百五十八條ニ必要ナリト定メタル法式ハ不分ノ共同所有者ノ要求ニ依リ裁判ヲ以テ不分物ノ賣賣ヲ命令シタル場合ニ適用ス可カラズ

此場合ニ於テハ唯前條ニ定メタル法式ヲ以テスルニ非サレハ其不分物ノ
贈與ヲ爲スコトヲ得サルモノトス但シ其贈與ニハ必ス外人ヲ容受ス可シ(民
四六五五〇九八二三八二七八三八以下一六八六一六八七九六六以下)

第四百六拾壹條 後見人ハ豫メ親族會議ノ許可ヲ得ルコトナクシテ幼者ノ受
ク可キ財産相續ヲ受諾シ又ハ之ヲ棄却スルコトヲ得ス○其受諾ハ目錄ノ利
益ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲ス可カラズ(民七七六七八四七九三八四三九九七)

第四百六拾貳條 幼者ノ名前ヲ以テ棄却シタル財産相續ヲ他人ノ受諾セサ
ル場合ニ於テハ後見人更ニ親族會議ノ決議ニ依リ特ニ許可ヲ得テ其財産
相續ヲ取戻シ若クハ成年トナリタル幼者自カラ之ヲ取戻スコトヲ得可シ但
シ其取戻ヲ爲ス時ノ現在ノ景狀ノ儘ニテ其財産相續ヲ取戻スコク又相續
人虧缺ノ間ニ法ニ適シテ爲シタル賣拂及ヒ其他ノ所爲ヲ取消サント求ム
ルコトヲ得ス(民七九〇)

第四百六拾三條 後見人ハ親族會議ノ許可ヲ得ルニ非サレハ幼者ニ爲シタ
ル贈與ヲ受諾スルコトヲ得ス

其贈與ハ幼者ニ關シテ成年者ニ關スルト同一ノ效ヲ有スルモノトス(民九
三五九四〇)

第四百六拾四條 如何ナル後見人タリハ親族會議ノ許可ナクシテ幼者ノ不
動産ノ權利ニ關シタル訴ヲ裁判所ニ申告スルコトヲ得ス又同一ノ權利ニ關
シタル請求ヲ認諾スルコトヲ得ス(民四〇七以下四二〇、二二三五)

第四百六拾五條 後見人ノ分派ヲ要求スルニ付テハ右同一ノ許可ヲ必要ト
ス然レ幼者ニ對シテ爲シタル分派ノ請求ニ付テハ後見人右ノ許可ナクシ
テ之ニ答フルコトヲ得可シ(民四六〇八一七)

第四百六拾六條 分派ヲシテ幼者ニ關シ成年者ノ間ニ有スル總テノ效ヲ得
セシメントスルニハ財産相續開始ノ地ノ始審裁判所ヨリ任シタル鑑定人
ヲシテ其評價ヲ爲シシメタル後裁判上ニテ其分派ヲ爲サマルヲ得ス
鑑定人ハ右ノ裁判所長又ハ其代理タル他ノ裁判官ノ面前ニテ善良誠實ニ
其任務ヲ履行スコヤノ誓ヲ爲シタル後遺産ノ分割及ヒ區分財産ノ組成ニ
取掛ル可シ但シ其區分財産ハ右裁判所ノ裁判官若クハ裁判官ヨリ委任シ

タル公證人ノ面前ニ於テ抽籤シ其裁判官又ハ公証人ヨリ區分財産ノ引渡ヲ爲ス可シ

總テ其他ノ分派ハ假ノモノ、ミト看做ス可シ(民八二四以下、八三四八四〇、一一二五、一三〇、四一三三、八八九六六以下、九七五九八、二九八四)

第四百六拾七條 後見人ハ親族會議ノ許可ヲ得且ツ始審裁判所ノ檢事ヨリ指定メタル法律家三名ノ意見ヲ得タル上ニ非サレハ幼者ノ名前ヲ以テ和解スルコトヲ得ス

其和解ハ始審裁判所ニ於テ檢事ノ申述ヲ聽キタル後之ヲ認可シタルニ非サレハ有效ノモノトセス(民一三〇、四一三三、一三三、一四二〇、四五)

第四百六拾八條 幼者ノ行狀ニ付キ重要ナル戻意ノ事アル後見人ハ之ヲ親族會議ニ告ケ其許可ヲ得タル時ハ此事項ニ付キ父ノ威權ノ卷ニ定メタル所ニ從ヒ幼者ノ拘留ヲ要求スルコトヲ得可シ(民三七六以下)

○第九節 後見ノ計算

第四百六拾九條 凡ソ後見人ハ管理ノ終リシ時其管理ノ計算ヲ爲ス可キモ

ノトス(民四五、一四七、一四七、二四七、五四八、五〇、九一三、一九一九九、三二二、三二二、三三五以下、五二七以下、九〇、五)

第四百七拾條 父母ヲ除クノ外總テ其他ノ後見人ハ後見ノ間ト雖モ親族ノ會同ニ於テ定ムルコトヲ適當ナリト思考シタル時期ニ其管理ノ景狀ノ目錄ヲ代後見人ニ渡スコトヲ擔任セシムルヲ得可シ然レ後見人ヲシテ毎年其目錄ヲ一箇以上差出サシムルコトヲ得ス
其景狀ノ目錄ハ無費ニテ印税ナキ紙ヲ以テ作り且ツ何等ノ裁判上ノ法式ヲモ要スルコトナクシテ之ヲ渡ス可シ(民三九六)

第四百七拾壹條 後見ノ確定ノ計算ハ幼者ノ成年ニ達シ又ハ後見免脱ヲ得タル時幼者ノ費額ヲ以テ之ヲ爲ス可シ○後見人ハ其費用ヲ立替ニ可シ其計算中ニテ充分ノ証明アリテ且ツ其目的ノ有益ナル總テノ費額ハ之ヲ後見人ニ許認ス可シ(民四七六、四八〇、四八八、八八五、二七以下)

第四百七拾貳條 後見人ト成年トナリシ幼者トノ間ニ爲スコアル總テノ合意ハ豫メ詳細ナル計算書ヲ差出シ及ヒ證據物ヲ渡シタルニ非サレハ無効

タル可シ但シ其合意ヨリ少クトモ十日前ニ計算書ヲ受クル者ノ受取證書
ヲ以テ其諸件ヲ証明スルコトヲ必要トス(民四六九九。七二。四五五三三以下)

第四百七拾三條 若シ計算ノ事ニ付キ争訟ノ生スル時ハ他ノ民事上ノ争訟
ノ如クニ之ヲ訴ヘ及ヒ之ヲ裁判ス可シ(訴五二七以下)

第四百七拾四條 後見人ヨリ償フ可キ殘餘ノ金額ハ訟求ヲ爲サシテ其計
算終成ノ時ヨリ起算シテ利息ヲ生ス可シ

幼者ヨリ後見人ニ償フ可キ金額ノ利息ハ計算終成ノ後其辨濟ノ催促ノ日
ヨリ後ニ非サレハ之ヲ生セス(民一九。七)

第四百七拾五條 後見ノ所爲ニ關シテ幼者ヨリ後見人ニ對スル總テノ訴權
ハ成年ニ至リシ時ヨリ起算シ十年ヲ以テ期滿效ヲ得ルモノトス(民四七二九
四二一三。四以下二。四五二一三五)

第三章 後見ノ免脱

第四百七拾六條 幼者ハ婚姻ニ依リ當然後見ヲ免脱セラル、モノトス(民四
八五二三八八)

第四百七拾七條 幼者ハ婚姻ヲ爲サスト雖モ滿十五歳ノ齡ニ達シタル時ハ
其父ヨリ後見ヲ免脱セシムルコトヲ得可ク又父ナキニ於テハ其母ヨリ後見
ヲ免脱セシムルコトヲ得可シ

其後見ノ免脱ハ書記ノ補助ヲ得テ治安裁判官ノ受ケタル父又ハ母ノ申述
ノヨリ以テ之ヲ爲ス可シ(民四八五)

第四百七拾八條 父母ナキ幼者ハ滿十八歳ノ齡ニ至リ親族會議ニ於テ後見
ノ免脱ヲ受ケシムルノ能力アリト思考スル時ハ亦後見ノ免脱ヲ受クルコ
トヲ得可シ

此場合ニ於テハ後見免脱ハ之ヲ許可シタル決議ト治安裁判官親族會議ノ
長トシテ其決議書中ニ爲シムル幼者ハ其後見ヲ免脱セラルト云ヘル言渡
トニ依テ生スルモノトス(民四。六以下四八五以下訴八八三以下)

第四百七拾九條 若シ後見人前條ニ記シタル幼者ノ後見免脱ノ爲メノ手續
ヲ爲サス而シテ幼者ノ從兄弟ノ級又ハ更ニ近級ノ血屬親又ハ姻屬親一名
又ハ數名ノ其幼者ニ後見ノ免脱ヲ受ケシムルノ能力アリト思考スル時ハ

其血屬親又ハ姻屬親ヨリ此事ヲ評定セシムル爲メ親族會議ヲ招集スルコトヲ治安裁判官ニ請求スルコト得可シ

治安裁判官ハ其請求ヲ許サ、ルコト得ス

第四百八拾條 後見ノ計算ハ親族會議ヨリ任シタル管財人ノ補助ヲ受クル後見免脱ノ幼者ニ之ヲ爲ス可シ(民四六七四七一五二七以下)

第四百八拾壹條 後見ヲ免脱セラレタル幼者ハ其繼續ノ九年ニ過キサル貸ヲ爲シ又ハ自己ノ入額ヲ受取リテ義務免除ノ證書ヲ與ヘ及ヒ純粹ナル管理ノモノモナル各箇ノ所爲ヲ行フ可シ但シ其幼者ハ成年者自身ノ此等ノ所爲ニ對シテ回復スルコトヲ得サル總テノ場合ニ於テハ亦此等ノ所爲ニ對シテ回復スルコトヲ得サルモノトス(民一三〇五以下一七一八一九九〇九一〇)

第四百八拾貳條 後見ヲ免脱セラレタル幼者ハ其管財人ノ補助ナクシテ不動産ニ關スル訴ヲ起シ又ハ不動産ニ關スル訴ニ辨護スルコトヲ得ス又然ルミナラス不動産ノ元金ヲ受取リテ義務免除ノ證書ヲ與フルコトヲ得ス但シ其最後ニ記シタル場合ニ於テハ管財人其受取リタル元金ノ益用ヲ監視ス可

シ(民八四〇)

第四百八拾三條 後見ヲ免脱セラレタル幼者ハ始審裁判所ニ於テ檢事ノ申述ヲ聽キタル上認可シタル親族會議ノ決議アルニ非サレハ如何ナル口實アリヒ金額ノ借入ヲ爲スコトヲ得ス(民一二四二三〇五一一三三四八八二八八五)

第四百八拾四條 後見ヲ免脱セラレタル幼者ハ後見ヲ免脱セラレサル幼者ノ爲メニ定メタル法式ヲ遵守スルコトヲ得ス又純粹ナル管理ノ所爲ノ外總テ其他ノ所爲其所有權ヲ移轉スルコトヲ得ス又純粹ナル管理ノ所爲ノ外總テ其他ノ所爲ヲ行フコトヲ得ス

其幼者ノ買入又ハ其他ノ方法ニ依テ負ヒタル義務ニ關シテハ其義務ハ過當ナル場合ニ於テハ減少ス可キモノトス但シ此事ニ付テハ裁判所ニ於テ幼者ノ家産及ヒ幼者ト契約シタル者ノ善意又ハ惡意並ニ其費額ノ有益又ハ無益ヲ考察ス可シ(民四五七以下四六一以下四六七四八一九〇三一一〇九五一一三〇五一一三二以下)

第四百八拾五條 凡ソ前條ニ據リ其約務ヲ減少セラレタル後見免脱ノ幼者

ハ後見免脱ノ利益ヲ失ハシムルヲ得可シ但シ其後見免脱ハ之ヲ附與スル爲メニ爲シタルモノト同一ノ法式ニ從ヒ之ヲ取上ク可キモノトス(民四七七以下)

第四百八拾六條 後見免脱ヲ廢止シタル日ヨリ其幼者ハ再ヒ後見ヲ受ケ其成年ニ滿ツル迄引續テ後見ヲ受ク可シ

第四百八拾七條 商業ヲ爲ス後見免脱ノ幼者ハ其商業ニ關スル所爲ニ付テハ成年者ト看做ス可シ(民一三〇八前二三六)

○第拾壹卷

成年治産禁裁判上ノ輔佐人千八百三年三月二十九日決定四月八日宣令

○第壹章

成年

第四百八拾八條

成年ハ滿二十一歳ト定ム此齡ニ至リシ者ハ婚姻ノ卷ニ記

シタル制限ヲ除クノ外總テ民事上生理ノ所爲ヲ行フヲ能フ可シ(民一四八以下三七三三三三)

○第貳章

治産禁

第四百八拾九條 平常白痴癲病狂病ノ景狀アル成年者ハ其精神ヲ復スル時間アリト雖モ治産禁ヲ受ケシメサルヲ得ス(民五一二九〇一二二四一二五前八九〇以下)

第四百九拾條 總テ血屬親ハ自己ノ血屬親ノ治産禁ヲ要求スルヲ許サル、モノトス○夫婦中ノ一方ヨリ他ノ一方ニ對スルモ之ニ同シ(民四二〇前八九〇以下)

第四百九拾壹條 狂病ノ場合ニ於テ若シ配偶者ヨリモ又血屬親ヨリモ治産禁ヲ要求セサル時ハ檢事ヨリ之ヲ要求セサルヲ得ス又白痴或ハ癲病ノ場合ニ於テハ配偶者又ハ分明ナル血屬親ナキ者ニ對シ亦檢事ヨリ治産禁ヲ要求スルヲ得可シ(前八九〇以下)

第四百九拾貳條

總テ治産禁ヲ受ケシムルノ請求ハ始審裁判所ニ申告ス可

シ(訴五九以下)

第四百九拾三條 白痴、癡病、狂病ノ實事ハ書面ニ明記ス可シ○治産禁ヲ請求スル者ハ證人及ヒ證據物ヲ差出ス可シ(訴八九以下)

第四百九拾四條 裁判所ニ於テハ幼年後見及ヒ後見ノ免脱ノ卷第二章第四節ニ定メタル仕方ニ從ヒ組成シタル親族會議ヨリ治産禁ノ請求ヲ受ケタル者ノ景狀ニ付キ其意見ヲ申述ス可キ旨ヲ命ス可シ(民四〇七以下、訴一七三四、四八九以下)

第四百九拾五條 治産禁ヲ要求シタル者ハ親族會議ノ員中ニ加ハルヲ得ス然レ治産禁ノ要求ヲ受ケタル者ノ配偶者及ヒ其子ハ可否ヲ述フルノ權利ヲ有スルヲナクシテ親族會議ニ參スルヲ得可シ

第四百九拾六條 裁判所ニ於テハ親族會議ノ意見ヲ聽キタル後裁判官會議室ニ於テ被告人ヲ訊問ス可シ若シ被告人出席スルヲ能ハサル時ハ特ニ委任セラレタル裁判官一名書記ノ補助ヲ受ケ其住居ニ至リテ之ヲ訊問ス可シ○如何ナル場合ニ於テモ檢事ハ訊問ニ立會フ可シ(訴八九三)

第四百九拾七條 第一次ノ訊問ノ後裁判所ニ於テ必要ナリト爲ス時ハ被告人ノ身體及ヒ財産ヲ管照セシムル爲メ假リノ管理人ヲ委任ス可シ(訴四四四、八九五)

第四百九拾八條 治産禁ノ請求ニ付テハ裁判ハ雙方ノ申述ヲ聽キ又ハ之ヲ招喚シタル上公ケノ審問席ニアラサレハ之ヲ爲スヲ得ス

第四百九拾九條 裁判所ニ於テハ治産禁ノ請求ヲ棄却シタル時ト雖モ若シ其景況ノ必要ナル時ハ向後被告人ハ其同一ノ裁判ニ依リ任セラレタル輔佐人ノ補助ナクシテ訴訟ヲ爲シ和解ヲ爲シ金額ヲ借受ケ助産ノ元金ヲ受取り又ハ其義務免除ノ證書ヲ與ヘ又ハ自己ノ財産ノ所有權ヲ移轉シ又ハ之ヲ借入質ト爲スヲ得サル旨ヲ命スルヲ得可シ(民五一三以下、訴八九七)

第五百條 始審ノ裁判ヲ控訴シタル場合ニ於テ控訴裁判所ニ於テ必要ナリト思考スル時ハ其治産禁ノ請求ヲ受ケタル者ヲ再ヒ訊問シ又ハ委員ヲシテ之ヲ訊問セシムルヲ得可シ(民四九六、訴八九四以下、三五)

第五百壹條 治産禁ヲ受ケシメ又ハ輔佐人ヲ任スル控訴裁判所又ハ始審裁

判所ノ裁判書ハ原告人ノ求メニ依リ之ヲ寫取リテ相手方ニ送達シ且ツ聽
訟所ノ廳堂ト本郡公証人ノ役場トニ於テ貼附セサル可カラサル帖上ニ十
日內ニ之ヲ記入ス可シ(民五〇二條八九七)

第五百貳條 治産禁又ハ輔佐人ノ撰任ハ裁判ノ日ヨリ其效ヲ有ス可キモノ
トス○其後ニ至リ治産禁ヲ受ケタル者ノ行ヒシ總テノ所爲又ハ輔佐人ノ
補助ナクシテ行ヒシ總テノ所爲ハ當然無效タル可シ(民四九九五〇三九〇一九七
〇二一〇八一〇二四二二五二三〇四一三二二八二三五二二〇三)

〔參看〕 千八百三十八年六月三十日ノ法律第三十九條ヲ看ル可シ

第五百三條 治産禁以前ノ所爲ハ之ヲ行ヒシ時期ニ於テ治産禁ヲ受ク可キ
原由ノ存在セシト著明ナルニ於テハ之ヲ取消ス可シ(民五〇五二一〇八
一一〇九)

第五百四條 人ノ死去前ニ其治産禁ヲ宣告セラレ又ハ之ヲ要求セラレタル
時ニ非サレハ其者ノ行ヒタル所爲ヲ其死後ニ至リ癡病ノ原由ヲ以テ取消
シント求ムルコトヲ得ス但シ取消ヲ求メラレタル所爲上ニ癡病ノ證アル時

ハ格別ナリトス(民九〇二二一〇九一三〇四)

第五百五條 始審ニテ爲シタル治産禁ノ裁判ヲ控訴セス又ハ控訴ノ上ニテ
其裁判ノ確認セラレタル時ハ幼年後見及ヒ後見ノ免脱ノ卷ニ記シタル規
則ニ從ヒ治産禁ヲ受ケタル者ノ爲メ其後見人及ヒ代後見人ヲ撰任スルノ
設備ヲ爲ス可シ○假リノ管理人ハ其職務ヲ止ム可シ而シテ其管理人ノ自
カラ後見人ニ任セラレサル時ハ後見人ニ計算ヲ爲ス可キモノトス(民三九〇
四〇五以下五〇一五〇九條五二七以下八八二八九五)

第五百六條 夫ハ其婦ノ治産禁ヲ受ケタル時ハ當然其後見人タリ(民二二三以
下)

第五百七條 婦ハ其夫ノ後見人ニ撰任セラレ、コトヲ得可シ○此場合ニ於テ
ハ親族會議ニ於テ管理ノ法式及ヒ條件ヲ規定ス可シ但シ其婦親族會議ノ
決定ノ爲メニ害ヲ被ムリタリト思考スル時ハ裁判所ニ訴フルコトヲ得可キ
モノトス(民四四二四四七四九五條八八三以下)

第五百八條 配偶者尊屬親及ヒ身屬親ヲ除クノ外ハ何人ヲ論セス治産禁ヲ

受ケタル者ノ後見ヲ十年以上保存スルニ及ハス○其期限ノ終ニ至リ後見人ハ後任者ノ撰定ヲ請求スルヲ得テ必ス其撰定ヲ得可キモノトス

第五百九條 治産禁ヲ受ケタル者ハ其身體及ヒ財産ニ付キ幼者ト同視シ幼者ノ後見ニ付テノ法律ハ治産禁ヲ受ケタル者ノ後見ニ適用ス可キモノトス(民三八八以下四五〇以下四六七二一三五以下)

第五百拾條 治産禁ヲ受ケタル者ノ入頼ハ本質上ヨリシテ其命運ノ不幸ヲ慰安シ且ツ其療養ヲ速カナラシムルニ用ヒサルヲ得ス○其病症ト其家産ノ景狀トニ從ヒ親族會議ニ於テ其者ヲ其住所ニテ療養セシメ又ハ養生所及ヒ然ノミナラス病院ニ入ラシム可キヲ決定スルヲ得可シ(民四〇七以下四五五〇七)

第五百拾壹條 治産禁ヲ受ケタル者ノ子ノ婚姻ヲ爲ス可キ時ハ其嫁資又ハ遺留財産ノ前取及ヒ其他ノ婚姻ノ合意ハ裁判所ニ於テ檢事ノ意見申述ノ上認可シタル親族會議ノ意見書ヲ以テ之ヲ規定ス可シ(民一〇九五一三八七條八八五)

第五百拾貳條 治産禁ハ之ヲ決定セシメタル原由ト共ニ止息ス然レモ其解除ハ治産禁ヲ受ケシムル爲メニ定メタル法式ヲ遵守スルニ非サレハ之ヲ宣告ス可カラヌ又治産禁ヲ受ケタル者ハ其解除ノ裁判ノ後ニ非サレハ自己ノ權利ノ執行ヲ復スルヲ得ス(民四九二四九四四九八四七四八九一八九六)

○第三章 裁判上ノ輔佐人

第五百拾三條 浪費者ハ裁判所ヨリ任シタル輔佐人ノ補助ナクシテ訴訟ヲ爲シ和解ヲ爲シ金額ヲ借受ケ動産ノ元金ヲ受取リテ其義務免除ノ證書ヲ與ヘ又ハ自己ノ財産ノ所有權ヲ移轉シ又ハ之ヲ書入質ト爲スヲ禁スルヲ得可シ(民二一五二一八二二四九九五一一二四八八九七)

第五百拾四條 輔佐人ノ補助ナクシテ事ヲ行フ可カラサルノ禁ハ治産禁ヲ請求スルノ權利アル者ヨリ之ヲ要求スルヲ得可シ但シ其請求ハ治産禁ノ請求ト同一ノ方法ニテ之ヲ審理シ及ヒ裁判セサル可カラヌ其禁ハ治産禁ノ解除ト同一ノ法式ヲ遵守スルニ非サレハ之ヲ解除スルヲ得ス(民四九〇四九六八八九七)

第五百拾五條 治産禁又ハ輔佐人撰任ノ事ニ於ケル總テノ裁判ハ始審ニ於
テモ若クハ控訴ニ於テモ檢察官ノ意見ヲ聽キタル上ニ非サレハ之ヲ爲ス
ヲ得ス(附八三八九三)

○第貳編 財産及ヒ所有權ノ種々ノ改換

○第壹卷 財産ノ區別(千八百四年一月二十五日決定二月四日宣令)

第五百拾六條 總テノ財産ハ動産又ハ不動産タリ

○第壹章 不動産

第五百拾七條 財産ハ其性質ニ依リ又ハ其用方ニ依リ又ハ其趣旨トスル所
ノ目的ニ依リ不動産タリ(民二二一八)

第五百拾八條 土地及ヒ建造物ハ其性質ニ依リ不動産タリ

第五百拾九條 牀ニ附着シ及ヒ建造物ノ一部分ヲ爲ス風車又ハ水車ハ亦其
性質ニ依リ不動産タリ(民五二八五三二)

第五百貳拾條 根ニ依テ地上ニ附着スル收穫物及ヒ未タ摘取セサル樹果モ
亦同シク不動産タリ

穀物ヲ刈取シ及ヒ樹果ヲ摘取シタル時ハ假令移動セスト雖モ動産タリ

若シ收穫物ノ一部ノミヲ刈取シタル時ハ其一部ノミヲ動産トス(民五一八五
二二五二六五四八一四二二五八三二六九〇附六二六六八五)

第五百貳拾壹條 採伐ノ順序ヲ定メタル小樹林又ハ大樹林ノ通常ノ採伐ス可キ樹木ハ其樹木ヲ伐リ倒シタルニ准シテノミ動産トナルモノトス(民五
一八五九〇一四〇三)

第五百貳拾貳條 耕作ノ爲メ其土地ノ所有者ヨリ土地賃借人又ハ分果借地人ニ渡シタル獸類ハ評價シタルト否トヲ問ハス合意ノ效ニ依リ之ヲ其土地ニ附着セシムル間ハ不動産ト看做ス可シ

土地ノ所有者ヨリ土地ノ賃借人又ハ分果借地人ニ非サル者ニ獸借契約ニテ附與シタル獸類ハ動産タリ(民五六四一八〇以下附五九三)

第五百貳拾三條 家屋又ハ其地ノ不動産ニ水ヲ引導スルニ用フル管ハ不動産ニシテ其附着スル不動産ノ一部分トス

第五百貳拾四條 不動産ノ所有者其不動産ノ用ニ供シ及ヒ其不動産ノ收益ノ爲メ其不動産ニ備ヘ置キタル物品ハ用方ニ依リ不動産タリ
故ニ左ノ諸件ハ所有者其不動産ノ用ニ供シ及ヒ其不動産ノ收益ノ爲メニ備ヘ置キタル時ハ用方ニ依リ不動産タリ

耕作ニ附着セシメタル獸類

農業ノ器具

土地賃借人又ハ分果耕作人ニ附與シタル種子

鳩舎中ノ鳩

兔舎中ノ兔

巢中ノ蜜蜂

池沼中ノ魚

搾器釜蒸溜器桶樽

鑄造所紙製造所及ヒ其他ノ工作場ノ收益ニ必要ナル器具

糞及ヒ肥料

所有者ノ永久ノ附屬トシテ不動産ニ附着セシメタル總テノ動産ハ亦用方ニ依リ不動産タリ(民五二八五六四二。六四二一一四三一一八三二七九附五九三)

第五百貳拾五條 石膏石灰又ハシマンヲ以テ動産ヲ不動産ニ附着シ又ハ其動産ヲ離分スル時ハ必ズ其動産ヲ破毀損壞シ又ハ其附着スル不動産ノ一

部分ヲ破毀損壞ス可キ時ハ所有者動産ヲ永久ノ附屬トシテ不動産ニ附着セシメタルモノト看做ス可シ

居室ノ玻璃版ヲ附着シタル框カ壁板ト一体ヲ爲ス時ハ永久ノ附屬トシテ其玻璃版ヲ附シタルモノト看做ス可シ

書櫃及ヒ其他ノ裝飾物ニ付テモ亦之ニ同シ

立像ハ假令破毀損壞スルコトナク之ヲ移動スルヲ得可シト雖モ特ニ之ヲ入置ク爲メニ作リタル壁ノ凹所ニ置カレタル時ハ不動産タリ(民五二四、一三五。以下)

第五百貳拾六條 左ノ諸件ハ其趣旨トスル所ノ目的ニ依リ不動産タリ

不動産物ノ使用收益權

地役即チ地務

不動産ノ所有權ヲ取戻サントスル訴權(民五七八六三七以下、二一八)

○第二章 動産

第五百貳拾七條 財産ハ其性質ニ依リ又ハ法律ノ定メニ依リ動産タリ(民二

第五百貳拾八條 獸類ノ如ク自カラ運行スルト不生活物ノ如ク他力ノ效ニ

依ラサレハ場所ヲ變スルコトヲ得ヤルトヲ問ハス此地ヨリ彼ノ地ニ移轉スルコトヲ得可キ物體ハ其性質ニ依リ動産タリ(民五二二、一六〇、六、一、九〇)

第五百貳拾九條 償還ヲ要求スルヲ得可キ金額又ハ動産ヲ目的トスル債權

及ヒ訴權又ハ理財商業工作ノ會社ニ於ケル株數又ハ股分ハ假令其起作ニ關スル不動産ノ其會社ニ屬スル時ト雖モ法律ノ定メニ依リ動産タリ○其株數又ハ股分ハ其會社ノ存續スル間ハ各社員ノミニ關シテ動産ト看做ス可シ

國若クハ人民ニ對スル無期又ハ畢生間ノ年金收受權ハ亦法律ノ定メニ依リ動産タリ(民五一七五三〇、三二一九)

第五百三拾條 (千八百四年三月廿一日決定同月三十一日宣令)凡ソ不動産賣

買ノ代金トシテ無期ニ設定シタル年金收受權又ハ不動産ノ有償又ハ無償ノ名義ニ於ケル讓渡ノ條件トシテ無期ニ設定シタル年金收受權ハ其本質

上ヨリシテ買戻スコトヲ得可キモノトス
 然レ價主ハ其買戻ノ約款及ヒ條件ヲ規定スルコトヲ許サル、モノトス
 又其債主ハ決シテ三十年ニ過クルコトヲ得サル特定ノ期限ノ後ニ非サレハ
 年金收受權ノ償還ヲ受クルコトナカル可キ旨ヲ約權スルコトヲモ許サル、モ
 ノトス但シ之ニ反シタル總テノ約權ハ無効ノモノタリ(民一九一二年三三〇三)
第二百五拾壹條 小船、渡舟、船舶、船ニ在ル風車、水車、浴場及ヒ總テ一般ニ杖ニ
 附着セス及ヒ家屋ノ一部ヲ爲サ、ル工場ハ動産タリ然レモ此等ノ物品
 中或者ノ差押ハ其重要ノモノタルカ爲メ訴訟法ニ明記スル如ク特別ノ法
 式ニ服從セシムルコトヲ得可シ(附六二〇前一九〇)

第二百五拾貳條 建築物ヲ毀テタルヨリ得タル材料及ヒ新タル建築物ヲ
 造ル爲メニ集メタル材料ハ職工ノ其造築ノ爲メニ之ヲ用フル迄ハ動産タ
 リ
第二百五拾三條 「ミューブル」動産ト云ヘル語ハ他ノ添辭又ハ指定ノ辭ナク法
 律ノ成規又ハ各人ノ處分ニ唯一語之ヲ用ヒタル時ハ金圓、寶石能働ノ負債、

書籍、寶牌、學問、藝術及ヒ工技ノ器具、身体ノ布類、馬車、兵器、穀物、酒類、枯草及ヒ
 其他ノ飲食品ヲ包含セス又商業ノ目的タル諸件ヲモ亦包含セス(民五三五一
 〇一〇)

第二百五拾四條 「ミューブル、ミューブラント」ト云ヘル語ハ毛氈、臥牀、椅子、鏡、自鳴鐘、
 菓子、磁器及ヒ其他此性質ノ物品ノ如ク房室ノ使用及ヒ裝飾ノ用ニ供シタ
 ル動産ノミヲ包含ス
 房室ノ動産ノ一部タル畫額及ヒ立像ハ亦「ミューブル、ミューブラント」ノ中ニ包含
 ス然レモ展畫ノ房室又ハ特別ノ房室内ニアル畫額ノ聚集ハ之ヲ包含セス
 又磁器モ之ニ同シク房室ノ裝飾ノ一部タルモノノミヲ「ミューブル、ミューブラ
 ント」ノ名稱中ニ包含スルモノトス

第二百五拾五條 「ピアン、ミューブル」及ヒ「モビリエ」或ハ「エッフェー、モビリエ」ト
 云ヘル語ハ前ニ定メタル規則ニ從ヒ動産ト看做サル、諸件ヲ總ヘテ一般
 ニ包含スルモノトス
 動産ノ備ハリタル家屋ノ賣却又ハ贈與ハ「ミューブル、ミューブラント」ノミヲ包含

スルモノトス(民九四八・一三五〇・一三五二)

第五百三拾六條 一箇ノ家屋内ニ在ル諸件ト共ニ其家屋ノ賣拂又ハ贈與ハ金圓ヲ包含セヌ又其證券ヲ其家屋内ニ藏メタル能働ノ賃價及ヒ其他ノ權利ヲ包含セヌ但シ其他ノ「エフ・エー・モヒリエー」ハ皆之ヲ包含スルモノトス(民一三五〇・一三五二)

○第三章 財産ト之ヲ占有スル者トノ關係

第五百三拾七條 各人民ハ法律ニ依リ定メタル改竊ニ從ヒ己レニ屬スル財産ノ自由ノ處分權ヲ有スルモノトス

各人民ニ屬セサル財産ハ其財産ニ特別ノモノタル法式ト規則トニ從テ之ヲ管理ス可ク又之ニ從フニ非サレハ其所有權ヲ移轉スルヲ得ス(民二一七・四五〇・四九九五・一三五四四・一四四九・一五五四・一五七六・一五九四・一七一三・四四三以下)

第五百三拾八條 國ノ責任タル道路巷徑市街舟ヲ通シ又ハ筏ヲ通ス可キ河川海岸海ノ汀港港口海港碇泊場及ヒ總テ一般ニ私シノ所有ト爲ス可カラサル佛蘭西領地ノ各部分ハ公領ノ附屬ナリト見做ス可シ(民七一四・一一八・二

五九八・三二二六)

第五百三拾九條 占領スル者ナク且ツ所有主ナキ財産及ヒ相續人ナクシテ死去シタル者ノ財産又ハ其財産相續ノ拋棄セラレタル財産ハ總テ公領ニ屬スルモノトス(民七一三・八一以下・三二二七)

第五百四拾條 城塞及ヒ堡砦ノ門壁壕壘ハ亦公領ノ一部トス(民二二二六)

第五百四拾壹條 最早城塞ヲラサル要塞中ノ地所堡砦及ヒ壘ハ亦右ト同一ナリトス但シ此等ノ諸件ハ有效ニ其所有權ヲ移轉シタルヲナキ時又ハ國ニ對シテ其所有權ノ期滿效ヲ得タルヲナキ時ハ國ニ屬スルモノトス(民二二二七)

第五百四拾貳條 邑ノ財産トハ一邑又ハ數邑ノ住民カ其所有權又ハ其生産物ニ付キ獲得權利ヲ有スル財産ヲ云フ(民五三七・六五〇・三二二七)

第五百四拾三條 人ハ財産ニ付キ所有ノ權利ヲ有スルヲアリ又ハ單一ナル收益ノ權利ヲ有スルヲアリ又ハ稱言ス可キ地務ノミヲ有スルヲアリ(民五四四以下・五七八・六三七以下)

○第貳卷 所有權(千八百四十四年一月二十七日決定二月六日宣令)

第五百四拾四條 所有權トハ法律又ハ規則ニ依リ禁止セラレタル用方ヲ爲

サ、ルニ於テハ最モ完全ナル方法ニテ物件ヲ收益シ及ヒ處分スルノ權利

ヲ云フ(民五三七六三六以下六四四以下六八六九一三、一三八二、一三三三)

第五百四拾五條 何人ニ限ラス公同便益ノ爲メニシテ且ツ預メ正當ノ賠償

ヲ得ルニ非サレハ其所有權ヲ讓渡スニ強制セラル、一ナカル可シ(民五三

七六四三六八二)

參看 千八百四十一年五月三日ノ法律ヲ參看スヘシ

第五百四拾六條 動産ト不動産トヲ問ハス一箇ノ物ノ所有權ハ其物ヨリ生

スル諸件及ヒ天然若クハ人工ニ依リ其物ニ附添シテ附合スル諸件ニ付キ

權利ヲ附與スルモノトス

其權利ヲ名ケテ附添ノ權利ト云フ(民五四四五五一一五五二一。一八以下一三五二。一三八二六。一四二六九三三。四三三三九)

○第一章 物ヨリ生スル諸件ニ付テノ附添ノ權利

第五百四拾七條

土地ノ天然上又ハ人工上ノ果實

民法上ノ果實

増殖シタル獸類

此等ノ諸件ハ附添ノ權利ニ依リ所有者ニ屬スルモノトス(民五八三以下)

第五百四拾八條 物ヨリ生シタル果實ハ第三ノ人ノ爲シタル耕作、勞働、種子

ノ費用ヲ償還スルノ責任アルニ非サレハ所有者ニ屬セス(民二一。二)

第五百四拾九條 單一ナル占有者ハ善意ニテ占有スル場合ニ非サレハ其果

實ヲ己レノ所得ト爲ス可カラス之ニ反シタル場合ニ於テハ其物ヲ取戻シ

ント求ムル所有者ニ其物ト共ニ生産物ヲ返ス可シ(民五五。五五五。三七八以下

二一。二以下二二六八。二二七八。二二七九)

第二百五拾條 占有者ハ其瑕疵ヲ知ラサル所有權移轉ノ權原ニ據リ所有者トシテ占有シタル時ハ善意ナリトス
其占有者ハ其瑕疵ヲ知リタル時ヨリ善意ナルコトヲ止息スルモノトス(民一三七八、三二六五以下)

○第二章

物ニ附合シ及ヒ合同スル諸件ニ付テノ附添ノ權利

第二百五拾壹條 凡ソ物ニ附合シ及ヒ合同スル諸件ハ以下ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ所有者ニ屬ス(民五四六、一六一五)

○第壹節

不動產物ニ關スル附添ノ權利

第二百五拾貳條 地所ノ所有權ハ其地上及ヒ地下ノ所有權ヲ惹起ス
其所有者ハ地役即チ地務ノ卷ニ定ムル例外ヲ除クノ外其地上ニ自己ノ相當ト思考スル總テノ植附及ヒ造營ヲ爲スコトヲ得可シ
其所有者ハ礦坑ニ關スル法律規則及ヒ警察ノ法律規則ヨリ生スル改竅ヲ除クノ外其地下ニ自己ノ相當ト思考スル總テノ造營及ヒ窖穴ヲ造リ且ツ其窖穴ヨリ生スルコトアル可キ總テノ生産物ヲ採取ルコトヲ得可シ(民五四四、五)

五三六、四六七一以下、一八五九

第二百五拾三條 地上又ハ地中ニ於ケル總テノ造營植附及ヒ工事ハ反對ノ既アルニ非サレハ其所有者自己ノ費用ヲ以テ之ヲ爲シ其所有者ニ屬スルモノト思量ス可シ但シ第三ノ人ノ他人ノ建造物ノ下ニ在ル地窖若クハ其建造物ノ總テ其他ノ部分ニ付キ期滿效ニ依リ既ニ獲得シ又ハ後ニ獲得スルコトアル可キ所有權ト相觸ル、コトナカル可シ(民六九〇、一三五〇、一三五二、三二六二)

第二百五拾四條 地所ノ所有者己ニ屬セサル材料ヲ以テ造營植附及ヒ工事ヲ爲シタル時ハ其材料ノ價額ヲ辨濟セサルヲ得ス又別段ノ道理アル時ハ損害賠償ノ旨渡ヲ受ケシムルコトヲ得可シ然レ其材料ノ所有者ハ之ヲ搬取スルノ權利ナシ(民一四九、一四九二、一四九三)

第二百五拾五條 第三ノ人ノ自己ノ材料ヲ以テ植附造營及ヒ工事ヲ爲シタル時ハ土地ノ所有者之ヲ留置キ又ハ其第三ノ人ヲシテ強テ之ヲ搬取セシムルノ權利アリ
若シ土地ノ所有者其植附及ヒ造營ノ廢毀ヲ求ムル時ハ之ヲ爲シタル者ノ

費用ヲ以テ其廢毀ヲ爲シシム可ク其者ノ爲メニ賠償ヲ爲スニ及ハヌ又然
ノミナラス別段ノ道理アル時ハ土地ノ所有者ノ受ケタル損害ノ爲メ賠償
ヲ爲ス可キノ言渡ヲ右ノ者ニ受ケシムルコトヲ得可シ
若シ土地ノ所有者其植附及ヒ造營ヲ保存セント欲スル時ハ其土地ノ受ク
ルコトヲ得タル多少ノ價額増加ニ關セス其材料ノ價額ト其工價トヲ償還ス
可キモノトス○然レモ土地ノ所有權ヲ褫奪セラレタルト雖モ其善意ノ爲
メ果實ノ返還ヲ言渡サレサル第三ノ人ニ於テ其植附造營及ヒ工事ヲ爲シ
タル時ハ土地ノ所有者其工事植附及ヒ造營ノ廢毀ヲ求ムルコトヲ得ス然レ
モ其所有者ハ其材料ノ價額ト工價トヲ償還シ又ハ地價ノ増加シタル額ニ
等シキ金額ヲ償還スルコト自由ナリトス(民五四六五四九五五五三一三四一三三
三三三七五一一三三三三〇四)

第五百五拾六條 河川ノ傍側ノ土地ニ次第ニ知覺スルヲ得スシテ生シタル
寄洲及ヒ干瀉ハ之ヲ名ケテ漸積地ト云フ
漸積地ハ河川ノ舟ヲ通シ又ハ筏ヲ通スルト否トヲ問ハス其傍側地ノ所有

者ニ利益ス但シ其河川ノ舟筏ヲ通ス可キ場合ニ於テハ規則ニ從ヒ沿岸ノ
小徑又ハ牽舟路ヲ殘ス可キノ責任アルモノトス(民五三三三五四六五五一五五六五五
七五六〇五六二)

第五百五拾七條 流水ノ知覺スルヲ得スシテ彼岸ヲ侵シ此岸ヲ退キテ生シ
タル汀渚ハ亦右ト同一ナリトス依テ其乾涸セシ岸ノ所有者ハ其漸積地ヲ
利益ス可ク其對岸ノ地ノ所有者ハ其失ヒシ地所ノ所有ヲ得ント求ムルコ
トヲ得ス

海ノ汀渚ニ付テハ右ノ權利存在セス(民五三三八五六三)

第五百五拾八條 漸積地ハ湖池ニ付テハ存在セサルモノトス但シ其湖池ノ
所有者ハ假令水量ノ減シタル時ト雖モ其滿水ノ時ニ水ノ覆フ所ノ地所ヲ
常ニ保存ス

右ノ裏面ニ於テ池ノ所有者ハ其水ノ異常ノ漲溢ニ於テ覆フタル傍側ノ土
地ニ付キ何等ノ權利ヲモ獲得セサルモノトス(民二二九九三三五七刑四五七四七九)
第五百五拾九條 舟ヲ通ス可キト否トヲ問ハス若シ河川ノ急遽ノ力ニ依リ

其傍側ノ土地ノ廣大ニシテ且ツ認知スルヲ得可キ一部分ヲ裁割シテ之ヲ下流ノ土地又ハ對岸ニ移去シタル時ハ其裁割セラレタル部分ノ所有者ハ自己ノ所有權ヲ得ント求ムルヲ得可シ然レ其所有者ハ一年內ニ其請求ヲ爲ス可ク其期限ノ後ハ最早之ヲ爲スヲ許サス但シ其裁割セラレシ地ノ附合シタル土地ノ所有者ノ未タ其裁割セラレシ地ノ占有ヲ得サル時ハ格別ナリトス(民五三八三二二七)

第二百五十六條 舟ヲ通シ又ハ筏ヲ通ス可キ河川ノ床中ニ生シタル島嶼及ヒ寄洲ハ國ニ屬ス但シ之ニ反シタル權原又ハ期滿效アル時ハ格別ナリトス(民五三八三二二七)

第二百五十六條壹條 舟ヲ通ヒス及ヒ筏ヲ通セサル川中ニ生シタル島及ヒ寄洲ハ其島ノ生シタル傍側ノ土地ノ所有者ニ屬ス若シ其島ノ一方ノミニ偏リテ生セサル時ハ其川ノ中央ニ盡シタリト思做ス所ノ線ヲ以テ分界ト爲シ其兩岸ノ土地ノ所有者ニ屬ス

第二百五十六條貳條 若シ河川ノ新タニ支流ヲ生シテ河側所有者ノ土地ヲ裁斷

シ之ヲ圍繞シテ島ト爲シタル時ハ假令其島ノ舟ヲ通シ又ハ筏ヲ通ス可キ河川中ニ生シタル時ト雖モ其所有者ハ其土地ノ所有權ヲ保存ス

第二百五十六條三條 舟ヲ通シ又ハ筏ヲ通スルト否トヲ問ハス河川ノ其蓄床ヲ棄テ新タナル路ヲ造ル時ハ新タニ河水ノ浸入シタル土地ノ所有者數名ハ各其失ヒシ地所ノ割合ニ依リ其棄テラレタル蓄床ヲ賠償ノ名義ヲ以テ收取ス可シ

第二百五十六條四條 從來棲息シタルヨリ更ニ他ノ鳩舎兔舎池沼ニ移棲シタル鳩兔魚ハ詐欺又ハ詭計ヲ以テ誘導シタル時ノ外ハ此等ノ物品ノ所有者ニ屬スルモノトス(民五二四一三八三二二六八刑三八八四五二)

○**第貳節** 動產物ニ關スル附添ノ權利

第二百五十六條五條 附添ノ權利ハ所有主二人ニ屬スルニ簡ノ動產物ヲ目的ト爲ス時ハ全ク天然ナル公平ノ原則ニ從フ可シ
以下ノ規則ハ豫見セサル場合ニ於テ特別ノ景況ニ從ヒ裁判官ヲ決定セシムル爲メノ例規ニ用立ツ可シ(民五二八以下二二七九)

第二百五十六條 相異ナレル所有主ニ屬スル二箇ノ物ノ相附合シテ一箇ノ全体ヲ爲スト雖モ之ヲ離分シテ猶各全存スルヲ得キ時ハ其主タル部分ヲ爲ス物ノ所有主ハ他ノ所有主ニ其附合セシメラレタル物ノ價額ヲ辨済スルノ責任ヲ以テ其全体ヲ所有ト爲ス可シ

第二百五十七條 使用裝飾補成ノ爲メノミニ他物ヲ附合セシメタル物ヲ主タル部分ト看做ス可シ

第二百五十八條 然モ附合セシメラレタル物ノ價カ主タル物ヨリモ大ニ貴クシテ且ツ其附合セシメラレタル物ヲ其所有者ニ知ラシメスシテ用ヒタル時ハ假令其連合シタル主品ニ若干ノ毀害ヲ生セシムルコトアル可シト雖モ從品ノ所有者之ヲ離分シテ己レニ還サシム可キノ請求ヲ爲スコトヲ得可シ(民八一五)

第二百五十九條 若シ附合シテ一箇ノ全体ヲ爲シタル二箇ノ物ノ中一方ヲ他ノ一方ノ附從ト看做スコトヲ得サル時ハ價ノ最モ貴キ物ヲ以テ主品ト看做ス可ク又其價ノ概ニ相等シキ時ハ形ノ最モ大ナル物ヲ以テ主品ト看做

ス可シ

第二百六十條 若シ工作者又ハ如何ナル人タリモ己レニ屬セサル物料ヲ用ヒテ新ナル種類ノ物ヲ造リタル時ハ其物料ノ原始ノ形ヲ復スルコトヲ得可キト否トヲ問ハス其物料ノ所有者タリシ者ハ工價ヲ償還シテ其造リタル物ヲ己レノ所有ト爲サント求ムルノ權利アリ(民五七一、二七八七以下、三〇七三)

第二百六十一條 若シ然モ工價ノ額ノ重大ニシテ其用ヒタル物料ノ價額ニ甚々超過シタル時ハ其工作ヲ以テ主タル部分ト看做シ職工ヨリ其物料ノ所有者ニ之レカ代金ヲ償還シテ其製作シタル物ヲ引留ムルノ權利アリ

第二百六十二條 若シ人ノ一部分ハ己レニ屬スル物料ト一部分ハ己レニ屬セサル物料トヲ用ヒテ新ナル種類ノ物ヲ造リ其二箇ノ物料中何レノ一方モ全ク毀滅スルコトナシト雖モ之ヲ離分スル時ハ必ス不便ヲ生ス可キニ於テハ所有者二人ニテ其新ナル種類ノ物ヲ共有ス可シ但シ其中一人ハ己レニ屬スル物料ノ割合ヲ以テ之ヲ所有シ他ノ一人ハ己レニ屬スル物料ト其工價トノ割合ヲ以テ之ヲ所有ス可キモノトス(民八一五、一六八六)

第五百七拾三條 相異ナリタル所有者ニ屬スル數個ノ物料ノ渾同ニ依テ一
個ノ物ヲ造リ其數箇ノ物料中何レノモノヲモ主品ト看做スヲ得サル時
其數箇ノ物料ヲ離分スルヲ得可キニ於テハ其所有者中ニテ己レニ屬スル
物料ノ渾同セシメラレタルヲ知ラサル者ヨリ之ヲ分別セント求ムルヲ
得可シ

若シ其物料ヲ離分スル時ハ最早必ス不便ヲ生ス可キニ於テハ其所有者數
人ハ各自ニ屬スル物料ノ分量品質價額ノ割合ヲ以テ共同シテ之レカ所有
權ヲ獲得ス(民八一五、一六八六)

第五百七拾四條 若シ所有者中ノ一人ニ屬スル物料カ其分量及ヒ代價ニ於
テ其他ノ物料ニ甚タ超過シタル時ハ此場合ニ於テハ其價額ノ貴キ物料ノ
所有者ハ他ノ所有者ニ其物料ノ價額ヲ償還シテ其渾同ニ依リ生シタル物
ヲ己レノ所有ト爲サント求ムルヲ得可シ

第五百七拾五條 數個ノ物料ヲ以テ造リタル物ヲ其物料ノ所有者數人ノ間
ニ共同ノモノト爲ス時ハ共同ノ利益ニ於テ其不分物ノ權賣ヲ爲サ、ルヲ得

ス(民八一五、一六八六)

第五百七拾六條 自カラ知ラスシテ他種ノ物ヲ造ル爲メニ自己ノ物料ヲ用
ヒラレタル所有者ノ其物ノ所有權ヲ得ント求ムルヲ得可キ總テノ場合
ニ於テハ其所有者自己ノ物料ト同性同量同重同尺同格ノモノ、返還ヲ得
ント求メ又ハ其價額ノ返還ヲ得ント求ムルヲ自由ナリトス

第五百七拾七條 他人ニ屬スル物料ヲ之ニ知ラシメスシテ用ヒタル者ハ損
害ヲ生セシメタルニ於テハ亦其損害ヲ賠償ス可キノ言渡ヲ受ケシムルヲ
得可シ但シ別段ノ場合ニ於テハ異常ノ方法ヲ以テ起訴ヲ爲スト相觸ル
ハ、ナカル可シ(民一一四九刑三七九以下)

○第三卷

使用收益權使用權及ヒ住居權千八百四年一月三十日決定

二月九日宣令

○第一章 使用收益權

第五百七拾八條 使用收益權トハ他人カ所有權ヲ有スル物ノ本質ヲ保存スルノ責任ヲ以テ其所有者自身ノ如クニ其物ニ付キ收益スルノ權利ヲ云フ
(民五八七以下六〇、一五六八三二〇、八三二一八)

第五百七拾九條 使用收益權ハ法律ニ依リ之ヲ設定シ又ハ人意ニ依リ之ヲ設定ス(民三八四七五四九九九九一七九四九一四〇、二一四〇三、一四二二、一五三〇、一五四九)

第五百八拾條 使用收益權ハ或ハ單一ニ之ヲ設定シ或ハ特定ノ日ニ之ヲ設定シ或ハ未必條件ヲ附シテ之ヲ設定スルヲ得可シ(民一一六八)

第五百八拾壹條 使用收益權ハ動産又ハ不動産ノ各種ニ付キ之ヲ設定スルヲ得可シ(民五八七五八八)

○第壹節 使用收益者ノ權利

第五百八拾貳條 使用收益者ハ其使用收益權ヲ有スル物件ヨリ生スルヲアル可キ天然上若クハ人工上若クハ民法上ノ果實ノ各種ニ付キ收益スルノ權利アリ(民五七八五八二五八三以下、一五八三)

第五百八拾三條 天然上ノ果實トハ土地ノ自然ノ生産物タル果實ヲ云フ○
獸類ノ生産物及ヒ増殖シタル獸類モ亦天然上ノ果實ナリトス
土地ノ人工上ノ果實トハ人ノ耕作ニ依テ得ル所ノ果實ヲ云フ(民五四七以下、一八〇三、一八一)

第五百八拾四條 民法上ノ果實トハ家屋ノ貸賃償還ヲ要求スルヲ得可キ金額ノ利息及ヒ年金ノ賦額ヲ云フ

土地ノ貸賃モ亦民法上ノ果實ノ種類中ニアルモノトス(民一一五三一九〇、五一九〇、九一九八〇)

第五百八拾五條 使用收益權ノ開始スル時ニ當リ枝又ハ根ニ依テ地上ニ附着スル天然上及ヒ人工上ノ果實ハ使用收益者ニ屬スルモノトス
使用收益權ノ終ル時ニ當リ右ト同一ノ景狀ニ在ル所ノ天然上及ヒ人工上ノ果實ハ所有者ニ屬スルモノトス而シテ雙方共ニ其耕作及ヒ種子ノ爲メ互ニ償ヲ爲スニ及ハス然レモ又使用收益權ノ初メ又ハ其終リニ於テ分果耕作人ノ存在スル時ハ其分果耕作人ノ獲得スルヲ得可キ果實ノ一部分ト

相抵觸スルコトナカル可シ(民五九〇、一五七二)

第五百八拾六條 民法上ノ果實ハ日毎ニ獲得スルモノト看做シ使用収益權ノ繼續スル時間ニ准シテ其使用収益者ニ屬スルモノトス○此規則ハ家屋ノ貸賃及ヒ其他ノ民法上ノ果實ニ適用ス可キカ如ク土地ノ貸賃ニモ適用ス可キモノトス(民一五七二、一九〇五、一九〇九、一九八〇)

第五百八拾七條 若シ使用収益權中ニ金銀、穀物、飲料ノ如ク消耗セシテ用フルコトヲ得サル物ヲ包含シタル時ハ使用収益者之ヲ用フルノ權利アリ然レハ其使用収益權ノ終ニ至リテ之ト同量同質同價ノ物又ハ其評定ノ價額ヲ返還ス可キノ責任アリトス(民六一七、一五三二)

第五百八拾八條 畢生間ノ年金收受權ノ使用収益權ハ亦其使用収益權ノ繼續スル時間使用収益者ニ何モノヲモ返還スルニ及ハスシテ其賦額ヲ收取スルノ權利ヲ附與ス(民一五六八、一九六八)

第五百八拾九條 若シ使用収益權中ニ布類及ヒ「ミニウブル、ミニウブラン」ノ如ク直ニ消耗スルコトナク其使用ニ依リ漸ニ損取スル物ヲ包含シタル時ハ

使用収益者ハ其定メタル用方ニ之ヲ用フルノ權利アリテ其使用収益權ノ終リニ至リ其詐欺又ハ其過失ニ依テ損取セサル現在ノ景狀ノ儘ニテ之ヲ還スコトヲ得可シ(民九五〇、一五六六)

第五百九拾條 若シ使用収益權中ニ小樹林ヲ包含シタル時ハ使用収益者ハ其所有者ノ定メタル採伐ノ順序又ハ其常久ノ習慣ニ從ヒ其採伐ス可キ樹木ノ順序及ヒ分量ヲ遵守ス可シ然レハ使用収益者ノ其収益ノ間ニ爲サ、リシ小樹若クハ貯存樹若クハ大樹ノ通常ノ採伐ノ爲メ使用収益者又ハ其相續人ノ爲メニ賠償ヲ爲スコトナシ

増樹場ヲ破損セシテ其場中ヨリ移搬スルヲ得可キ樹木ハ使用収益者ノ其移搬シタル樹木ニ換ヘテ他ノ樹木ヲ植ル爲メ其地ノ習慣ニ從フ可キノ責任アルニ非サレハ亦使用収益權ノ一部分ヲ爲サ、ルモノトス(民五九五、一四〇三)

第五百九拾壹條 使用収益者ハ地所ノ特定ノ一部分ニ於テ時期ヲ定メテ其採伐ヲ爲スト其地ノ全面ニ於テ區別ナク定數ノ樹木ヲ採伐スルコトヲ得ハ

ス常ニ必ス舊所有者ノ時期ト習慣トニ從フニ於テハ亦其採伐ノ順序ヲ定メタル大樹林ノ樹木ノ一部分ヲ利益ス

第二百五拾貳條 總テ其他ノ場合ニ於テハ使用収益者ハ大樹林ノ樹木ニ觸ルハ、イヲ得ス唯其擔任シタル修繕ヲ爲ス爲メ偶然ノ事故ニ依テ倒仆シ又ハ摧折シタル樹木ヲ用フルノミヲ得可ク又然ノミナラス使用収益者ハ若シ必要ナルニ於テハ右ノ目的ノ爲メ其樹木ヲ伐倒スヲ得可シト雖モ所有者ニ對シテ其必要ナルイヲ證明セシムルノ責任アルモノトス

第二百五拾三條 使用収益者ハ森林中ニ於テ葡萄ノ爲メノ架木ヲ採取スルイヲ得可ク又樹木ニ付キ毎年又ハ時々ノ生産物ヲ採取スルイヲ得可シ但シ其諸件ニ付テハ土地ノ習慣又ハ所有者ノ慣例ニ從フ可キモノトス(民五八三)

第二百五拾四條 枯タル菓樹又然ノミナラス偶然ノ事故ニ依テ倒仆シ又ハ摧折シタル菓樹ハ使用収益者ノ之ニ代ヘテ他ノ菓樹ヲ植ユルノ責任ヲ以テ其使用収益者ニ屬スルモノトス

第二百五拾五條 使用収益者ハ其權利ヲ己レ自カラ収益シ又ハ他人ニ貸貸シ又ハ然ノミナラス賣拂ヒ又ハ無償ノ名義ヲ以テ讓渡スヲ得可シ○若シ其權利ヲ貸貸スル時ハ其貸貸契約ヲ更新セサル可カラサル時期ト其貸貸契約ノ繼續ス可キ時間トニ付テハ婚姻ノ契約及ヒ夫婦相互ノ權利ノ卷ニ於テ婦ノ財産ニ關シテ夫ノ爲メニ定メタル規則ニ從ハサルヲ得ス(民一四二九一四三〇)

第二百五拾六條 使用収益者ハ土地ノ漸積ニ依リ其使用収益權ヲ有スル物件ニ生シタル増加ヲ収益ス(民五五六)

第二百五拾七條 使用収益者ハ地役ノ權利通行ノ權利及ヒ一般ニ所有者ノ収益スルヲ得可キ總テノ權利ヲ収益シ且ツ之ヲ其所有者自身ノ如クニ収益ス(民五七八六三七以下一ニニニニニニ)

第二百五拾八條 使用収益者ハ其使用収益權開始ノ時ニ當リ開取中ノモノタル金礦及ヒ石礦ヲ亦所有者ト同一ノ方法ヲ以テ収益ス然レモ准許ヲ得スシテ爲スヲ得サル開取ニ關スル時ハ使用収益者ハ國王共和國大統領

ノ許ヲ得タル後ニ非サレハ之ヲ収益スルヲ得ズ
使用収益者ハ未タ穿開セサル金礦及ヒ石礦ニ付キ何等ノ權利ヲモ有セス
又未タ開取ヲ始メサル泥炭坑ニ付キ何等ノ權利ヲモ有セス又使用収益權
ノ繼續スル時間ニ發見スルコトアル可キ埋藏財貨ニ付キ何等ノ權利ヲモ有
セス(民一四〇三)

第二百五十九條 所有者ハ自己ノ所爲ニ依リ又ハ如何ナル方法ヲ問ハス使
用収益者ノ權利ヲ害スルヲ得ズ

使用収益者ハ自己ノ方ニ於テモ其爲シタリト稱言スル所ノ改良ノ爲メ物
ノ價額ノ増加シタル時ト雖モ使用収益權ノ止息スル時ニ至リ其改良ノ爲
メニ毫モ賠償ヲ得ント求ムルヲ得ズ

然レモ使用収益者又ハ其相續人ハ場所ヲ其原始ノ景狀ニ復スルノ責任ヲ
以テ其備ヘ置カシメタル鏡並額及ヒ其他ノ裝飾物ヲ移搬スルヲ得可シ
(民二二二六)

○第貳節 使用収益者ノ義務

第六百條 使用収益者ハ物ヲ其現在ノ景狀ニ於テ受取ル可シ然レモ所有者
ノ面前ニ於テ又ハ法ニ適シテ之ヲ招喚シタル上ニテ其使用収益權ヲ受ク
ル動産ノ目錄及ヒ不動産ノ景狀書ヲ作ラシメタル後ニ非サレハ収益ニ入
ルヲ得ズ(民一〇〇四一。一一〇。一四一五三三。一七三)

第六百壹條 使用収益者ハ使用収益權設定ノ證書ヲ以テ免許セラレタルニ
非サレハ其家父ニ於テ収益スルノ保証人ヲ立ツ可シ然レモ其子ノ財産ニ
付キ法律上ノ使用収益權ヲ有スル父母又ハ使用収益權ヲ貯存シタル賣主
又ハ贈與者ハ保証人ヲ立ツルニ及ハス(民五七八六。九五二。九四二。一八以
下二〇四以下)

第六百貳條 若シ使用収益者ノ保証人ヲ見出サ、ル時ハ不動産ヲ貸貸シ又
ハ之ヲ第三ノ人ニ附託ス可シ

使用収益權中ニ包含シタル金額ハ之ヲ益用ス可シ
飲食品ハ之ヲ賣リテ其代金ヲ亦同シク益用ス可シ

此場合ニ於テハ其金額ノ利息及ヒ貸貸ハ使用収益者ニ屬スルモノトス(民

一九五五(二〇四一)

第六百三條 使用収益者ノ方ニ於テ保証人ヲ立テサル時ハ所有者其使用ニ依テ損取スル動産ノ代金ヲ飲食ノ代金ノ如クニ益用スル爲メ其動産ヲ賣ル可キ旨ヲ要求スルコトヲ得可シ然ル時ハ使用収益者其使用収益權ノ繼續スル間其利息ヲ収益ス然レモ使用収益者ハ其單一ナル誓約上ノ保証ニ依リ自己ノ使用ノ爲メニ必要ナル動産ノ一部ヲ己レニ委附セラレシテ訟求スルヲ得可ク而シテ裁判官ハ景況ニ從ヒ之ヲ命令スルコトヲ得可シ但シ使用収益者ハ其使用収益權ノ消滅ニ至リ右ノ動産ヲ還ス可キノ責任アリトス(民六〇二)

第六百四條 保証人ヲ立ツルノ遲延ハ使用収益者ニ其權利ヲ有スルコトヲ得可キ果實ヲ失ハシムルコトナク其果實ハ使用収益權開始ノ時ヨリ其使用収益者ニ屬ス可キノトス

第六百五條 使用収益者ハ補理ノ修繕ノミヲ擔任ス可シ
大修繕ハ所有者ノ責任タリ但シ使用収益權開始ノ後補理ノ修繕ヲ爲サハ

ルニ依リ其大修繕ヲ爲ス可キノ至リシ時ハ格別ニシテ此場合ニ於テハ使用収益者其大修繕ヲモ亦擔任ス可キノトス(民五七八六〇二四〇九)

第六百六條 大修繕トハ大牆壁及ヒ天井ノ修繕梁椽及ヒ屋蓋全部ノ改造並ニ堤防支持壁瀾圍ノ全部ノ改造ヲ云フ
總テ其他ノ修繕ハ補理ノ修繕ナリトス

第六百七條 所有者ニ於テモ又使用収益者ニ於テモ朽廢シテ崩潰シタルモノ又ハ意外ノ事故ニ依リ破壊シタルモノヲ再建スルニ及ハス(民六〇六六三三六二四二四八二七三〇一七五五)

第六百八條 使用収益者ハ其收益ノ間ハ租稅及ヒ其他習慣上ニ於テ果實ノ責任ナリト看做ス所ノ諸件ノ如キ總テ其不動産ノ毎年ノ責任ヲ擔任ス可シ(民六〇五六三五)

第六百九條 使用収益權ノ繼續スル間ニ所有物ニ課セラルヘコトアル可キ責任ニ關シテハ使用収益者及ヒ所有者ハ左ノ如ク之ヲ分擔ス
所有者ハ之ヲ辨濟ス可キノ義務アリテ使用収益者ハ利息ヲ其所有者ニ計

算セサルヲ得ス

若シ使用収益者ノ之ヲ立替ヘタル時ハ使用収益權ノ終ニ至リ元金ヲ取戻ス
ス(民六〇七以下)

第六百拾條 遺囑者ヨリ畢生間ノ年金收受權又ハ養料ヲ遺囑ト爲シタル時
ハ使用収益權ノ全括ノ受遺囑者ハ其遺囑物ノ全部ヲ辨償セサルヲ得ス又
使用収益權ノ全括ノ名義ニ於ケル受遺囑者ハ其収益ニ准シテ其遺囑物ヲ
辨償セサルヲ得ス但シ此等ノ者ノ方ニ毫モ取戻ヲ爲ス(民一〇三以下)

第六百拾壹條 特定ノ名義ニ於ケル使用収益者ハ其不動産ヲ書入質ト爲シ
タル負債ヲ擔任セス若シ其者ノ右ノ負債ヲ辨償スルニ強ラレタル時ハ所
有者ニ對シテ償還ヲ請求スルヲ得但シ生存中ノ贈與及ヒ遺囑ノ卷第千
二十條ニ記スル所ハ格別ナリトス(民一〇二〇)

第六百拾貳條 全括ノ使用収益者又ハ全括ノ名義ニ於ケル使用収益者ハ所
有者ト其ニ左ノ如ク負債ノ辨償ヲ分擔セサル可カラズ

使用収益權ヲ受クル不動産ノ價額ヲ見積リ然ル後其價額ニ准シテ負債ノ
分擔ヲ定ム

若シ使用収益者其不動産ノ分擔セサル可カラサル金額ヲ立替ニルヲ欲
シタル時ハ其使用収益權ノ終ニ至リ毫モ利息ヲ附セスシテ其元金ヲ使用
収益者ニ返還ス可シ

若シ使用収益者ノ其立替ヲ爲ス(民六〇九六二二〇二四二一五三)
シ使用収益者ヲシテ其使用収益權ノ繼續スル間ノ利息ヲ己レニ算計セシ
メ又ハ使用収益權ヲ受クル財産ノ一部分ヲ其恰モ相當レル額ニ充ツル迄
賣拂ハシムルヲ自由ナリトス(民六〇九六一二二〇二四二一五三)

第六百拾三條 使用収益者ハ収益ニ關スル訴訟ノ費用及ヒ其他右ノ訴訟ニ
依リ言渡サルハ、コアル可キ金額ノミヲ擔任ス可シ(民一三〇)

第六百拾四條 若シ使用収益權ノ繼續スル間ニ第三ノ人カ其不動産ニ付キ
或ル侵奪ヲ行ヒ又ハ其他ノ方法ニテ所有者ノ權利ニ妨害ヲ行フ時ハ使用
収益者ヨリ其由ヲ所有者ニ告知ス可シ若シ其告知ヲ爲サハル時ハ使用收

益者已レ自カラ行ヒタル損壞ニ付キ實ニ任ス可キカ如ク其所有者ノ爲メニ生スルコトアル可キ總テノ損害ノ實ニ任ス可キモノトス(民一三八三―七六八)

第六百拾五條 若シ一頭ノ獸ノミニ付キ使用収益權ヲ設定シタル時使用収益者ノ過失ニアラスシテ其獸ノ斃レタルニ於テハ其使用収益者ハ他ノ獸ヲ還スニ及ハス又其評定ノ價額ヲ辨濟スルニ及ハス(民六一七六―二二三)

第六百拾六條 若シ使用収益權ヲ設定シタル獸群ノ使用収益者ノ過失ニアラス偶然ノ事故ニ依リ又ハ病ニ依テ全ク斃レタル時ハ使用収益者ハ所有者ニ對シテ唯其皮又ハ皮ノ價額ヲ算計ス可キノミトス
若シ其獸群ノ全ク斃レタルニ非サル時ハ使用収益者其増殖シタル獸ノ數ニ充ツル迄其斃レタル獸數ヲ代補ス可シ

○第三節 使用収益權ノ終ル方法

第六百拾七條 使用収益權ハ左ノ諸件ニ依テ消滅ス

- 使用収益者ノ死去及ヒ准死
- 使用収益權ヲ附與シタル時間ノ終ル事

使用収益者及ヒ所有者タルニ箇ノ分限ヲ一人ニテ併合シ即チ合同スル事

三十年間其權利ヲ使用セサル事

使用収益權ヲ設定シタル物ノ全ク滅盡スル事(民七〇三―三〇二ニ六二)

第六百拾八條 使用収益權ハ使用収益者ノ其不動産ニ損壞ヲ行ヒ若クハ補理ヲ爲サスシテ其不動産ヲ損敗セシメ以テ其収益ヲ妄用シタルニ依リ亦止息スルコトアル可シ

使用収益者ノ債主ハ自己ノ權利ノ保存ノ爲メ爭訟ニ參加スルコトヲ得可ク又其債主ハ使用収益者ノ行ヒタル損壞ノ補償及ヒ將來ノ爲メノ擔保ヲ爲サント供陳スルコトヲ得可シ

裁判官ハ景況重劇ノ度ニ從ヒ或ハ其使用収益權ノ完全ノ消滅ヲ宣告シ或ハ所有者ヨリ使用収益者又ハ其受權人ニ其使用収益權ノ止息ス可キ時ニ至ル迄毎年特定ノ金額ヲ辨濟スルノ責任アルニ非サレハ所有者ノ其使用収益權ヲ負ヒタル物品ノ収益ヲ回復スルコトヲ命令セサルヲ得可シ(民六〇一)

第六百拾九條 各人民ニ附與シタルモノニ非サル使用収益權ハ三十年ノミ
繼續スルモノトス(民六一七)

第六百拾條 第三ノ人カ特定ノ年齢ニ達スルニ至ル迄附與シタル使用收
益權ハ假令其第三ノ人ノ特定ノ年齢ニ至ラサル前ニ死去セシ時ト雖モ其
時期ニ至ル迄繼續スルモノトス

第六百拾壹條 使用収益權ヲ受クル物ノ賣拂ハ其使用収益者ノ權利ニ於
テ毫モ變更ヲ爲スヲナク使用収益者ハ繼續シテ其使用収益權ニ付キ收益
ス可シ但シ使用収益者ノ明確ニ其使用収益權ヲ拋棄シタル時ハ格別ナリ
トス

第六百拾貳條 使用収益者ノ債主ハ自己ノ損害ニ於テ其使用収益者ノ爲
シタル拋棄ヲ取消サシムルコトヲ得可シ(民一一六七)

第六百拾參條 若シ使用収益權ヲ受クル物ノ一部分ノミノ滅盡シタル時
ハ其殘ル所ノモノニ付キ使用収益權ヲ保存スルモノトス(民六一五)

第六百拾四條 若シ建造物ノミニ付キ使用収益權ヲ設定シ而シテ其建造

物ノ火災又ハ其他ノ偶然ノ事故ニ依リ滅盡シ又ハ其朽腐シテ崩壞シタル
時ハ使用収益者ハ其地所及ヒ材料ニ付キ収益スルノ權利ヲ有セス

若シ建造物ノ添ヒタル土地ニ付キ使用収益權ヲ設定シタル時ハ使用収益
者ハ其地所及ヒ材料ニ付キ収益ス可シ(民六一七)

○第二章 使用權及ヒ住居權

第六百拾五條 使用ノ權利及ヒ住居ノ權利ハ使用収益權ト同一ノ方法ヲ
以テ之ヲ設定シ及ヒ之ヲ失フモノトス(民五七。以下六一七以下)

第六百拾六條 人ハ使用収益權ノ場合ニ於ケル如ク豫メ保証人ヲ立ツル
コトナク且ツ景狀書及ヒ目錄ヲ作ルコトナクシテ使用權及ヒ住居權ニ依リ收
益スルコトヲ得ス(民六〇。以下二〇。一一以下)

第六百拾七條 使用權者及ヒ住居權者ハ其家父ニ於テ収益セサルヲ得ス
(民六〇。以下)

第六百拾八條 使用ノ權利及ヒ住居ノ權利ハ之ヲ設定シタル權原ニ依テ

之ヲ規定ス可ク且ツ其權原ノ所定ニ從テ之レカ廣狹ヲ定ム可シ

第六百貳拾九條 若シ其權原ニ此等ノ權利ノ廣狹ヲ明示セサル時ハ以下ノ如ク之ヲ規定ス可シ

第六百三拾條 土地ノ果實ノ使用權ヲ有スル者ハ自己ノ需要ト其家族ノ需要トノ爲メニ必要ナルモノ、外其果實ヲ得ント要求スルコト得ス
其使用權ヲ有スル者ハ使用權許與ノ後ニ擧ケタル子ノ需要ノ爲メト雖モ其果實ヲ得ント要求スルコト得可シ

第六百三拾壹條 使用權者ハ其權利ヲ他人ニ讓渡シ又ハ賃貸スルコト得ス
(民六三四)

第六百三拾貳條 家屋ニ於ケル住居ノ權利ヲ有スル者ハ其權利ヲ附與セラレタル時期ニ於テハ未タ結婚セカリシ時ト雖モ其家族ト共ニ右ノ家屋ニ居住スルコト得可シ(民六三四)

第六百三拾三條 住居ノ權利ハ其權利ヲ許與セラレタル者及ヒ其家族ノ住居ノ爲メニ必要ナル所ノモノニ限ルモノトス

第六百三拾四條 住居ノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ賃貸スルコト得ス(民六三一)

第六百三拾五條 若シ使用權者ノ其土地ノ總テノ果實ヲ吸收シ又ハ家屋ノ全部ニ占居スル時ハ使用權者ハ使用收益者ノ如クニ耕作ノ費用補理ノ修繕及ヒ租税ノ辨濟ヲ負擔ス可シ

若シ其使用權者ノ果實ノ一部分ノミヲ收取シ又ハ家屋ノ一部分ノミニ占居スル時ハ其收益スル所ノモノ、割合ヲ以テ分擔スルモノトス

第六百三拾六條 森林ノ使用權ハ特別ノ法律ヲ以テ之ヲ規定ス(民六二五六三〇、林五八以下六一以下六九一〇九以下一一八以下)

○第四卷

地役即チ地務千八百四年一月三十一日決定二月十日宣令

第六百三拾七條 地役トハ他ノ所有者ニ屬スル不動産ノ使用及ヒ便益ノ爲メ一箇ノ不動産ニ課セラレタル責任ヲ云フ(民五二六五四四五六三九六四〇以

下六四七六八、一六八六以下、一五八三、一六二五)

第六百三拾八條 地役ハ一ノ不動産ノ他ノ不動産ニ對スル優等ヲ設定セス
第六百三拾九條 地役ハ或ハ土地ノ天然ノ位置ヨリ生シ或ハ法律ニ依リ課
セラレタル義務ヨリ生シ或ハ所有者ノ間ノ合意ヨリ生ス(民六四〇以下六八六
以下)

○第一章 土地ノ位置ヨリ生スル地役

第六百四拾條 低キ土地ハ更ニ高キ土地ニ對シ其土地ノ助ニ依ラ
スシテ自然ニ流下スル水ヲ受クルコトヲ負擔ス

低キ土地ノ所有者ハ其流下ヲ防止スル所ノ堤防ヲ築クコトヲ得ス

高キ土地ノ所有者ハ低キ土地ノ地役ヲ重劇ナラシムル所ノ諸件ヲ爲スコ
ト得ス(民五四五、六四四、六四五、六八七、一七〇、一七二)

參看 一千八百五十四年六月十日ノ法律ヲ參照ス可シ

第六百四拾壹條 自己ノ土地内ニ水源ヲ有スル者ハ自己ノ隨意ニ之ヲ用フ
ルコトヲ得但シ低キ土地ノ所有者カ權原又ハ期滿效ニ依リ獲得スルコトヲ得

タル權利ト相觸ル、コトナカル可シ(民五五二、六四二、六四四、六四五、六九〇以下七〇、七二
三)

第六百四拾貳條 此場合ニ於テ期滿效ハ低キ土地ノ所有者カ自己ノ所有地
内ニ水ノ降下流通ヲ容易ナラシムル爲メニ設ケタル外見ノ工事ヲ爲シ終
リタル時ヨリ起算シテ三十年間ノ間斷ナキ收益ニ依ルニ非サルハ之ヲ獲
得スルコトヲ得ス(民六四一、六四四、六九〇、七〇一、七〇六、七二二、七二六)

第六百四拾三條 水源ノ所有者ハ邑村又ハ小村ノ人民ニ必要ナル水ヲ給ス
ル時ハ其水路ヲ變スルコトヲ得ス然レモ若シ其人民ニ於テ其水ノ使用權ヲ
獲得シ又ハ其期滿效ヲ得タルコトナキ時ハ所有者賠償ヲ得ント求ムルコトヲ
得可シ但シ其賠償ハ鑑定人之ヲ規定ス可キモノトス(民五四四、五五五、五五七)

第六百四拾四條 財産ノ區別ノ卷第五百三十八條ニ依リ公領ノ附屬ナリト
定メラレタルモノニ非サル流水ノ傍側ニアル土地ノ所有者ハ其所有地ノ
泄水ノ爲メ流水ノ通路ニ於テ之ヲ用フルコトヲ得可シ
其流水ノ通過スル土地ノ所有者ハ然ノミナラス自己ノ土地内ニテ其流過

スル所ノ間ノ場所ニ於テ之ヲ用フルコトヲ得可シ然レモ其土地内ヨリ流出
スル所ニ於テハ之ヲ其當然ノ流路ニ復ス可キノ責任アルモノトス(民五三七
五四四五四五六四〇六四二六四五六六一以下六九八七〇一七〇三七一四二二一九二二二六二二
九二二二三二二三八二二六二)

【参看】 千八百四十五年四月二十九日ノ法律及ヒ千八百四十七年七月十一日ノ法律ヲ参看ス可シ

第六百四拾五條 若シ其水ノ有益ナル可キ所有者數人ノ間ニ争訟ノ起ル時
ハ裁判所ニ於テ其裁判ヲ宣告スルニ付キ農業ノ利益ヲ所有權ニ對スル崇
敬ト相調和セサルヲ得ス而シテ又如何ナル場合ニ於テモ水路及ヒ水ノ使
用ニ付テノ特別ナル地方ノ規則ヲ遵守セサルヲ得サルモノトス(民六四四)

第六百四拾六條 各所有者ハ其相接スル所有地ノ立界ヲ爲ストニ隣人ヲ強
ニルコトヲ得可シ○其立界ハ共同ノ費用ヲ以テ之ヲ爲スモノトス(民一三一五
一三四二二三五三三林一四)

第六百四拾七條 各所有者ハ第六百八十二條ニ記シタル例外ヲ除クノ外自
己ノ土地ヲ範圍スルコトヲ得可シ(民六七八以下刑四五六)

第六百四拾八條 範圍ヲ爲サント欲スル所有者ハ其一邑又ハ數邑ノ人民共
同牧畜場ヨリ取去リタル地所ノ割合ヲ以テ其共同牧畜ニ於ケル自己ノ權
利ヲ失フモノトス(民六四七)

○第二章 法律ニ依リ設定シタル地役

第六百四拾九條 法律ニ依リ設定シタル地役ハ共同ノ便益又ハ邑ノ便益又
ハ各人民ノ便益ヲ以テ目的トス(民六三九)

第六百五拾條 共同ノ便益又ハ邑ノ便益ノ爲メニ設定シタル地役ハ舟ヲ通
シ又ハ筏ヲ通ス可キ河川ノ傍側ニ於ケル沿岸ノ小徑並ニ共同又ハ各邑ノ
道路及ヒ其他ノ工事ノ造營又ハ修繕ヲ以テ目的トス
地役ノ此種類ニ關スル諸件ハ特別ノ法律又ハ規則ヲ以テ之ヲ定ム(民五三八
五五六)

第六百五拾壹條 法律ハ各所有者ヲシテ總テノ合意ニ係ハラヌ相互ニ對シ
テ種々ノ義務ヲ負擔セシム(民六四〇六四七六七四一三七〇)

第六百五拾貳條 其義務ノ一部分ハ田野警察ノ法律ヲ以テ之ヲ規定ス

其他ノ一部分ハ兩屬ノ牆壁及ヒ溝渠對牆ヲ設ク可キ場合隣人ノ所有地ニ對スル觀望屋蓋ノ雨樋通行ノ權利ニ關スルモノトス(民六五三六七五八二)

○第壹節 兩屬ノ牆壁及ヒ溝渠

第六百五拾三條 都府及ヒ田舎ニ於テ低キ家屋ノ高キ家屋ト依着スル盡頭ノ所ニ至ル迄建造物ノ間ノ分界又ハ中庭及ヒ圍庭ノ間ノ分界ニ用立チ及ヒ然ノミナラス田野ニ於ケル繞圍地ノ間ノ分界ニ用立ツ總テノ牆壁ハ反對ノ証券又ハ記標アルニ非サレハ兩屬ノモノト思量セラル可シ(民六七五一三五〇一三五二)

第六百五拾四條 若シ牆壁ノ頂カ其一方ノ側面ハ鉛直ニシテ他ノ一方ハ斜面ヲ顯ハス時ハ兩屬ニアラサルノ記標アリトス

又牆壁ヲ造ル時ニ附シタル牆簷又ハ石ノ雨搭及ヒ牆簷受ケ石ノ一方ノミニアル時ハ亦右ノ記標アリトス

此場合ニ於テハ其牆壁ハ雨樋又ハ牆簷ノ受ケ石及ヒ石ノ雨搭ノアル一方ノ所有者ノミニ屬スルモノト看做ス可シ(民六七六一三五〇一三五二)

第六百五拾五條 兩屬牆壁ノ修繕及ヒ改造ハ其牆壁ニ付キ權利ヲ有スル各人ノ責任トス但シ其各人ノ權利ニ比准ス可シ(民六五六以下六六三六六四)

第六百五拾六條 然レハ兩屬牆壁ノ各共同所有者ハ其兩屬ノ權利ヲ拋棄スルニ依リ修繕及ヒ改造ヲ分擔スルヲ免カル、コトヲ得可シ但シ之レカ爲メニハ其兩屬牆壁ノ右ノ所有者ニ屬スル所ノ建造物ヲ支持セサルコトヲ必要トス(民六九九)

第六百五拾七條 各共同所有者ハ其兩屬牆壁ニ傍フテ造築ヲ爲サシメ及ヒ其厚サノ全部中五十四ミルリメートル(二ブース)ヲ除キテ之ニ棟材又ハ梁柱ヲ入レシムルコトヲ得可シ但シ其隣人ノ亦自カラ右ト同一ノ場所ニ棟材ヲ掘ヘ付ケ又ハ其場所ニ傍フテ緩衝ヲ設ケント欲スル場合ニ於テハ其牆壁ノ中央ニ至ル迄棟材ヲ削取ラシムルノ權利ト相觸ル、コトナカル可シ(民六七四六七五)

第六百五拾八條 各共同所有者ハ兩屬牆壁ヲ增高セシムルコトヲ得可シ然レハ其共同所有者ハ其增高ノ費額共同繞圍ノ高サ以上ノ補理ノ修繕及ヒ右

ノ外其增高ノ割合ヲ以テ其價額ニ准シタル負載ノ賠償ヲ己レ一人ニテ辨濟セサル可カラズ(民六六〇)

第六百五拾九條 若シ兩屬牆壁ノ其增高ニ堪ユルヲ能ハサル時ハ之ヲ增高セント欲スル者ハ自己ノ費用ヲ以テ其牆壁ヲ全ク改造セシメサル可カラズ而シテ又其厚サノ増分ハ自己ノ方ヨリ之ヲ取ラサル可カラズ(民六六二)

第六百六拾條 增高ヲ分擔セサリシ隣人ハ其增高ニ付テノ費額ノ一半ト其厚サヲ増シタル時ハ厚サノ増分ノ爲メニ給シタル地所ノ一半ノ價額トヲ辨濟スルニ依リ其增高ノ部分ノ兩屬權ヲ獲得スルヲ得可シ(民六五九)

第六百六拾壹條 一箇ノ牆壁ニ接スル土地ノ各所有者ハ其牆壁ノ所有主ニ其價額ノ一半又ハ其兩屬ト爲サント欲スル部分ノ價額ノ一半ト其牆壁ヲ造リタル地所ノ價額ノ一半トヲ償還スルニ依リ亦其牆壁ノ全部又ハ一部ヲ兩屬ノモノト爲スノ權能ヲ有スルモノトス(民六六二六七五七六六七八六九〇七〇七六一六二五二六四一三三三三)

第六百六拾貳條 比隣者ノ中一方ハ他ノ一方ノ承諾ヲ得ルヲナク若シ又他

ノ一方ノ否拒スルニ於テハ新タナル工事ノ他ノ一方ノ權利ヲ害セサルニ必要ナル方法ヲ鑑定人ヲシテ規定セシメタルヲナクシテ兩屬牆壁ノ体中ニ穴ヲ穿テ又ハ一箇ノ工作物ヲ之ニ附着シ又ハ支持セシムルヲ得ス(民六五七以下六七五)

第六百六拾三條 都府及ヒ郭外ノ地ニ於テハ各人其隣人ヲシテ其都府及ヒ郭外ニアル家屋中庭及ヒ圍庭ノ分界ヲ爲ス範圍ノ造營及ヒ修繕ヲ分擔セシムルニ強ユルヲ得可シ但シ其範圍ノ高サハ特別ノ規則又ハ常久ニシテ衆人ノ認知スル習慣ニ從ヒ之ヲ定ム可ク若シ其習慣及ヒ規則ノアラサル時ハ將來造營シ又ハ改造ス可キ比隣者ノ間ノ分界ノ牆壁ハ總テ人口五万以上ノ都府ニ於テハ牆壁ヲ包含シテ少クハ三十三デシメートル【十】ピエ一【一】ノ高サヲ有シ又其他ノ都府ニ於テハ二十六デシメートル【八】ピエ一【一】ノ高サヲ有セサル可カラズ(民五四五六四七六五五五六六六三)

第六百六拾四條 家屋ノ數箇ノ層階ノ相異ナレル所有者ニ屬スル時若シ所有權ノ証券ニ其修繕及ヒ改造ノ仕方ヲ規定セサルニ於テハ左ノ如ク其修

繕及ヒ改造ヲ爲サ、ルヲ得ス
大ナル牆壁及ヒ屋蓋ハ各所有者ニ屬スル所ノ階階ノ價額ニ准シテ其各所
有者ノ責任アリ
各階階ノ所有者ハ其階歩スル所ノ階板ヲ造ル可シ
第一層ノ所有者ハ其第一層ニ登ル梯子ヲ造リ第二層ノ所有者ハ第一層ニ
登ル梯子ヨリシテ第二層ニ登ル梯子ヲ造リ其他ノ階階ノ所有者ハ皆之ニ
倣フ可シ(民六〇五六。六六五五)

第六百六拾五條 兩屬ノ牆壁又ハ一箇ノ家屋ヲ改造シタル時ハ其能働及ヒ
所働ノ地役ハ其新ナル牆壁又ハ新ナル家屋ニ對シテ繼續スルモノト
ス然レハ其地役ヲ重測ナラシムルヲ得ス且ツ期滿效ヲ獲得スル前ニ其
改造ヲ爲スヲ必要トス(民七〇三七。四二二六二)

第六百六拾六條 (千八百八十一年八月二十日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス)
總テ不動産ノ分界ヲ爲ス範圍ハ兩屬ノモノト看做ス可シ但シ範圍ノ景狀
ニアル不動産ノ唯一箇ノミタル時又ハ反對ノ權原、期滿效又ハ肥標アル時

ハ格別ナリトス

溝渠ニ付テハ土手又ハ堀リ出シタル泥土ノ其溝渠ノ一方ノミニアル時ハ
兩屬ニ非サルノ肥標アリトス

溝渠ハ其堀出シタル泥土ノアル一方ノ者ノミニ屬スルト看做ス可シ(民五
四四一三五。一三五二刑四五六)

第六百六拾七條 (千八百八十一年八月二十日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス)

兩屬ノ牆壁ハ共同ノ費用ヲ以テ之ヲ補理セサル可カラス然レハ隣人ハ其
兩屬權ヲ拋棄スルニ依リ右ノ義務ヲ免カル、ヲ得可シ

若シ其溝渠ノ通常水ノ流出ニ用立ツ時ハ右ノ權能止息スルモノトス

第六百六拾八條 (千八百八十一年八月二十日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス)

兩屬ノモノニ非サル溝渠又ハ籬牆ニ接スル不動産ヲ所有スル所ノ隣人ハ
其溝渠又ハ籬牆ノ所有者ヲシテ其兩屬權ヲ己レニ讓渡サシムルニ強ユル
ヲ得ス

兩屬ノ籬牆ノ共同所有者ハ自己ノ所有地ノ境界ニ至ル迄之ヲ廢滅スルコ

ヲ得可シ但シ其者ハ右ノ境界ニ一箇ノ牆壁ヲ造ル可キノ責任アリトス
同上ノ規則ハ範圍ノミニ用立ツ所ノ兩屬溝渠ノ共同所有者ニ適用ス可キ
モノトス

第六百六拾九條(千八百八十一年八月二十日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス)
籬牆ノ兩屬ノ繼續スル間ハ其生産物ハ一半ツ、各所有者ニ屬スルモノト
ス

第六百七拾條(千八百八十一年八月二十日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス)
兩屬ノ籬牆中ニアル樹木ハ其籬牆ノ如クニ兩屬ノモノタリ○二箇ノ不動産
ノ分界線ニ植ヘタル樹木ハ亦兩屬ノモノト看做ス可シ○若シ其樹木ノ枯
レタル時又ハ之ヲ伐リ或ハ拔キタル時ハ一半ツ、其樹木ヲ分ツ可シ○果
實ハ其自然ニ落テタルト故ラニ之ヲ落シタルト之ヲ摘採シタルト間ハ
ス共同ノ費用ヲ以テ之ヲ收取シ而シテ亦一半ツ、之ヲ分ツ可シ
各所有者ハ兩屬ノ樹木ヲ拔キ取ラント要求スルノ權利アリ(民一三五〇・一三五
二)

第六百七拾壹條(千八百八十一年八月二十日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス)
現ニ存在スル特別ノ規則又ハ常久ニシテ衆人ノ認知スル習慣ニ依リ定メ
タル距離若シ又其規則及ヒ習慣ノアラサル時ハ三メートルノ高サニ超ユ
ル植附ニ付テハ二箇ノ不動産ノ分界線ヨリ三メートルノ距離又其他ノ植
附ニ付テハ半メートルノ距離ニ非サレハ隣地ノ境界ニ接近シテ樹木、小樹、
矮樹ヲ植ユルヲ許サス

各種ノ樹木、小樹、矮樹ハ何等ノ距離ヲモ遵守スルニ及ハスシテ分界牆壁ノ
雙方ニ樹架トシテ植ユルヲ得可シ然レハ其牆壁ノ頂ニ超ユルヲ得サ
ルモノトス

若シ牆壁ノ兩屬ノモノニ非サル時ハ其所有者ノミニ於テ右ノ牆壁ニ自己
ノ樹架ヲ支持セシムルノ權利アルモノトス

第六百七拾貳條(千八百八十一年八月二十日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス)
隣人ハ法律上ノ距離ヨリ更ニ少ナキ距離ニ植エタル樹木、小樹、矮樹ヲ拔キ
又ハ前條ニ定メタル高サニ減ス可キヲ要求スルヲ得可シ但シ權原家父

ノ用方又ハ三十年ノ期滿效アル時ハ格別ナリトス
若シ其樹木ノ枯レ又ハ之ヲ伐リ或ハ抜キタル時ハ隣人ハ法律上ノ距離ヲ
遵守スルニ非サレハ之ニ代ヘテ更ニ他ノ樹木ヲ植ユルヲ得ス(民六九四三
二六二)

第六百七拾三條 (千八百八十一年八月二十日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス)
隣人ノ樹枝ノ侵出シタル土地ノ所有者ハ隣人ニ之ヲ伐ルヲ強ユルヲ得
可シ○其枝ヨリ自然ニ落ツル所ノ果實ハ右ノ所有者ニ屬スルモノトス
若シ根ノ自己ノ土地内ニ侵出シタル時ハ自カラ之ヲ伐ルノ權利アリ
根ヲ伐リ又ハ枝ヲ伐ラシムルノ權利ハ期滿效ヲ得可カラサルモノトス

○第三節 或ル造營ノ爲メニ必要ナル距離及ヒ中間ノ工事

第六百七拾四條 兩屬タルト否トヲ問ハス一箇ノ牆壁ニ接近シテ井又ハ甃
坑ヲ堀ラシムル者

其牆壁ニ接シテ暖爐又ハ火燒所鑄造所電爐ヲ造ラント欲スル者
其牆壁ニ倚セ獸欄ヲ設ケント欲スル者

又ハ其牆壁ニ傍フテ鹽庫又ハ腐蝕物ノ貯場ヲ造設セント欲スル者
此等ノ者ハ其隣人ニ害スルヲ防ク爲メ右ノ諸件ニ付テノ特別ノ規則及ヒ
習慣ニ定メタル距離ヲ存シ又ハ之ト同一ノ規則及ヒ習慣ニ定メタル工事
ヲ爲ス可キノ義務アルモノトス(民五五二六六二六七四六七五六七八一三八二)

○第三節 隣人ノ所有地ニ對スル觀望

第六百七拾五條 比隣者ノ中一方ハ其方法ノ如何ヲ問ハス假令開閉セサル
玻璃板ヲ用フルト雖モ他ノ一方ノ承諾ヲ得スシテ兩屬ノ牆壁ニ一箇ノ窓
又ハ穴口ヲ作ルヲ得ス

第六百七拾六條 直チニ他人ノ不動産ニ接シタル兩屬ニ非サル牆壁ノ所有
者ハ其牆壁ニ鐵ノ格子及ヒ開閉セサル玻璃板ヲ用フル明リ窓又ハ窓ヲ作
ルヲ得可シ

其窓ニハ明キ間ノ多クモ二テシメートル(三)アツス(八)リ一ツ(許)タル鐵ノ格
子ト開閉セサル玻璃板ノ框トヲ具ヘサルヲ得ス(民六五四六六一六七七)

第六百七拾七條 其窓又ハ明リ窓ハ平間ニ於テハ其光明ヲ通セント欲スル

房室ノ踏板又ハ地臺ノ上二十六デシメートル〔八ビエー〕ニ非サレハ之ヲ設クルヲ得ヌ又其上ノ層階ニ於テハ踏板ノ上十九デシメートル〔六ビエー〕ニ非サレハ之ヲ設クルヲ得ヌ

第六百七拾八條 牆壁ト隣人ノ不動産トノ間ニ十九デシメートル〔六ビエー〕ノ距離アルニ非サレハ其隣人ノ不動産ニ繞圍アルト繞圍アラサルトノ間ハ其牆壁ニ直視ノ觀望窓又ハ望視ノ窓ヲ作ルヲ得ヌ又ハ隣人ノ不動産ニ對スル露臺或ハ其他此類ノ突出シタル物ヲ作ルヲ得ヌ(民五五三六三〇、六七二六七九六八六九〇七〇、三三三三三)

第六百七拾九條 六デシメートル〔二ビエー〕ノ距離アルニ非サレハ同上ノ不動産ニ對スル横視又ハ斜視ノ觀望窓ヲ作ルヲ得ヌ(民五五二六八〇七〇)

第六百八拾條 前二條ニ記シタル距離ハ穴口ヲ作ル所ノ牆壁ノ外部ノ側面ヨリ二箇ノ所有地ノ分界線ニ至ル迄ニ之ヲ計算シ又露臺或ハ其他此類ノ突出シタル物アル時ハ其外部ノ線ヨリ二箇ノ所有地ノ分界線ニ至ル迄ニ之ヲ計算ス可キモノトス

○第四節 屋蓋ノ雨樋

第六百八拾壹條 各所有者ハ雨水ヲ自己ノ地所内又ハ公路ニ流下セシムル方法ニテ屋蓋ヲ設ケサル可カラヌ其各所有者ハ隣人ノ土地ニ雨水ヲ流入ラシムルヲ得ヌ(民五四四六八八六九〇三三八三)

○第五節 通行ノ權利

第六百八拾貳條 (千八百八十一年八月二十日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス) 環繞セラレテ公路ニ一箇ノ出口モアラサル土地ノ所有者又ハ其所有地ノ農業若クハ工業上ノ收益ノ爲メニ不充分ナル一箇ノ出口ノミヲ有スル土地ノ所有者ハ其生セシムルコトアル可キ損害ニ比准シタル賠償ノ責任ヲ以テ其隣人ノ土地ニ通行ヲ得ント求ムルコトヲ得可シ(民六八八六九一、二五六二、六一五、一六二五、二二五五)

第六百八拾三條 (千八百八十一年八月二十日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス) 其通行路ハ原則ニ於テハ其環繞セラレタル土地ヨリ公路ニ至ル迄其通路ノ最モ短キ方ニ於テ之ヲ取ラサルヲ得ヌ

然レモ通行路ハ其通行ヲ受クル土地ノ所有者ニ損害ノ最モ少ナキ場所ニ之ヲ定メサルヲ得ス(民七。一七〇。三七。五。一五四九。一五五四)

第六百八拾四條 (千八百八十一年八月二十日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス) 若シ賣買交換分派又ハ總テ其他ノ契約ニ依レル土地ノ分割ヨリ環繞地ヲ生シタル時ハ此等ノ所爲ノ目的ヲ爲シタル地所ノミニ付キ通行ヲ得ント求ムルヲ得可シ

然レモ其分割シタル土地ニ充分ナル通行路ヲ設クルヲ得サル場合ニ於テハ第六百八十二條ヲ適用ス可キモノトス

第六百八拾五條 (千八百八十一年八月二十日ノ法律ヲ以テ左ノ如ク更改ス) 環繞ノ原由ノ爲メノ通行地役ノ設ケ場所及ヒ其執行ノ仕方ハ三十年間ノ繼續シタル使用ニ依テ之ヲ定ム

第六百八十二條ニ定メタル場合ニ於ケル賠償ノ訴ハ期滿效ヲ得可キモノトス而シテ其賠償ノ訴ヲ最早受理ス可カラサル時ト雖モ通行ハ之ヲ繼續スルヲ得可シ(民六八八。六九二。二六二)

○第三章 人ノ所爲ニ依リ設定シタル地役

○第一節 財産ニ付キ設定スルヲ得可キ地役ノ種々ノ種類

第六百八拾六條 所有者ハ其所有物ニ付キ又ハ其所有物ノ爲メ其好ム所ノ地役ヲ設定スルヲ得可キモノトス然レモ其設定シタル地役ハ人ニ之ヲ課シ又ハ人ノ爲メニ之ヲ課セス唯不動産ニ之ヲ課シ及ヒ不動産ノ爲メニ之ヲ課スルヲ必要トシ其他又其役務ハ毫モ公ケノ秩序ニ反スルヲナキヲ必要トス

斯クノ如クニ設定シタル地役ノ使用及ヒ廣狹ハ之ヲ設立スル所ノ權原ヲ以テ之ヲ規定シ若シ其權原ノアラサル時ハ以下ノ規則ヲ以テ之ヲ規定ス (民五四四。六三。七。六八。八。七。六。八。九。六。九。〇。六。九。一。六。九。二。六。九。三。七。〇。一。七。〇。三。七。〇。四。七。〇。八。一。三。三。二。一。七。七)

第六百八拾七條 地役ハ或ハ建造物ノ使用ノ爲メニ之ヲ設定シ或ハ土地ノ使用ノ爲メニ之ヲ設定ス 第一種ノ地役ハ之ヲ要求ス可キ建造物ノ都府ニアルト田舎ニアルトヲ問

ハス之ヲ名ケテ市中ノモノト云フ

第二種ノ地役ハ之ヲ名ケテ田野ノモノト云フ

第六百八拾八條 地役ハ或ハ繼續或ハ不繼續トス

繼續ノ地役トハ其使用カ人ノ現在ノ所爲ヲ必要トセシテ引續キ又ハ引續クヲ得ル所ノモノヲ云フ水ノ導引雨樋觀望及ヒ其他此種類ノモノ是レナリ

不繼續ノ地役トハ之ヲ執行スル爲メニ人ノ現在ノ所爲ヲ必要トスル所ノモノヲ云フ通行ノ權利汲水ノ權利牧畜ノ權利及ヒ其他此類ノモノ是レナリ(民六三三以下六八九九六九二七〇六二二二九)

第六百八拾九條 地役ハ外見又ハ不外見トス

外見ノ地役トハ門窓引水管ノ如キ外部ノ工事ニ依テ知ル、モノヲ云フ不外見ノ地役トハ其存在ノ外部ノ標示ナキモノヲ云フ例ヘハ土地ニ造築スルノ禁又ハ定マリタル高さニ非サレハ造築ス可カラサルノ禁ノ如キ是レナリ(民七〇六以下一六三三)

○第貳節 地役ヲ設定スル方法

第六百九拾條 繼續且ツ外見ノ地役ハ權原又ハ三十年間ノ占有ニ依テ獲得スルモノトス(民六四〇以下六八八八九二二九二二三以下二二六四)

第六百九拾壹條 繼續ニシテ不外見ノ地役及ヒ不繼續ニシテ外見又ハ不外

見ノ地役ハ權原ニ依ルニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ得ス

記帳ス可カラサル占有ト雖モ右ノ地役ヲ設定スルニ足ラサルモノトス然レモ占有ヲ以テ此性質ノ地役ヲ獲得スルコトヲ得可キ地方ニ於テ右ノ方法ニ依リ既ニ獲得シタル地役ヲ今日ニ至リテ取消サント求ムルコトヲ得ス(民六三七六八二六八八六九〇七〇七二二三二七二二九)

第六百九拾貳條 家父ノ用方ハ繼續且ツ外見ノ地役ニ關シテハ權原ニ等シキ效力アリトス(民六八八六八九六九四)

第六百九拾三條 現在分割シタル二箇ノ不動産カ同一ノ所有者ニ屬シ且ツ其所有者カ其地役ヲ生スル景狀ニ物件ヲ爲シタルノ証アル時ニ非サレハ家父ノ用方アラサルモノトス(民七〇五)

第六百九拾四條 二箇ノ不動産ノ間ニ地役ノ外見ノ標示ノ存在スルアリテ其所有者契約上ニ地役ニ關スル合意ヲ定ムルコトナクシテ其不動産中ノ一箇ヲ處分シタル時ハ其地役ハ所有權ヲ移轉シタル不動産ノ爲メ又ハ其不動産ニ對シ能働又ハ所働ニ繼續シテ存在スルモノトス(民六九二、六九三、七〇、一六三八)

第六百九拾五條 地役設立ノ權原ハ期滿效ニ依リ獲得スルコトヲ得サルモノニ關シテハ服務スル不動産ノ所有者ヨリ出テタル地役認定ノ權原ニ非サレハ之ニ代換スルコトヲ得ス(民六九〇、六九一、一三三七)

第六百九拾六條 地役ヲ設定シタル時ハ之ヲ使用スルニ必要ナル諸件ヲ附與シタルモノト看做ス可シ
故ニ他人ノ井泉ニ於テ水ヲ汲ムノ地役ハ已ムヲ得スシテ通行ノ權利ヲ惹起ス(民六九七以下)

○第三節

地役ヲ要求ス可キ不動産所有者ノ權利

第六百九拾七條 地役ヲ要求ス可キ者ハ其地役ヲ使用シ及ヒ之ヲ保存スル

ニ必要ナル總テノ工事ヲ爲スノ權利アリ(民六九八七〇二)

第六百九拾八條 其工事ハ右ノ者ノ費用ニテ爲ス可ク服從シタル不動産ノ所有者ノ費用ニテ爲スモノニ非ス但シ其地役設定ノ權原ニ反對ヲ示シタル時ハ格別ナリトス

第六百九拾九條 服從シタル不動産ノ所有者カ權原ニ依リ地役ノ使用又ハ保存ノ爲メニ必要ナル工事ヲ自己ノ費用ニテ爲スコトヲ責任セラレタル場合ニ於テモ其服從シタル不動産ヲ其地役ヲ要求ス可キ不動産ノ所有者ニ委付スルニ依リ常ニ其責任ヲ免カル、コトヲ得可シ(民六五六)

第七百條 若シ地役設定ノ利益ヲ受クル不動産ヲ分割シタル時ハ其各箇ノ部分ノ爲メニ地役ヲ要求ス可キモノトス然レモ服從シタル不動産ノ景狀ヲ重劇ナラシムルコトナカル可シ

故ニ例ヘハ通行ノ權利ニ關スル時ノ如キ各共同所有者ハ同一ノ場所ニ於テ其權利ヲ執行セザルヲ得ス(民六九四七二四八一五)

第七百壹條 地役ヲ負ヒタル不動産ノ所有者ハ其地役ノ使用ヲ減少シ又ハ

其使用ヲ更ニ不便ナラシム可キ條件ヲ爲スヲ得ス
故ニ其所有者ハ場所ノ景狀ヲ變シ又ハ地役ノ執行ヲ其原來定メシ所ヨリ
異ナリタル場所ニ移スヲ得ス

然レハ其原來ノ所定カ服從シタル不動産ノ所有者ノ爲メ更ニ重劇ノモ
トナリ又ハ其所有者ノ有益ナル修繕ヲ爲スノ妨ケトナル時ハ其所有者ヨ
リ他ノ不動産ノ所有者ニ其權利執行ノ爲メ同シク便益ナル場所ヲ供陳ス
ルヲ得可ク而シテ他ノ不動産ノ所有者ハ之ヲ拒絶スルヲ得サルモ
トス(民六八三、三三二)

第七百貳條 地役ノ權利ヲ有スル者ハ自己ノ方ニ於テ其權原ニ從フニ非サ
レハ之ヲ使用スルヲ得ス但シ其地役ヲ負フ所ノ不動産内ニ於テモ又其
地役ヲ要求ス可キ不動産内ニ於テモ其地役ヲ負フ所ノ不動産ノ景狀ヲ重
劇ナラシム可キ變更ヲ爲スヲ得サルモトス(民五四五六四、六七六八六六九
〇六九一六九六七、一七〇、三一三三)

○第四節 地役ノ消滅スル方法

第七百三條 物件ノ景狀カ最早地役ヲ使用スルヲ得サルニ至ル時ハ其地
役止息ス(民五四五六三、六六五七、一七〇、一七〇、四)

第七百四條 其物件カ地役ヲ使用スルヲ得可キ方法ニ復シタル時ハ其地
役再生ス但シ第七百七條ニ記スル如ク地役ノ消滅ヲ思量セシムルニ充分
ナル時間ノ既ニ經過シタル時ハ格別ナリトス(民七〇、三三二、七七)

第七百五條 地役ヲ要求ス可キ不動産ト之ヲ負フ所ノ不動産ト一人ノ手ニ
併合シタル時ハ總テノ地役消滅ス(民一三〇)

第七百六條 地役ハ三十年間ノ不使用ニ依テ消滅ス(民六四二、六九〇、七〇七、二二
四、二二九、二二三、二三四、二四四、二四六、二六三、二六四、二六五)

第七百七條 其三十年ハ地役ノ種々ノ種類ニ從ヒ不繼續ノ地役ニ關スル時
ハ之ヲ収益スルヲ止息セシ日ヨリ之ヲ起算シ又繼續ノ地役ニ關スル時
ハ其地役ニ反スル所爲ヲ行ヒシ日ヨリ之ヲ起算スルモノトス(民六八八以下)

第七百八條 地役執行ノ仕方ハ地役自カラノ如ク且ツ之ト同一ノ方法ニテ
期滿效ヲ得ルヲ得可シ(民七〇、六七〇、七)

第七百九條 地役設定ノ利益ヲ受クル不動産ノ不分ニテ數人ニ屬スル時ハ其一人ノ収益ハ各人ニ關シテ期滿效ヲ防止ス(民七一〇・二二五二)

第七百拾條 若シ共同所有者中ニ幼者ノ如ク之ニ對シテ期滿效ヲ經過セシムルコトヲ得サル者アル時ハ總テ其他ノ者ノ權利ヲ保存ス可シ(民八八三・二五二)

○第三編

所有權ヲ獲得スル種々ノ方法

○總則(千八百三年四月十九日決定同月二十九日宣令)

第七百拾壹條 財産ノ所有權ハ財産相繼ニ依リ、生存中又ハ遺囑ノ贈與ニ依リ及ヒ義務ノ效ニ依リ之ヲ獲得シ及ヒ移轉スルモノトス(民六九七以下七一八以下八九三以下一〇〇一以下)

第七百拾貳條 所有權ハ亦附添又ハ合同ニ依リ及ヒ期滿效ニ依リ之ヲ獲得スルモノトス(民五四六以下二二一九以下二二七九)

第七百拾三條 所有主アラサル財産ハ國ニ屬ス(民五三九以下七六八)

第七百拾四條 何人ニモ屬セズシテ其使用ノ各人ニ共通ナル物アリ

其物ヲ収益スルノ方法ハ警察ノ法律ヲ以テ之ヲ規定ス(民五三八以下)

第七百拾五條 狩獵シ又ハ捕魚スルノ權能ハ同シク特別ノ法律ヲ以テ之ヲ規定ス(民五四七以下)

第七百拾六條 埋藏財貨ノ所有權ハ自己ノ土地内ニ於テ之ヲ見出シタル者ニ屬ス若シ他人ノ土地内ニ於テ之ヲ見出シタル時ハ其一半ハ之ヲ發見シ

タル者ニ屬シ他ノ一半ハ土地ノ所有者ニ屬ス
埋藏財貨トハ何人タリモ其所有權ヲ証明スルコトヲ得スシテ且ツ純然タル
偶事ノ效ニ依リ發見シタル所ノ隱藏シ又ハ埋没シタル總テノ物ヲ云フ(民
五五二)

第七百拾七條 性質ノ如何ヲ問ハス海ニ投入レタル品物及ヒ海ヨリ打上ケ
タル物品ニ付テノ權利並ニ海岸ニ生スル草木ニ付テノ權利ハ亦特別ノ法
律ヲ以テ之ヲ規定ス

所有主ノ出テ來ラサル遺失物ニ付テモ亦之ニ同シ(民五三九ニ七九ニ二八〇)

○第壹卷 財産相續千八百三年四月十九日決定同月廿九日宣令

○第壹章 財産相續ノ開始及ヒ相續人ノ收據

第七百拾八條 財産相續ハ死去ニ依リ及ヒ准死ニ依テ開始ス

第七百拾九條 財産相續ハ民權ノ享有及ヒ剝奪ノ卷第二章第二節ノ成規ニ
從ヒ准死ヲ受ケタル時ヨリ其准死ニ依テ開始スルモノトス(本條ハ准死ヲ
廢シタル千八百五十四年五月三十一日ノ法律ヲ以テ削除ス)

第七百貳拾條 若シ各自相互ノ財産相續ニ招喚セラレタル數人ノ同一ノ事
故ニテ死亡シ其中何レノ者ノ先ニ死亡セシヤヲ認定スルコトヲ得サル時ハ
實事ノ景況ニ依テ其生殘ノ思量ヲ定ム可ク若シ實事ノ景況ノアラサル時
ハ年齢又ハ性ノ力ニ依テ之ヲ定ム可シ(民一三五〇、一三五二)

第七百貳拾壹條 若シ相共ニ死亡セシ者ノ十五歳以下ナル時ハ最年長者ヲ
以テ生殘リタルモノト思量スヘシ
若シ相共ニ死亡セシ者ノ皆六十歳以上ナル時ハ最年少者ヲ生殘リタルモノ
ト思量ス可シ

若シ或ル者ハ十五歳以下ニシテ他ノ者ハ六十歳以上ナル時ハ十五歳以下
ノ者ヲ生殘リタルモノト思量ス可シ(民一三五〇、一三五二)

第七百貳拾貳條 若シ相共ニ死亡セシ者ノ滿十五歳以上六十歳以下ナル時

ハ其年齢ノ相均シク又ハ其存在スル差ノ一年ニ過キサルニ於テハ常ニ男ヲ以テ生殘リタルモノト思量ス可シ
若シ相共ニ死亡セシ者ノ同性ナル時ハ天然ノ順序ニ於テ財産相續ヲ開始セシムル所ノ生殘ノ思量ヲ許サ、ルヲ得ス故ニ年少者ハ年長者ヨリ後ニ生殘リタルモノト思量ス可シ(民一三五〇、一三五二)

第七百貳拾三條 法律ハ適法ノ相續人ノ間ニ於テ相續スルノ順序ヲ規定ス若シ適法ノ相續人アラサル時ハ其財産ハ私生子ニ移リ次キニ生殘リタル配偶者ニ移ルモノトス若シ又生殘リタル配偶者アラサル時ハ國ニ移ルモノトス(民七三一以下七五六以下七六七七六八)

第七百貳拾四條 適法ノ相續人ハ遺留財産ノ總テノ責任ヲ辨濟スルノ義務ヲ以テ死者ノ財産權利及ヒ訴權ヲ當然收握スルモノトス又私生子、生殘リタル配偶者及ヒ國ハ定マリタル法式ヲ以テ裁判上ニテ其占有ヲ己レニ得セシメサル可カラヌ(民七一八七二七三以下七五〇七五五七七〇以下八〇二以下八七三
一〇〇一七三三三三三)

○**第貳章** 相續スルニ必要ナル分限

第七百貳拾五條 相續スルニハ必ス其財産相續開始ノ時ニ於テ生存スルヲ要トス

故ニ左ノ各人ハ相續スルコト能ハス

- 第一 未タ懐胎セラレサル者
- 第二 生存ス可ク生レサル子
- 第三 准死トナリタル者(民三三五)本項ハ准死ヲ廢シタル千八百五十四年五月三十一日ノ法律ヲ以テ削除ス)

第七百貳拾六條 (千八百十九年七月十四日ノ法律ヲ以テ削除ス)外國人ハ民權ノ享有及ヒ例森ノ卷第十一條ノ成規ニ從ヒ佛蘭西人ノ其外國人ノ本國ニ於テ財産ヲ占有スル其血屬親ニ相續スル所ノ場合ト方法トニ非サレハ自己ノ血屬親ノ外國人タルト佛蘭西人タルトヲ問ハス其血屬親ノ王國(共和國)領地内ニ於テ占有スル所ノ財産ヲ相續スルコトヲ許サス

外國人ノ遺產沒收ノ權利及ヒ其遺產ノ一部ヲ官ニ徵收スル權利ノ廢止ニ關スル千八

第一條 民法第七百二十六條及七百九十二條ハ之ヲ廢ス故ニ外國人ハ王國全部内ニ於テ佛蘭西人ト同一ノ方法ニテ相續シ處分シ及ヒ收受スルノ權利アリ

第二條 外國及ヒ佛蘭西ノ共同相續人ノ間ニ同一ノ遺留財産ヲ分派スル場合ニ於テハ其佛蘭西ノ相續人ハ名義ノ如何ヲ問ハス地方ノ法律及ヒ習慣ニ據リ其斥除セラレタル外國所在ノ財産ノ價額ニ等シキ部分ヲ佛蘭西所在ノ財産中ヨリ先収ス可シ

第七百貳拾七條 左ノ各人ハ相續スルノ無資格タリ而シテ其無資格者トシテ之ヲ財産相續ヨリ斥除ス可シ

- 第一 死者ヲ殺シ又ハ殺サント謀試シタルカ爲メ刑ヲ言渡サレタル者
- 第二 死者ニ對シ認告ナリト裁定セラレタル死刑ニ該レル犯罪告訴ヲ爲シタル者
- 第三 死者ノ殺害ヲ知リテ之ヲ裁判上ニ告發セサリシ成年ノ相續人(民七二九八九八治三〇以下三五八)

第七百貳拾八條 殺害人ノ尊屬親及ヒ卑屬親又ハ共同級ノ姻屬親又ハ其夫

或ハ婦又ハ其兄弟姉妹又ハ其伯叔父母又ハ其姪男姪女ニハ告發ヲ爲サリシトテ以テ之ニ對抗スルコトヲ得ス

第七百貳拾九條 無資格ノ原由ノ爲メニ財産相續ヲ斥除セラレタル相續人ハ財産相續開始ノ時ヨリ以來其收益シタル總テノ果實及ヒ入額ヲ還ス可キモノトス(條一ニ九五二六以下)

第七百三拾條 無資格者ノ子ノ自己ノ權利ニ依リ代相續ノ助ケナクシテ財産相續ニ來ル時ハ其父ノ過失ノ爲メニ斥除セラル、コトナシ然レモ其父ハ如何ナル場合ニ於テモ法律上ニテ子ノ財産ニ付キ父母ニ附與スルコトノ使用収益權ヲ有相續ノ財産ニ付キ得ント求ムルコトヲ得ス(民三八四以下七四四七八七)

第三章 財産相續ノ種々ノ順序

第一節 總則

第七百三拾壹條 財産相續ハ以下ニ定メタル順序ヲ以テ及ヒ以下ニ定メタル規則ニ從ヒ死者ノ子及ヒ卑屬親並ニ其尊屬親及ヒ傍系親ニ附與ス可シ

(民七二三七六八九一〇)

第七百三拾貳條 法律ハ財産相續ヲ規定スルニ付テハ財産ノ性質ヲモ又其
因由ヲモ考察セヌ(民七四五)

第七百三拾三條 總テ尊屬親又ハ傍系親ニ屬ス可キ財産相續ハ之ヲ二箇ノ
平等ノ部分ニ分テ其一部分ハ父方系ノ血屬親ニ屬シ他ノ一部分ハ母方系
ノ血屬親ニ屬ス可シ

母方又ハ父方ノ血屬親ハ父母ヲ同ウスル血屬親ノ爲メニ斥除セララル、
ナシ然レハ其母方又ハ父方ノ血屬親ハ第七百五十二條ニ記スル所ノ外自
己ノ系中ノミニ於テ參加ス可キモノトス○父母ヲ同ウスル血屬親ハ兩系
ニ於テ參加ス可シ

兩系中ノ一方ニ尊屬親モ傍系親モアラサル時ニ非サレハ一系ヨリ他系へ
ノ移傳ヲ爲サ、ルモノトス(民七五五)

第七百三拾四條 父方系ト母方系トノ間ニ此第一ノ分割ヲ爲シタル上ハ最
早其數箇ノ支系ノ間ニ分割ヲ爲スヲナシ而シテ其各系ニ移傳シタル一半

ハ最近級ノ相續人一名又ハ數名ニ屬ス可シ但シ以下ニ記スル如ク代相續
ノ場合ハ格別ナリトス(民七三九以下)

第七百三拾五條 血縁ノ親疎ハ代ノ數ヲ以テ之ヲ定メ其各箇ノ代ヲ名ケテ
一級ト云フ

第七百三拾六條 級ノ相連ナリタルモノハ系ヲ爲シ一ノ者カ他ノ者ヨリ降
下スル數人ノ間ニ級ノ相連ナリタルモノヲ名ケテ直系ト云ヒ又一ノ者カ
他ノ者ヨリ降下セヌシテ共同ノ所出者ヨリ降下スル數人ノ間ニ級ノ相連
ナリタルモノヲ名ケテ傍系ト云フ

直系ヲ分テ卑屬ノ直系及ヒ尊屬ノ直系トス
卑屬ノ直系トハ首者ヲ其己レヨリ降下スル者ト連接セシムル系ヲ云ヒ尊
屬ノ直系トハ人ヲ其尊屬ノ者ト連接セシムル系ヲ云フ

第七百三拾七條 直系ニ於テハ各人ノ間ニアル代ノ數ニ准シテ級ノ數ヲ算
ス故ニ子ハ父ニ對シテハ第一級トシ孫ハ第二級トス又其裏面ヨリ言ヘハ
父及ヒ祖父ヨリ子及ヒ孫ニ對シテ亦之ニ同シ

第七百三拾八條 傍系ニ於テハ血屬親中ノ一人ヨリ共同ノ所出者ニ至リ其所出者ヲ包含セシテ更ニ其所出者ヨリ他ノ血屬親ニ至ル迄ノ代ノ數ニ准シテ其級ヲ算ス
故ニ兄弟ハ第二級トシ伯叔父ト姪男トハ第三級トシ從兄弟ハ第四級トス其餘ハ皆之ニ倣フ

○第七百三拾九條 代相續

第七百三拾九條 代相續トハ法律上ノ一箇ノ假設ニシテ其效ハ代人ヲ被代人ノ地位ト級ト權利トニ入ラシムルニ在リトス(民七四〇以下七八七八八)

第七百四拾條 身屬ノ直系ニ於テハ限リナク代相續ヲ爲スモノトス
死者ノ子カ其以前ニ死去セシ子ノ身屬親ト抗競スル時ト死者ノ總テノ子ノ其死者ヨリ前ニ死去シテ其子ノ身屬親ノ互ニ其級ヲ同ウシ又ハ其級ヲ同ウセサル時トヲ問ハス總テノ場合ニ於テ代相續ヲ許ルスモノトス(民七三〇七三七七三九七四五七五九一〇五二)

第七百四拾壹條 代相續ハ身屬親ノ利益ニ於テ之ヲ爲ス可カラズ兩系中ノ

各箇ニ於ケル最近級ノ者ハ常ニ最遠級ノ者ヲ斥除ス(民七三五以下七四六以下)
第七百四拾貳條 傍系ニ於テハ死者ノ兄弟姉妹ノ子及ヒ身屬親カ其伯叔父母ト抗競シテ其財產相續ニ來ル時ト死者ハ兄弟姉妹ノ皆其以前ニ死去シテ同級又ハ不同級ニ於ケル其身屬親ニ財產相續ヲ移傳スル時トヲ問ハス其死者ノ兄弟姉妹ノ子及ヒ身屬親ノ利益ニ於テ代相續ヲ許ルスモノトス(民七五〇)

第七百四拾三條 代相續ヲ許ル所ノ總テノ場合ニ於テハ幹族毎ニ分派ヲ爲スモノトス若シ同一ノ幹族ニ數箇ノ支族ヲ生シタル時ハ其各箇ノ支族ニ於ケル幹族毎ニ更ニ細分ヲ爲シテ同一ノ支族中ノ各員ハ其間ニ於テ各自ニ分派スルモノトス(民七五三)

第七百四拾四條 生存スル人ニ代相續スルモノニ非ス死去シ又ハ准死トナリシ人ノミニ代相續スルモノトス
某人ノ財產相續ヲ拋棄シタルト雖モ其某人ニ代相續スルコトヲ得可シ(民七八四以下)

○第三節 昇屬親ニ附與シタル財産相續

第七百四拾五條 子又ハ其昇屬親ハ性ノ差別ナク又出生先後ノ差別ナク又假令相異ナレル婚姻ヨリ生レタルト雖モ其父母祖父母又ハ其他ノ昇屬親ニ相續ス

子又ハ其昇屬親ハ總テ皆第一級ニ在リテ且ツ自己ノ權利ヲ以テ招喚セラレタル時ハ各自ニ平等ノ部分ヲ相續シ又子又ハ其昇屬親ノ總テ皆代相續ヲ爲シ或ハ其中ノ幾人カ代相續ヲ爲ス時ハ幹族毎ニ相續ス(民七八七)

○第四節 昇屬親ニ附與シタル財産相續

第七百四拾六條 若シ死者ノ昇屬親兄弟姉妹及ヒ兄弟姉妹ノ昇屬親ヲ遺留セサル時ハ其遺留財産ヲ父方系ノ昇屬親ト母方系ノ昇屬親トノ間ニ一半ツ、分ツ可シ

最近級ニ在ル所ノ昇屬親ハ總テ其他ノ者ヲ斥除シテ自己ノ系ニ屬スル所ノ一半ヲ收取ス
同級ノ昇屬親ハ各自ニ相續スルモノトス(民七三五以下七六五)

第七百四拾七條 昇屬親ヨリ其子又ハ昇屬親ニ贈與シタル物ノ其子又ハ昇

屬親ノ其昇屬親ナクシテ死去シタル時原品ノ儘ニテ其遺留財産中ニ存在スルニ於テハ其昇屬親總テ其他ノ各人ヲ斥除シテ其贈與シタル物ヲ相續ス

若シ右ノ物品ノ所有權ヲ移轉シタル時ハ昇屬親其物品ニ付キ要求スルヲ得可キ代金ヲ收取ス○昇屬親ハ受贈者ノ有スルコトアル可キ取戻ノ訴權ヲモ亦相續ス(民九一五九五一九五二)

第七百四拾八條 昇屬親ナクシテ死去シタル者ノ父母ノ生殘リタル時若シ

其死者ノ兄弟姉妹又ハ兄弟姉妹ノ昇屬親ヲ遺留シタルニ於テハ其遺留財産ヲ平等ナル二箇ノ部分ニ分チテ其一半ノミヲ父母ニ附與ス可シ但シ父母ハ其一半ヲ互ニ平等ニ分派スルモノトス

他ノ一半ハ本章第五節ニ明記シタル如ク兄弟姉妹又ハ其昇屬親ニ屬スルモノトス(民七三三三七五一)

第七百四拾九條 昇屬親ナクシテ死去シタル者ノ兄弟姉妹又ハ兄弟姉妹ノ

昇屬親ヲ遺留シタル場合ニ於テ若シ其父又ハ母ノ既ニ死去セシ時ハ前條ニ從ヒ其父又ハ母ニ移傳ス可キ一部分ヲ本章第五節ニ明記シタル如ク兄弟姉妹又ハ其代人ニ附與スル所ノ一半ニ併合ス(民七五二)

○第五節 傍系ノ財産相續

第七百五拾條 昇屬親ナクシテ死去シタル者ノ父母ノ既ニ死去セシ場合ニ於テハ其兄弟姉妹又ハ兄弟姉妹ノ昇屬親ハ尊屬親及ヒ其他ノ傍系親ヲ斥除シテ財産相續ニ招喚セラル、モノトス

其兄弟姉妹又ハ兄弟姉妹ノ昇屬親ハ本章第二節ニ規定シタル如ク或ハ自己ノ權利ヲ以テ相續シ或ハ代相續ニ依テ相續ス(民七六六)

第七百五拾壹條 昇屬親ナクシテ死去シタル者ノ父母ノ生殘リタル時ハ其兄弟姉妹又ハ兄弟姉妹ノ代人ハ遺留財産ノ一半ノミヲ收取スルヲニ招喚セラル、モノトス○若シ父又ハ母ノ一方ノミノ生殘リタル時ハ兄弟姉妹又ハ兄弟姉妹ノ代人ハ其四分三ヲ收取スルヲニ招喚セラル、モノトス(民七六六)

第七百五拾貳條 前條ノ文面ニ依リ兄弟又ハ姉妹ニ移傳シタル一半又ハ四分三ノ分派ハ其兄弟姉妹ノ皆其父母ヲ同ウスルモノタル時ハ互ニ平等ノ部分ニテ之ヲ爲シ若シ其父又ハ母ヲ異ニスルモノタル時ハ死者ノ父方ト母方トノ兩系ノ間ニ一半ツ、之ヲ分テ同父母ノ者ハ兩系ニ於テ參加シ母方又ハ父方ノ者ハ各々自己ノ系ノミニ於テ參加ス可シ若シ一方ニノ兄弟又ハ姉妹ノアル時ハ其兄弟又ハ姉妹ハ總テ他系ノ其他ノ血屬親ヲ斥除シテ全部ヲ相續ス(民七三三七五〇)

第七百五拾三條 兄弟姉妹又ハ兄弟姉妹ノ昇屬親アラズ及ヒ兩系中ノ一方ニ尊屬親ノアラサル時ハ遺留財産ノ一半ヲ生殘リタル尊屬親ニ附與シ他ノ一半ハ他系ノ最近級ノ血屬親ニ附與ス可シ

若シ同級ノ傍系親ノ間ニ抗競アル時ハ其傍系親ハ各自ニ分派ス(民三三三〇三三三三三三三以下)

第七百五拾四條 前條ノ場合ニ於テハ生殘リタル父又ハ母ハ其所有權ニ於テ相續セサル財産ノ三分二ノ使用収益權ヲ有スルモノトス(民三八四以下)

第七百五拾五條 第十二級以外ノ血屬親ハ相續セス
一系ニ於テ相續ス可キ級ニ於ケル血屬親ノアラサル時ハ他系ノ血屬親ハ全部ニ付キ相續ス(民七三五)

○第四章 不規則ノ財産相續

○第壹節

父又ハ母ノ財産ニ付テノ私生子ノ權利及ヒ身屬親ナクシテ死去シタル私生子ノ財産相續

第七百五拾六條 私生子ハ相續人ニアラス依テ法律ハ私生子ノ法ニ適シテ認定セラレタル時ニ非サレハ其死去シタル父又ハ母ノ財産ニ付キ私生子ニ權利ヲ附與セス○法律ハ私生子ノ父又ハ母ノ血屬親ノ財産ニ付キ私生子ニ一箇ノ權利ヲモ附與セス(民三三四以下、七三三、七三六以下、九一三、九二二、九三三)
第七百五拾七條 死去シタル父又ハ母ノ財産ニ付テノ私生子ノ權利ハ左ノ如ク之ヲ規定ス

若シ父又ハ母カ適法ノ身屬親ヲ遺留シタル時ハ右ノ權利ハ私生子ノ若シ適法ノモノタルニ於テハ其得タル可キ相續部分ノ三分一タリ又父又ハ母

カ身屬親ヲ遺留セスシテ身屬親又ハ兄弟或ハ姉妹ヲ遺留シタル時ハ其一半タリ又父又ハ母カ身屬親ヲモ身屬親ヲモ並ニ兄弟ヲモ姉妹ヲモ遺留セサル時ハ其四分三タリ(民七四二、七六二、九〇八、九一三)

第七百五拾八條 私生子ノ父又ハ母カ相續ス可キ級ニ於ケル血屬親ヲ遺留セサル時ハ私生子其財産ノ全部ニ付キ權利ヲ有スルモノトス(民七二、三七六、七六九以下、九〇八)

第七百五拾九條 私生子ノ既ニ死去シタル場合ニ於テハ其子又ハ身屬親ハ前數條ニ定メタル權利ヲ得ント要求スルヲ得可シ(民七三、九七、五六)

第七百六拾條 私生子又ハ其身屬親ハ財産相續ノ開始シタル父又ハ母ヨリ收受セシモノニシテ本卷第六章第二節ニ定メタル規則ニ從ヒ返還ヲ爲ス可キ諸件ヲ其己レニ得ント稱言スルノ權利アルモノニ充テ用フ可キモノトス(民八四三以下、八五二、八五九、九〇八)

第七百六拾壹條 若シ私生子又ハ其身屬親カ其父又ハ母ノ生存中ニ前數條ニ依リ己レノ得可キモノ、一半ヲ收受シ而シテ其父又ハ母ノ方ニ於テ私

生子ノ所得ヲ其附與シタル部分ニ減セントスルノ意思タル旨ヲ明カニ申
述シ置キタル時ハ私生子又ハ其卑屬親ヨリ總テ要求ヲ爲スコトヲ禁ス
其部分カ私生子ノ所得ト爲ス可キモノ、一半以下タル場合ニ於テハ私生
子ハ其一半ヲ補完スルニ必要ナル追加ノミヲ得ント求ムルコトヲ得可キモ
ノトス(民七五七五七九一三)

第七百六拾貳條 第七百五十七條及ヒ第七百五十八條ノ成規ハ姦通又ハ亂
倫ノ子ニ適用ス可カラサルモノトス

法律ハ姦通又ハ亂倫ノ子ニ養料ノミヲ給與ス(民二〇八三三三五六三)

第七百六拾三條 其養料ハ父又ハ母ノ資産ト適法ノ相續人ノ負擔及ヒ分限
トニ從ヒ之ヲ規定ス可シ(民二〇八以下)

第七百六拾四條 若シ姦通又ハ亂倫ノ子ノ父又ハ母ノ其子ニ工藝ヲ學ハシ
メタル時又ハ父母中ノ一方ヨリ其生存中ニ其子ニ養料ヲ確保シタル時ハ
其子ハ父又ハ母ノ遺留財産ニ對シテ毫モ要求ヲ起スコトヲ得ス

第七百六拾五條 卑屬親ナクシテ死去シタル私生子ノ遺留財産ハ之ヲ認定

シタル父又ハ母ニ移傳ス可シ若シ父母雙方共ニ私生子ヲ認定シタル時ハ
其雙方ニ一半ツ、之ヲ移傳ス可シ(民三三四七四七六六)

第七百六拾六條 私生子ノ父母ノ既ニ死去シタル場合ニ於テ其私生子ノ父
母ヨリ收受セシ財産ノ原品ノ儘ニテ遺留財産中ニ存在スル時ハ其財産ハ
適法ノ兄弟又ハ姉妹ニ移ルモノトシ又其取戻ノ訴權ノ存在スル時ハ其訴
權又ハ其財産ノ所有權ヲ移轉シテ其代金ヲ未タ受取ラサル時ハ其代金モ
〔亦同シ〕適法ノ兄弟及ヒ姉妹ニ戻ルモノトス○總テ其他ノ財産ハ私生ノ
兄弟及ヒ姉妹又ハ其兄弟姉妹ノ卑屬親ニ移ルモノトス(民七五〇以下)

○**第貳節** 生殘リタル配偶者及ヒ國ノ權利

第七百六拾七條 若シ死者ノ相續ス可キ級ニ於ケル血屬親ヲモ又私生子ヲ
モ遺留セサル時ハ其遺留財産ハ後ニ生殘ル所ノ離婚セラレサル配偶者ニ
屬ス(民七二三)

第七百六拾八條 後ニ生殘ル配偶者アラサル時ハ其遺留財産ヲ國ニ獲得ス
可シ(民一三八五三九七一三七二三四七三二七六七七六九八一、八九五九六七)

第七百六拾九條 遺留財産ニ付キ權利ヲ稱言スル生殘リタル配偶者及ヒ國領財産管理局ハ目錄ノ利益ヲ以テ財産相續ヲ受諾スル爲メニ定メタル法式ヲ以テ封印ヲ附セシメ及ヒ目錄ヲ作ラシム可シ(民七九四四九〇七以下九四三以下)

第七百七拾條 生殘リタル配偶者及ヒ國領財産管理局ハ財産相續ノ開始シタル地ヲ管轄スル始審裁判所ニ占有ノ送致ヲ請求セサルヲ得ス○其裁判所ハ常例ノ法式ヲ以テ三次ノ公告及ヒ貼附ヲ爲シ及ヒ檢事ノ申立ヲ聽キタル後ニ非サレハ右ノ請求ニ付キ裁定スルヲ得ス(民五九八三)

第七百七拾壹條 生殘リタル配偶者ハ右ノ外助産ノ益用ヲ爲シ又ハ三年ノ時間ニ死者ノ相續人ノ出テ來ル場合ニ於テハ其助産ノ返還ヲ確保スルニ充分ナル保証人ヲ立ツ可シ但シ右ノ期限ヲ過ケル時ハ其保証人ノ義務ヲ免除ス可キモノトス(民八〇五二〇四〇以下五九一七以下九四五以下)

第七百七拾貳條 生殘リタル配偶者又ハ國領財産管理局ノ其各自ノ爲メニ定メラレタル法式ヲ履行セサル場合ニ於テ若シ相續人ノ出テ來ル時ハ其

相續人ニ對シテ損害賠償ヲ言渡サルハコアル可シ(民一一四九一三六)

第七百七拾三條 第七百六十九條第七百七十條第七百七十一條第七百七十二條ノ成規ハ血屬親ノアラサル時ニ於テ招喚セラレタル私生子ニ通シ用フ可キモノトス(民七五八)

第五章 財産相續ノ受諾及ヒ棄却

第一節 受諾

第七百七拾四條 財産相續ハ單純ニ之ヲ受諾シ又ハ目錄ノ利益ヲ以テ之ヲ受諾スルヲ得可シ(民七九〇七九三以下一〇四三)

第七百七拾五條 何人ニ限ラヌ己レノ受ク可キモノトナリタル財産相續ヲ受諾スルニ及ハス(民七八四七九五)

第七百七拾六條 婚姻シタル婦ハ婚姻ノ卷第六章ノ成規ニ從ヒ其夫又ハ裁判所ノ許可ヲ受クルニ非サレハ財産相續ヲ有效ニ受諾スルヲ得ス
幼者及ヒ治産禁ヲ受ケタル者ノ受ク可キ財産相續ハ幼年後見及ヒ後見ノ免脱ノ卷ノ成規ニ從フニ非サレハ有效ニ之ヲ受諾スルヲ得ス(民二一七四)

六一以下)

第七百七拾七條 受諾ノ效ハ財産相續開始ノ日ニ溯及スルモノトス(民七二四、七八五七九〇八八三)

第七百七拾八條 受諾ハ明諾又ハ黙諾タルヲ得可シ但シ公正ノ証書又ハ私シノ証書ニ於テ相續人タルノ名義又ハ分限ヲ取リタル時ハ明諾ナリトシ又相續人必ス其受諾スルノ意思アルヲ推測ス可クシテ其相續人タルノ分限ニ非サレハ爲ス可キノ權利ナキ一箇ノ所爲ヲ行ヒタル時ハ黙諾ナリトス(民七七九七八九以下七九四)

第七百七拾九條 純然保存ノ爲メノ所爲監視ノ所爲及ヒ假リノ管理ノ所爲ハ遺產受諾ノ所爲ナリトセス但シ其所爲ニ於テ相續人タルノ名義又ハ分限ヲ取リタル時ハ格別ナリトス(民七九六)

第七百八拾條 共同相續人中ノ一人ヨリ外人若クハ其共同相續人ノ全員若クハ其中ノ或者ニ自己ノ相續權利ヲ贈與シ賣渡シ又ハ轉移シタル時ハ其一人ノ方ニ於テ財産相續ノ受諾ヲ惹起ス

又第一ニ相續人中ノ一人ヨリ自己ノ共同相續人中ノ一人又ハ數人ノ利益ニ於テ假令無償タリト抛棄ヲ爲シタル時ハ亦右ニ同シ
又第二ニ相續人中ノ一人ヨリ差別ナク其共同相續人全員ノ利益ニ於テ抛棄ヲ爲シタルト雖モ若シ其抛棄ノ代金ヲ收受シタル時ハ亦右ニ同シ(民七七八七五至一六九六)

第七百八拾壹條 若シ財産相續ヲ受ク可キ者ノ之ヲ棄却スルヲナク又ハ之ヲ明諾或ハ黙諾シタルヲナクシテ死去セシ時ハ其者ノ相續人其者ノ權利ニ依テ之ヲ受諾シ又ハ之ヲ棄却スルヲ得可シ(民七二四七八四七九〇)

第七百八拾貳條 若シ右ノ相續人數名ノ其財産相續ヲ受諾シ又ハ之ヲ棄却スルニ付ヤ相協議セサル時ハ目錄ノ利益ヲ以テ之ヲ受諾セサル可カラス(民七九三以下)

第七百八拾三條 成年者ハ人ヨリ己レニ對シテ行ヒタル詐欺ニ依リ財産相續ノ受諾ヲ爲シタル場合ニ非サレハ其明黙ノ受諾ヲ取消サント求ムルヲ得ス又成年者ハ受諾ノ時ニ知レカリシ遺囑書ノ發見ニ依リ遺留財産ノ

吸収セラレ又ハ一半以上減少シタル場合ノミノ外ハ決シテ損失ヲ口實トシテ要求スルコトヲ得ス(民七七七七四七九ニ以下七九四八〇二二一〇九一一一六一二五五三三〇三三三〇五三三三三三三七七一四五五)

○第貳節 財産相續ノ拋棄

第七百八拾四條 財産相續ノ拋棄ハ之ヲ思量ス可カラズ其拋棄ハ財産相續ノ開始シタル郡ノ始審裁判所ノ書記局ニ於テ特ニ設ケタル特別ノ簿冊ニ記載スルニ非サレハ最早之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(民七八〇七八三七八五七九〇六八八一〇四三昨九九七)

第七百八拾五條 拋棄シタル相續人ハ嘗テ相續人タラサリシモノト看做ス可シ(民七七七七七七八四五一二六七)

第七百八拾六條 拋棄者ノ分ケ前ハ其共同相續人ノ分ケ前ニ添加ス可シ若シ其拋棄者ノ唯一人ノミタル時ハ次キノ級ニ其拋棄者ノ分ケ前ヲ移傳ス可シ(民七八〇七八二七八五二〇四四二〇九三一一三〇一三九五)

第七百八拾七條 拋棄シタル相續人ノ代相續ニ依テ相續ヲ爲ス可カラズ若

シ拋棄者カ其級ニ於ケル唯一人ノ相續人タル時又ハ其共同相續人全員ノ拋棄スル時ハ其子ハ自己ノ權利ヲ以テ來リ各自ニ相續スルモノトス(民七四七七八六)

第七百八拾八條 若シ相續人ノ債主カ其相續人ノ拋棄ニ依リ自己ノ權利ニ損害ヲ被ル時ハ其債主自己ノ負債者ニ代ハリテ其負債者ノ權利ニ依リ財産相續ヲ受諾スルコトヲ裁判上ニテ許可セシムルコトヲ得可シ

此場合ニ於テハ債主ノ利益ニ於テ且ツ其債權ノ額ノミニ充ツル迄ノ外其拋棄ヲ取消スコトナシ但シ其拋棄シタル相續人ノ利益ニ於テ其拋棄ヲ取消サハルモノトス(民一一六七)

第七百八拾九條 財産相續ヲ受諾シ又ハ棄却スルノ權能ハ不動産權利ノ最モ長キ期滿效ノ爲メニ必要ナル時間ノ經過ニ依リ期滿效ヲ得ルモノトス(民七七三〇三三六三)

第七百九拾條 受諾スル權利ノ期滿效カ其拋棄セシ相續人ニ對シテ獲得セラレサル間ハ他ノ相續人ノ既ニ其財産相續ヲ受諾セサル時ニ於テ右ノ相

續人ハ猶其財産相續ヲ受諾スルノ權能ヲ有スルモノトス然レハ期滿效ニ依リ若クハ相續人ノ虧缺シタル財産相續ノ管財人ト有效ニ爲シタル所爲ニ依リ其遺留財産ニ付キ第三ノ人ノ獲得スルコトアル可キ權利ト相觸ルコトナカル可シ(民四六二。四三三二六二)

第七百九拾壹條 婚姻ノ契約ニ依ルト雖モ生存スル人ノ財産相續ヲ拋棄スルコトヲ得ス又其財産相續ニ付キ有スルコトアル可キ未定ノ權利ヲ移轉スルコトヲ得ス(民一二五二二八七一。八三二。九七一三三。一五三三三。四一三五三一三八。九一三九五。一五九九一六。)

第七百九拾貳條 遺留財産中ノ品物ヲ竊取シ又ハ隱匿シタル相續人ハ財産相續ヲ拋棄スルノ權能ヲ失ヒ其相續人ハ竊取シ又ハ隱匿シタル物品ニ付キ毫モ分前ヲ得ント稱言スルコトヲ得スシテ其拋棄ニ拘ハラヌ單純ナル相續人タル可シ(民八。二二四六。一四七七刑三九三八。)

第三節 目錄ノ利益其效及ヒ目錄ノ利益アル相續人ノ義務
第七百九拾三條 相續人目錄ノ利益ヲ以テスルニ非サレハ相續人タルノ分

限ヲ取ラサルコトヲ欲スル旨ノ申述ハ財産相續ノ開始シタル郡ノ民事始審裁判所ノ書記局ニ之ヲ爲サ、ル可カラヌ但シ其申述ハ拋棄ノ證書ヲ記載スルノ用ニ供シタル簿冊ニ之ヲ記入セサルヲ得サルモノトス(民一〇。九一。一二九九九七)

第七百九拾四條 右ノ申述ハ其前又ハ其後ニ訴訟法ニ規定シタル法式ニ從ヒ且ツ以下ニ定ムル所ノ期限内ニ遺留財産ノ賦實正確ナル目錄ヲ作りタルニ非サレハ其效ナシトス(民七九二八。一八九四一以下)

第七百九拾五條 相續人ハ財産相續開始ノ日ヨリ起算シテ目錄ヲ作ル爲メ三月ノ猶豫ヲ有スルモノトス

相續人ハ右ノ外其受諾又ハ其拋棄ヲ熟考スル爲メ四十日ノ猶豫ヲ有スルモノトス但シ其四十日ノ猶豫ハ目錄ヲ作ル爲メニ附與シタル三月ノ猶豫ノ終リシ日ヨリ經過スルコトヲ始メ又三月ニ至ラサル前ニ目錄ヲ終了シタル時ハ其目錄終成ノ日ヨリ經過スルコトヲ始ムルモノトス(民七九七以下八〇。一七四)

第七百九拾六條 若シ然レハ遺留財産中ニ損取シ易ク又ハ保存スルニ費用ヲ要スル物品ノ存在スル時ハ相續人其相續ヲ爲シ得可キ者タルノ分限ニ依リ裁判所ヲシテ右品物ノ賣拂ニ取掛ルヲ許可セシムルヲ得可シ但シ之レカ爲メ其相續人ノ方ニ於テ受諾シタリト推定スルヲ得サルモノトス

其賣拂ハ訴訟法ニ規定シタル貼附及ヒ公告ノ後公ケノ役員ニ於テ之ヲ爲サ、ル可カラズ(附九四五以下九八六以下)

第七百九拾七條 目錄ヲ作り及ヒ熟考ヲ爲ス爲メノ猶豫ノ期限ノ間ハ相續人ニ分限ヲ取ルヲ強ユルヲ得ス又其相續人ニ對シテ裁判言渡ヲ受ケシムルヲ得ス若シ其相續人ノ右期限ノ終ル時又ハ其前ニ拋棄スル時ハ其時期ニ至ル迄其相續人ノ適法ニ爲シタル費用ハ遺留財産ノ責任タリ(民七九五三三五九附一七四)

第七百九拾八條 前ニ記シタル猶豫期限ノ終リシ後相續人已レニ起訴ヲ受クル場合ニ於テハ更ニ新ナル猶豫期限ヲ請求スルヲ得可シ但シ其爭

訟ヲ牽轄スル裁判所ニ於テハ景況ニ從ヒ其新ナル猶豫期限ヲ附與シ又ハ之ヲ否拒スルモノトス(民八〇〇一四五八附一七四)

第七百九拾九條 前條ノ場合ニ於ケル起訴ノ費用ハ相續人死去ノ事ヲ知ラサル旨ヲ證明シ又ハ財産所在地ノ理由ニ依リ若クハ發生シタル爭訟ノ理由ニ依リ猶豫ノ不充分ナル旨ヲ證明スル時ハ遺留財産ノ責任タル可ク又右ノ旨ヲ證明セサル時ハ其費用ハ相續人一身ノ責任タリ(民七九七)

第八百條 然レハ相續人ハ第七百九十五條ニ依リ附與セラレタル猶豫期限ノ終リシ後又然ノミナラス第七百九十八條ニ從ヒ裁判官ヨリ附與セラレタル猶豫期限ノ終リシ後ト雖ヒ猶目錄ヲ作りテ目錄ノ利益ヲ受クル相續人トナルノ權能ヲ保存スルモノトス但シ其相續人ノ他ニ相續人タルノ所爲ヲ行ヒ又ハ單純ナル相續人タルノ分限ヲ以テ其相續人ニ言渡シタル所ノ裁定事件ノカヲ得タル裁判ノ其相續人ニ對シテ存在スル時ハ格別ナリトス(民七九三以下一三五〇以下附一七四)

第八百壹條 隱匿ノ罪アリ又ハ故意ヲ以テ且ツ惡意ニテ遺留財産ノ品物ヲ

目錄中ニ包含セシメタル相續人ハ目錄ノ利益ヲ失フモノトス(民七九三七九
四一四六〇一四七七七九八八)

第八百貳條

目錄ノ利益ノ效ハ其相續人ニ左ノ利益ヲ附與スルニ在リトス

第一 其相續人ノ收取シタル財産ノ價額ニ充ツル迄ノ外遺留財産ノ負
價ノ辨濟ヲ擔任セス又然ノミナラス總テノ遺留財産ヲ價主及ヒ受遺
囑者ニ委棄スルニ依リ負債辨濟ノ實ヲ免カル、ヲ得ル事

第二 自己ノ一身上ノ財産ヲ遺留財産ト混同セス且ツ遺留財産ニ對シ
自己ノ債權ノ辨濟ヲ得ント求ムルノ權利ヲ保存スル事(民四五七四六一七
七四七八三八五七六七五三二五八)

第八百三條

目錄ノ利益ヲ受クル相續人ハ遺留財産ヲ管理スルノ任アリテ

且ツ價主及ヒ受遺囑者ニ其管理ノ計算ヲ爲サ、ルヲ得ス
右ノ相續人ハ其計算書ヲ差出スコトニ付キ遲滞ニ付セラレタル後其義務ヲ
履行セサル時ニ非サレハ自己ノ一身上ノ財産ニ付キ強制セラル、コトナカ
ル可シ

其計算書清完ノ後ハ右ノ相續人ハ其殘額負債者タル金額ノミニ充ツル迄

ノ外自己ノ一身上ノ財産ニ付キ強制セラル、コトナカル可シ(民八〇六八〇八八
七三七八五二一三〇二八九九二九〇一三三三三二〇四四五二七五三三九四九九五)

第八百四條

右ノ相續人ハ其任セラレタル管理ニ於ケル重劇ノ過失ノミヲ

擔任ス可キモノトス(民一一三七)

第八百五條

右ノ相續人ハ常例ノ貼附及ヒ公告ノ後公ケノ役員ノ紹介ヲ以

テ釋賣ニ爲スニ非サレハ遺留財産中ノ動産ヲ賣拂フコトヲ得ス

若シ右ノ相續人其動産ヲ原品ノ儘ニテ差出ス時ハ自己ノ懈怠ニ依テ生セ
シメタル減價又ハ損壞ノミヲ擔任ス可キモノトス(民七九六九四四九四五以下九八六
以下)

第八百六條

右ノ相續人ハ訴訟法ニ定メタル法式ニ依ルニ非サレハ不動産

ヲ賣ルコトヲ得ス但シ其相續人ハ申出テタル書入質權アル價主ニ其不動産
ノ代金ヲ委付ス可キモノトス(民九八七)

第八百七條

右ノ相續人ハ價主又ハ其他ノ關係人ヨリ要求ヲ受クル時ハ目

録中ニ包含シタル動産ノ價額ト不動産ノ代金中ニテ書入質權アル債主ニ
委付セサル部分トノ良好ニシテ且ツ資カアル保証人ヲ立ツ可キモノトス
若シ其保証人ヲ立テサル時ハ動産ヲ賣却ヒテ其代金ト不動産ノ代金ノ委
付セサル部分トヲ遺留財産ノ責任ノ辨償ニ用フル爲メ之ヲ附託ス可シ(民
二〇四。附五一七九九ニ以下)

第八百八條 若シ拂渡ヲ差止ムル債主アル時ハ目錄ノ利益ヲ受クル相續人
ハ裁判官ノ規定シタル順序及ヒ方法ニ從フニ非サレハ辨済スルヲ得ス
若シ拂渡ヲ差止ムル債主アラサル時ハ右ノ相續人ハ債主及ヒ受遺囑者ノ
申出テ次第之ニ辨済スルモノトス(民八〇九。二〇九三。二一六六。附六五七五。一七五五
九九〇。)

第八百九條 拂渡ヲ差止メサル債主カ計算書ノ清完及ヒ殘額辨済ノ後ニ至
リテ申出ツル時ハ受遺囑者ノミニ對シテ償還ノ請求權ヲ執行スルヲ得
可キモノトス

右ノ中何レノ場合ニ於テモ其償還ノ請求權ハ計算書ノ清完及ヒ殘額辨済

ノ日ヨリ起算シ三年ノ經過ヲ以テ期滿效ヲ得ルモノトス(民一〇二〇。一〇二四。
附九九五)

第八百拾條 封印ヲ附シタル時ハ其封印ノ費用並ニ目錄及ヒ計算書ノ費用
ハ遺留財産ノ責任タリ(民七九七。二一〇一)

○第四節 相續人ノ虧缺シタル財産相續

第八百拾壹條 若シ目錄ヲ作り及ヒ熟考スル爲メノ猶豫期限ノ終リシ後財
産相續ヲ要求スル者ノ出テ來ラス又ハ人ノ知ル所ノ相續人アラズ又ハ人
ノ知ル所ノ相續人ノ其財産相續ヲ拋棄シタル時ハ其財産相續ハ相續人ノ
虧缺シタルモノト看做ス可シ(民七八四。七九三。七九五。二二五八。附九九八)

第八百拾貳條 其財産相續ノ開始シタル郡ノ始審裁判所ハ關係人ノ請求ニ
依リ又ハ檢事ノ求ニ依リ管財人ヲ任ス可シ(民一一〇。附九九八以下)

第八百拾三條 相續人ノ虧缺シタル財産相續ノ管財人ハ先ツ目錄ヲ以テ其
遺留財産ノ景狀ヲ証明セシム可シ又其管財人ハ遺留財産ノ權利ヲ執行シ
及ヒ之ヲ請求シ又遺留財産ニ對シテ爲ス所ノ請求ニ答辨シ又遺留財産中

ニアル金圓及ヒ賣拂ヒタル動産又ハ不動産ノ代價ヨリ得タル金額ヲ權利
保存ノ爲メ間税局収税員ノ金庫ニ拂入レシムルノ責任ト計算ヲ受ク可キ
者ニ其計算ヲ爲スノ責任トヲ以テ管理スルモノトス(昨九四一以下一〇〇二)

第八百拾四條 目錄ノ利益ヲ受クル相続人ノ方ニ於テ作ル可キ目錄ノ法式
管理ノ方法及ヒ其計算ニ關スル本章第三節ノ成規ハ右ノ外相続人ノ虧缺
シタル財産相續ノ管財人ニ通シ用フ可キモノトス(民七九四八〇三以下八〇八以
下昨一〇〇二)

○第六章 分派及ヒ返還

○第壹節 分派ノ訴權及ヒ其法式

第八百拾五條 何人ニ限ラス不分ニ留マリ在ルコトニ之ヲ強制スルヲ得ス分
派ハ反對ノ禁止及ヒ合意ニ拘ハラヌ常ニ之ヲ要求スルコトヲ得可シ
然レハ制限セラレタル時間分派ヲ停止スルコトヲ合意スルヲ得可シ但シ其
合意ハ五年以上羈勒スルモノタルコトヲ得スト雖モ之ヲ更新スルコトヲ得可
シ(民五七八六二二六八六七二四八二七二一六六一七七八一一八四一二二六二一八七一昨九六六)

第八百拾六條 共同相續人中一人カ遺留財産中ノ一部分ヲ別ニ收益シタル
時ト雖モ分派ヲ求ムルコトヲ得可シ但シ分派ノ所爲アリタル時又ハ期滿效
ヲ獲得スルニ充分ナル占有アリタル時ハ格別ナリトス(民八一四八一五八一八
一三三八一八一八二二二二八三三三九三三六二二四四三二六二)

第八百拾七條 分派ノ訴權ハ幼年又ハ治産禁ヲ受ケタル共同相續人ニ關シ
テハ特ニ親屬會議ヨリ許可セラレタル其後見人ヨリ之ヲ執行スルコトヲ得
可シ

失踪ノ共同相續人ニ關シテハ右ノ訴權ハ占有ヲ得タル血屬親ニ屬スルモ
ノトス(民一一三一二五四六五八三八八八三昨九六八以下)

第八百拾八條 夫ハ婦ノ受ク可キ動産物又ハ不動産物ニシテ共通財産中ニ
加入スル所ノモノ、分派ヲ婦ノ助成ナクシテ要求スルコトヲ得可シ又共通
財産中ニ加入セサル物品ニ關シテハ夫ハ婦ノ助成ナクシテ其分派ヲ要求
スルコトヲ得ス唯夫ハ婦ノ財産ヲ收益スルノ權利ヲ有スルニ於テハ假リノ
分派ヲ求ムルコトヲ得可キノミトス